

授 業 内 容

2021年度

横浜女子短期大学

目 次

教 養 科 目

§ 1. 教養科目

キリスト教の精神Ⅰ	1・2
キリスト教の精神Ⅱ	3・4
教養演習	5・6
保育総合演習	7・8
哲学	9・10
日本国憲法	11・12
心理学	13
生物学	未開講
情報機器の操作	14

§ 2. 外国語

英語Ⅰ	15・16
英語Ⅱ	17・18

§ 3. 保健体育

体育実技	19・20
体育講義	21・22

専 門 教 育 科 目

§ 4. 専門教育科目

保育原理	23・24
教育原理	25・26
保育者論	27・28
カリキュラム論	29・30
特別支援教育の基礎と方法	31・32
障害児保育	33・34
社会福祉	35・36
子ども家庭福祉	37・38
子ども家庭支援論	39・40
子育て支援	41・42
社会的養護Ⅰ	43・44
社会的養護Ⅱ	45・46
子どもの保健	47・48
子どもの健康と安全	49・50
子どもの食と栄養A	51

子どもの食と栄養B	52・53
乳児保育Ⅰ	54・55
乳児保育Ⅱ	56・57
保育の心理学（発達）	58・59
保育の心理学（学習）	60・61
子ども家庭支援の心理学	62・63
子どもの理解と援助	64・65
教育相談	66・67
保育内容総論	68・69
保育内容研究	70・71
健康	72・73
健康の指導法	74・75
人間関係	76・77
人間関係の指導法	78・79
環境	80・81
環境の指導法	82・83
言葉	84・85
言葉の指導法	86・87
音楽表現	88・89
音楽表現の指導法	90・91
造形表現	92・93
造形表現の指導法	94・95
子どもの生活と遊びⅠ	96・97
子どもの生活と遊びⅡ	98・99
子どもの生活と遊びⅢ	100・101
保育方法論	102・103
保育環境構成技術（音楽）Ⅰ	104・105
保育環境構成技術（音楽）Ⅱ	106・107
保育・教職実践演習（幼稚園）	108・109
保育実習指導Ⅰ・保育実習Ⅰ	110・111
保育実習指導・保育実習Ⅱ	112・113
保育実習指導・保育実習Ⅲ	114・115
教育実習指導・教育実習	116・117

カリキュラムマップ

標準的履修モデル（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状所得用の履修パターン）1年次用

科目コード	科目の名称	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
L1-1※	キリスト教の精神Ⅰ（卒業必修）	1年通年	1年通年		
L2-1※	教養演習（卒業必修）	1年通年	1年通年		
L5-1※	英語Ⅰ（卒業必修）	1年通年	1年通年		
L6-1※	体育実技（卒業必修）	1年通年	1年通年		
D5-1	保育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-1	保育実習Ⅰ	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-3(1・2)	教育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-3	教育実習	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D4-1	保育環境構成技術（音楽）Ⅰ	1年通年	1年通年		
L3-1	哲学	1年前期	3科目中 1科目選択必修		
L3-2	心理学	1年前期			
L3-3	生物学	1年前期			
L4-1	日本国憲法（幼免必修）	1年前期			
L4-2	情報機器の操作（幼免必修）	1年前期or後期	1年前期or後期		
L6-2※	体育講義(卒業必修)	1年前期			
D1-1※	保育原理（卒業必修）	1年前期			
D1-2	教育原理	1年前期			
D1-4※	社会福祉（卒業必修）	1年前期			
D1-5※	子ども家庭福祉（卒業必修）	1年前期			
D3-5※	子どもの保健（卒業必修）	1年前期			
D3-9※	乳児保育Ⅰ（卒業必修）	1年前期			
D3-11※	保育の心理学（発達）（卒業必修）	1年前期			
D4-5※	音楽表現（卒業必修）	1年前期			
D4-7※	造形表現（卒業必修）	1年前期			
D4-16※	人間関係（卒業必修）	1年前期			
D4-18※	環境（卒業必修）	1年前期			
D4-20※	言葉（卒業必修）	1年前期			
D1-6※	社会的養護Ⅰ（卒業必修）		1年後期		
D2-1	子ども家庭支援論		1年後期		
D3-1	カリキュラム論		1年後期		
D3-7※	子どもの食と栄養A（卒業必修）		1年後期		
D3-10	乳児保育Ⅱ		1年後期		
D3-12	保育の心理学（学習）		1年後期		
D3-14	子どもの理解と援助		1年後期		
D4-6	音楽表現の指導法		1年後期		
D4-8	造形表現の指導法		1年後期		
D4-12	保育内容総論		1年後期		
D4-14※	健康（卒業必修）		1年後期		
D4-17	人間関係の指導法		1年後期		
D4-19	環境の指導法		1年後期		
D4-21	言葉の指導法		1年後期		

標準的履修モデル（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状所得用の履修パターン）2年次用

科目コード	科目の名称	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
L1-2※	キリスト教の精神Ⅱ（卒業必修）			2年通年	2年通年
L2-2※	保育総合演習（卒業必修）			2年通年	2年通年
L5-2	英語Ⅱ			2年通年	2年通年
D5-1	保育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-1	保育実習Ⅰ	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-3(1・2)	教育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-3	教育実習	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-2	保育実習指導Ⅰ（2年次）			2年通年	2年通年
D6-2A/2B	保育実習Ⅱ／保育実習Ⅲ	どちらか1科目を選択		2年通年	2年通年
D3-3	特別支援教育の基礎と方法			2年通年	2年通年
D3-4	障害児保育			2年通年	2年通年
D4-2	保育環境構成技術（音楽）Ⅱ			2年通年	2年通年
D1-3	保育者論			2年前期	
D2-3	社会的養護Ⅱ			2年前期	
D2-4	子どもの家庭支援の心理学			2年前期	
D3-6	子どもの健康と安全			2年前期	
D3-8	子どもの食と栄養B			2年前期	
D4-9	子どもの生活と遊びⅠ			2年前期	
D4-11	子どもの生活と遊びⅢ			2年前期	
D4-13	保育内容研究（※通年科目）				2年後期（2コマ）
D2-2	子育て支援				2年後期
D3-2	保育方法論				2年後期
D3-13	教育相談				2年後期
D4-10	子どもの生活と遊びⅡ				2年後期
D4-15	健康の指導法				2年後期
D4-22	保育・教職実践演習（幼稚園）				2年後期

各科目と関連するディプロマポリシーの主な領域

科目コード	教養科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
L1-1	キリスト教の精神Ⅰ	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力
L1-2	キリスト教の精神Ⅱ	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力
L2-1	教養演習	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力 D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能 D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L2-2	保育総合演習	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力 D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能 D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L3-1	哲学	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
L3-2	心理学	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
L3-3	生物学	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L4-1	日本国憲法	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
L4-2	情報機器の操作	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

科目コード	教養科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
L5-1	英語Ⅰ	DPⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) DPⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L5-2	英語Ⅱ	DPⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) DPⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L6-1	体育実技	DPⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) DPⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L6-2	体育講義	DPⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) DPⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

※学生便覧P4の卒業認定・学位授与の方針：ディプロマポリシー「どのような人材を育成するのか」を参照のこと。授業内容に表記する「DP」は、「ディプロマポリシー」を略記したもの。

教養科目に関しては、ディプロマポリシーのⅠ、人として求められる基礎的資質・能力の育成に加えて、その学習成果が、Ⅱ、保育者となるために必要な資質・能力のどの領域と主に結びつくものであるかを示している。

科目コード	専門教育科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
D1-1	保育原理	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
D1-2	教育原理	
D1-3	保育者論	
D1-4	社会福祉	
D1-5	子ども家庭福祉	
D1-6	社会的養護 I	
D5-1	保育実習指導 (1年次)	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
D5-2	保育実習指導 (2年次)	D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力
D5-3	教育実習指導 (1年次)	D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
D5-4	教育実習指導 (2年次)	D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
D2-1	子ども家庭支援論	D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力 D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
D2-2	子育て支援	
D2-3	社会的養護 II	
D2-4	子どもの家庭支援の心理学	
D6-1	保育実習 I	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
D6-2A/2B	保育実習 II / 保育実習 III	D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力
D6-3	教育実習	D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
		D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

科目コード	専門教育科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
D3-1	カリキュラム論	D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
D3-2	保育方法論	
D3-3	特別支援教育の基礎と方法	
D3-4	障害児保育	
D3-5	子どもの保健	
D3-6	子どもの健康と安全	
D3-7	子どもの食と栄養A	
D3-8	子どもの食と栄養B	
D3-9	乳児保育Ⅰ	
D3-10	乳児保育Ⅱ	
D3-11	保育の心理学（発達）	
D3-12	保育の心理学（学習）	
D3-13	教育相談	
D3-14	子どもの理解と援助	
D4-1	保育環境構成技術（音楽）Ⅰ	D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
D4-2	保育環境構成技術（音楽）Ⅱ	
D4-5	音楽表現	
D4-6	音楽表現の指導法	
D4-7	造形表現	
D4-8	造形表現の指導法	
D4-9	子どもの生活と遊びⅠ	
D4-10	子どもの生活と遊びⅡ	
D4-11	子どもの生活と遊びⅢ	
D4-12	保育内容総論	
D4-13	保育内容研究	
D4-14	健康	
D4-15	健康の指導法	
D4-16	人間関係	
D4-17	人間関係の指導法	
D4-18	環境	
D4-19	環境の指導法	
D4-20	言葉	
D4-21	言葉の指導法	
D4-22	保育・教職実践演習（幼稚園）	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力 D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能 D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

※学生便覧P4の卒業認定・学位授与の方針：ディプロマポリシー「どのような人材を育成するのか」を参照のこと。授業内容に表記する「DP」は、「ディプロマポリシー」を略記したもの。

§ 1. 教養科目

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 1単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学術</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実務</div>	担当教員名
キリスト教の精神 I (教養科目)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 通年		佐藤 寛之 松川 和義 滝口 節子
授業の概要 <p>入学式から卒業式までの（一年間に及ぶ）、一連の集会における学長のことば・牧師の説教を通して、一人の人間として、保育学生として、目の前の人間とどう向き合い、社会や周囲の人たちに対してどう関わっていくべきかを考えさせる機会をもつ。</p> <p>また、聖書とその説教を通して、キリスト教において、人間の成り立ちとその使命はどうなっており、その人間がどのように生きているのか、その手本をどこに見出すのか、ということを考えさせる機会をもつ。『愛と奉仕』の精神を日々実践していくきっかけをつくる。</p>						
授業の到達目標 <p>聖書からキリスト教における隣人愛について学び、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神について深く見詰め、考える機会をもつことで、一人の人間として、保育者を目指す学生として、どのように人と生きるのか、子どもとともにあるべきかを深く理解することができる。</p>						
事前（準備）・事後学習の内容 <p>入学前教育、入学生連絡説明会での導入学習時に、入学式等に関する説明を含めて、「愛と奉仕」という建学の精神について考える機会を設ける（1時間相当の事前学習）。キリスト教の精神 I の授業に関わる日程に臨むに当たっては、日頃より、自分は一人で生きているのではないことを自覚し、身の周りや社会の出来事に関心をもって、日々のニュースに目を向けるとともに、人の支えに感謝する日々を送るように心がけ（1時間相当の事前学習）、当該日程に参加後は、その時の講話等について、各自で振り返り、日々の生活に、キリスト教の精神を可能な限り活かしていけるように取り組む（1時間相当の実践による事後学習）。</p>						
ディプロマポリシーとの関連 <p>DPI-1 (①②③), DPI-2 (①②③), DPII①, DPII②</p>						
授業計画 <p>第 1 回目： 入学式（4月1日）</p> <p>第 2 回目： } 第 3 回目： } <u>聖書からの学び①</u>（松川牧師の対面講義と遠隔課題）</p> <p>第 4 回目： 月例集会（4月26日）</p> <p>第 5 回目： } 第 6 回目： } <u>聖書からの学び②</u>（松川牧師の対面講義と遠隔課題）</p> <p>第 7 回目： 月例集会（5月24日）</p> <p>第 8 回目： } 第 9 回目： } <u>聖書からの学び③</u>（松川牧師の対面講義と遠隔課題）</p> <p>第 10 回目： 月例集会（6月28日）</p> <p>第 11 回目： 前期終業集会（7月26日）</p> <p>第 12 回目： 後期始業集会（9月24日）</p> <p>第 13 回目： 月例集会（11月）（11月8日）</p> <p>第 14 回目： クリスマス集会（12月22日）</p> <p>第 15 回目： 新年集会（1月6日）</p>						

<p>テキスト</p> <p>ギデオン協会より贈呈される新約聖書、讚美歌集</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>日本聖書協会旧約新約聖書新共同訳</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>『愛と奉仕』の精神を包括するキリスト教の精神を涵養することの意義、それが人生を支え、人生の潤いを与えてくれること、日々実践している自分を見いだせるように、授業に相当する日程を通じて様々な角度から繰り返し、振り返りを促す働きかけを学びのフィードバックとして行う。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>参加姿勢・態度（60%）と課題・レポート（40%）の総合評価</p>
<p>実務経験</p> <p>大船ルーテル教会牧師（松川和義）</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>教会の牧師として（広く一般の方に向けての説教の経験も活かし）、聖書を用いて、キリスト教の隣人愛について平易に教示し、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神の理解へとつなげるものとする。</p>

授業科目名 キリスト教の精神Ⅱ (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 1単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学術</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実務</div>	担当教員名 佐藤 寛之 松川 和義 滝口 節子
	必修	必修	必修	開講期： 2学年 通年		
授業の概要 <p>「キリスト教の精神Ⅰ」での1年間にわたる学びに引き続き、さらに2年次での（1年間に及ぶ）一連の集会における学長のことば・牧師の説教を通して、一人の人間として、保育者として、目の前の人とどう向き合い、社会や周囲の人たちに対してどう関わり行動していくべきかを深く考察し学ぶ。</p> <p>また、聖書とその説教を通して、キリスト教において、人間の成り立ちとその使命はどうなっており、その人間がどのように生きており、その手本をどこに見出すのか、ということをも深く考察し学ぶ。『愛と奉仕』の精神を日々実践していくきっかけをつくる。</p>						
授業の到達目標 <p>「キリスト教の精神Ⅰ」での学びを踏まえて、キリスト教における隣人愛について考える機会を重ねることで、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神について更に理解を深めていき、一人の人間として、保育者として、どのように隣人と生きるのか、子どもとともにあるべきかについてさらに深い理解を形成し、その理解にもとづいて、「愛と奉仕」に積極的に取り組むことができるようになる。</p>						
事前（準備）・事後学習の内容 <p>キリスト教の精神Ⅱの授業に関わる日程に臨むに当たっては、日頃より、自分は一人で生きているのではないことを自覚し、身の周りや社会の出来事に関心をもって、日々のニュースに目を向けるとともに、人の支えに感謝する日々を送るように心がけ（1時間相当の事前学習）、当該日程に参加後は、その時の講話等について、各自で振り返り、日々の生活に、キリスト教の精神を可能な限り活かしていけるように取り組む（1時間相当の実践による事後学習）。</p>						
ディプロマポリシーとの関連 <p>DPI-1 (①②③) , DPI-2 (①②③) , DPI①, DPI②</p>						
授業計画 <p>第1回目： 月例集会（4月26日） 第2回目： 月例集会（5月24日） 第3回目： 月例集会（6月28日） 第4回目： 前期終業集会（7月26日） 第5回目： 後期始業集会（9月24日） 第6回目： 月例集会（11月8日） 第7回目： 第8回目： 第9回目： 第10回目： 第11回目： 第12回目： 第13回目： クリスマス集会（12月22日） 第14回目： 新年集会（1月6日） 第15回目： 卒業式（3月15日）</p> <p style="margin-left: 150px;">} 松川牧師集中講義（対面講義と遠隔課題）</p>						

<p>テキスト</p> <p>新約聖書、讚美歌集</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>日本聖書協会旧約新約聖書新共同訳</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>『愛と奉仕』の精神を包括するキリスト教の精神を涵養することの意義、それが人生を支え、人生の潤いを与えてくれること、日々実践している自分を見いだせるように、授業に相当する日程を通じて様々な角度から繰り返し、振り返りを促す働きかけを学びのフィードバックとして行う。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>参加姿勢・態度（60%）と課題・レポート（40%）の総合評価</p>
<p>実務経験</p> <p>大船ルーテル教会牧師（松川和義）</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>教会の牧師としての経験より、聖書を用いて、キリスト教の隣人愛について教示し、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神の理解へとつなげる。</p>

授業科目名 教養演習 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 全専任教員
	必修	必修	必修	開講期： 1学年 通年		
授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者養成における「初年次教育」と「実習にむけた準備教育」の充実を図るため、「全体授業」と「ゼミ」(少人数)の授業を行う。 ・1年次を対象としたゼミの授業を実施し、きめ細かい学習支援・生活支援・実習支援等を行う。 ・ゼミ授業は、全専任教員が担当し、共通のプログラムを実施する。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者になるための2年間の学びの目標や課題をもち、意欲的に学習に臨む力をつける。 ・学生は少人数のゼミ形式で教員のきめ細かい指導、支援により保育者になるための意欲を高める。 ・学生としての必要な基礎力、言語表現スキル、実習生としての常識、マナー等を身につける。 						
事前(準備)・事後学習の内容						
各回の内容をシラバスで確認し、テキストの指定箇所について事前に読む(30分)。毎回の授業後に復習する(30分)。15回の授業時間以外に必要な学習時間の目安は、15時間。						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI-1, DPI-2, DPII①②③④						
授業計画						
第1回目：[全体] 修養会「保育者になるための学び」						
第2回目：[全体→ゼミ] 前期ガイダンス(授業内容、評価方法等) ⇒各ゼミで 自己紹介、「あなたが学ぶ学校とは」「あなたはどんな人ですか」(pp.10~13)						
第3回目：[全体→ゼミ] キャリアガイダンス①(養成校2年間の目標と将来つきたい職業・仕事) ⇒各ゼミで 「将来の進路」「キャリアデザインシート～なりたい自分の姿」(pp.14~16)						
第4回目：[ゼミ] 学生生活のデザイン、自己管理しよう(pp.16~23)						
第5回目：[全体→ゼミ] 「短大での学び、授業を受けるマナー、情報モラル」教員からの話 ⇒各ゼミで(pp.27~32)						
第6回目：[全体→ゼミ] 「マナーや言葉づかい」教員からの話 ⇒各ゼミで ロールプレイの実施						
第7回目：[全体→ゼミ] キャリアガイダンス②(「就職ガイド」配布、説明 / 秋季特別研修の説明 / 9月教育実習に向けて ⇒各ゼミで						
第8回目：[全体] 秋季特別研修事前学習						
第9回目：[全体] 秋季特別研修						
第10回目：[全体] 履修カルテ(自己評価)の実施						

- ※ 第11回目：〔ゼミ〕言語表現の学び（わかりやすい文章の書き方、基礎的な漢字の読み書き）（pp. 44～53）
- ※ 第12回目：〔全体→ゼミ〕「図書館オリエンテーション」⇒ 各自図書館で資料を探し、レポートを作成
- 第13回目：〔ゼミ〕各自レポートを作成・完了し提出
- 第14回目：〔ゼミ〕レポート返却・レポート内容発表
- 第15回目：〔全体〕初年次の振り返り（授業の取り組み、自己診断など）（pp. 132～134）
- キャリアガイダンス③（「就職ガイド」持参）/ 定期試験の連絡・注意事項等

※（第11～13回目について）

全体を大きく2つのグループに分けて、

- 一つのグループは「第11→第12→第13」の順で、
- もう一つのグループは「第12→第13→第11」の順で授業を展開する。

テキスト

谷田貝公昭・大沢裕監修、大沢裕・越智幸一・中島朋紀編著『保育者養成のための初年次教育ワークブック』一藝社、2018年

参考書・参考資料等

「学生便覧 2021年度 横浜女子短期大学」、「実習テキスト 横浜女子短期大学」、「就職ガイド 2021年度 横浜女子短期大学」他

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

理解度を確認するための課題については、授業時に解説を行ったうえで返却する。演習で取り扱う提出物については、随時フィードバックする。

学生に対する評価

授業に積極的に取り組む姿勢・態度（60%）ワークブックや課題等の提出物（40%）

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育総合演習 (教養科目)	必修	必修	必修	開講期： 2学年 通年		各専任教員
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・学生主体の実践的学習をゼミ形式で行い、教員からのフィードバックにより保育・幼児教育への理解を深める。 ・ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、コミュニケーション能力を高める。 ・進路選択に向け、外部講師による就職ガイダンス説明会を行う。 ・就職活動に向け、キャリア支援担当教職員による具体的な指導を行う。 						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の学びを土台として、社会人としての基礎と保育者になるために必要な資質・能力を身につける。 ・自分を理解し、将来について考え、進路選択決定に向けて見通しを持った生活を送る。 						
事前（準備）・事後学習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストの指定箇所を読み、自分の進路について考える。（事前準備 30分） ・ガイダンスや説明会で学んだことを、その後の学習や進路選択に生かす。（事後学習 30分） ・ゼミ指導教員の指示に従い、予習や事前準備を行う。また、授業後学習した内容を復習し、再度担当教員の指導を仰ぐ。（事前準備 30分、事後学習 30分） 						
ディプロマシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPⅡ①②③④						
授業計画 第1回目：授業ガイダンス、就職ガイダンス（1）、履修カルテの記入 第2回目：ゼミ形式の学習活動（ホームグループ） 第3回目：横浜市幼稚園協会説明会 第4回目：就職模擬試験 第5回目：就職ガイダンス（2）履歴書の書き方 他 第6回目：就職模擬試験結果（作文の添削振り返り） 第7回目：就職ガイダンス（3）「就職ガイド」配布 第8回目：本学関連園就職説明会 第9回目：横浜市私立保育園説明会 第10回目：就職ガイダンス（4）求人票について 他 第11回目：特別研修 第12回目：就職ガイダンス（5）これからの就職活動について 他 第13回目：就職活動の心得（就職フェア、登録、留意点等） 第14回目： } 第15回目： } ゼミ形式の学習活動（専門ゼミ） 第16回目： } 第17回目： } 第18回目： } 第19回目：卒業内定者への注意事項、卒業後の住所、内定先研修の予定の記入、まとめ 第20回目：卒業生対象 応援メッセージ講演会						
テキスト 谷田貝公昭・大沢裕監修、大沢裕・越智幸一・中島朋紀編著『保育者養成のための初年次教育ワークブック』一藝社、2018年 「横浜女子短期大学 就職ガイド2020年度」「横浜女子短期大学 就職ガイド2021年度」						
参考書・参考資料等 ゼミ指導教員が指示する。						

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・自己理解や進路選択に関する授業での課題や提出物については、授業時の解説やホームグループ担当教員の指導により、フィードバックを行う。
- ・専門ゼミについては、それぞれのテーマに応じてフィールドワークや課題等に取り組み、担当教員の指導のもとフィードバックを行う。

学生に対する評価

授業に取り組む姿勢 60%、ゼミ形式の学習活動の成果 20%、提出物 20%

授業科目名 哲学 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	學術 ・ 実務	担当教員名 富山 豊
	選択 必修	選択 必修	選択 必修	開講期： 1学年 前期		
授業の概要						
友人同士の意見の対立や将来担当する児童同士の揉め事、家族内のトラブルなどの身近な出来事から、脳死と臓器移植などの医療倫理、社会の中の差別や偏見、それらに関わる様々な法制度の問題まで、具体的な事例を議題として取り上げて議論する。議論のヒントとして歴史上の哲学者たちの学説も紹介するが、それらを覚えることが目的ではなく、賛成・反対それぞれのメリット・デメリットを論理的に検討する練習を重視する。						
授業の到達目標						
様々な哲学的・倫理的問題について、「ある意見を支持する理由がどれくらい正当な理由になっているか」、「隠れた前提が潜んでいないか」を粘り強く論理的に考えることができる。具体的な事例についても、自分が賛成・反対のどちらかを感覚的に決めつけてしまうことを避け、異なる意見にもそれなりの言い分がないか、寄り添って耳を傾けることができる。						
事前（準備）・事後学習の内容						
事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、配布資料の該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）、事後学習：配布資料等を見返し、挙げられている具体例や、必要に応じて自分でも他の具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる（2時間）						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI-1, DPI-2, DPII①						
授業計画						
第1回： イントロダクション 授業の進め方と、大まかな内容について説明する。						
第2回： ルールを守る意義 杓子定規にルールを守ることが正しくない場合はないだろうか。						
第3回： 少数者の権利 みんなの利益のために少数派に我慢を強いるのは正しいだろうか。						
第4回： バレない悪事 被害者も気がつかない完全犯罪は、そもそも悪ではないのだろうか。						
第5回： 個人の自由とお節介 明らかに本人のためにならないことでも、周囲が止めるのは自由の侵害か。						
第6回： 誠実さの意味 守ることで誰も得をしない状況になってしまったとしても、約束は守るべきか。						
第7回： 情と正義 家族や親しい友人への情によって判断が左右されるのは、正義に反することだろうか。						
第8回： [前半の振り返り] 第2-7回の授業について振り返りと小テスト						
第9回： 差別ってなんだろう 正当な基準で人を「区別」することと不当な「差別」の違いは何か。						
第10回： 男女差別を考える（1） 日本社会の慣習・法制度に根強く残る性差別について考えてみる。						
第11回： 男女差別を考える（2） 性差別に対抗する様々な制度のメリットとデメリットを考えてみる。						
第12回： 差別問題の多様性 少数者や弱者への差別にはどのようなものがあるだろうか。						
第13回： 法と国家 これまで議論してきた問題を、法制度の側面から考えてみる。						
第14回： 命と倫理 これまでに扱えなかった命と医療をめぐる倫理的問題について取り上げる。						
第15回： [後半の振り返り] 第9-14回の授業についての振り返りと小テスト						

テキスト
指定しない。
参考書・参考資料等
授業全体に深く関わり推薦できるものとして、 ジェームズ・レイチェルズ 他 著『新版 現実をみつめる道徳哲学』 晃洋書房 他、各回の進捗や受講生の関心に応じて適宜紹介する。
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法
各回の課題等での疑問点や誤りやすい点については次回授業や次回配布資料で解説する。
学生に対する評価
授業への参加度および授業内提出物（40%）と授業内小テスト（60%）による総合評価。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学術</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実務</div>	担当教員名
日本国憲法 (教養科目)	選択 必修	必修	選択 必修	開講期： 1学年 前期		飯島 倫子
授業の概要 まず、各回のテーマに関連する憲法の条文を確認した上で、その意味するところを解説する。 次に、各テーマについて問題になる事例（主に判例）を挙げて、判例等がどのような見解を示しているのかを紹介し、どのように考えていったらよいかを検討する。 全体目標は、憲法の理念を理解した上で人権感覚を習得することである。						
授業の到達目標 日本国憲法の基本理念を理解し、実際の社会生活において憲法がどのように関わっているのかを理解し、説明することができる。 様々な社会問題が憲法上どのような点（条文、趣旨、判例等）において問題になるのかを理解し、社会問題と関連づけることができる。 習得した知識を基にして、様々な社会問題について自分で考える力を養い、応用できることを到達目標とする。						
事前（準備）・事後学習の内容（目安時間） 事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリント、ノート等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する（2時間）						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPI①						
授業計画 第1回：憲法入門 ガイダンス／憲法の基本原理 第2回：人権享有主体性 子どもの人権, 外国人の人権 第3回：新しい人権 幸福追求権, プライバシー権, 自己決定権, 環境権 第4回：法の下での平等 差別と区別, 平等原則 第5回：精神的自由 信教の自由, 表現の自由 第6回：経済的自由 職業選択の自由 第7回：社会権 生存権, 教育を受ける権利, 労働基本権 第8回：参政権 選挙権 第9回：国民の義務／平和主義 教育の義務, 勤労の義務, 納税の義務 / 憲法九条の解釈 第10回：三権分立／立法 権力分立の意義と日本における権力分立 / 国会 第11回：行政 内閣 第12回：司法 司法権の独立, 裁判を受ける権利, 違憲審査制の内容 第13回：天皇／財政 天皇 / 財政 第14回：地方自治 地方自治の本旨（住民自治, 団体自治）, 住民投票制 第15回 憲法改正 憲法改正の手續・限界 定期試験						
テキスト 初宿正典、大沢秀介、高橋正俊、常本照樹、高井裕之編著『目で見る憲法 第5版』有斐閣						
参考書・参考資料等 芦部信喜 高橋和之補訂『憲法』（第7版）岩波書店 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ』『憲法判例百選Ⅱ』（第7版）有斐閣						

<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 講義で取り扱う提出物については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。</p>
<p>学生に対する評価 授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（20%）、筆記試験（80%）の総合評価。</p>
<p>実務経験 弁護士</p>
<p>実務経験を活かした教育内容 テキストに出てくる具体的な事例や判例等の提示にあたり、法曹実務での体験事例や他の類似の判例を紹介する。 多くの事例あるいは判例を理解することにより、憲法における人権感覚の獲得を目指す。</p>

授業科目名 心理学 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学術</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実務</div>	担当教員名 小林 聡子
	選択 必修	選択 必修	選択 必修	開講期：1学年 前期		
授業の概要 本講義では人の心、そして自分自身を理解するために役に立つ心理学的知見を紹介していく。前半では、人間の心理を理解するための基礎的知識として、感覚、知識、記憶、思考、感情等の概念によって記述される「認知」、「パーソナリティ」とは何かについて学ぶ。後半では、人の発達がどのように生物学的、心理的、社会的要素によって影響を受けているか、発達精神病理学的視点から総合的に学ぶ。また、精神科にて心理臨床に従事してきた担当教員により、ストレスとコーピング、人の“不適応”についての理解、また援助の実際について学ぶ。						
授業の到達目標 実験心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学にわたる心理学全般の基本的知見を学ぶことにより、幅広い観点から柔軟に人間の心理や行動を捉えることができる。						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習：テキストの該当箇所（授業時に指示）を熟読し、不明点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリント、ノート等を見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPI③						
授業計画 第1回目：ガイダンス・心理学入門（心とは何か、人間の心と脳、意識とは、死とは） 第2回目：人間の感覚と知覚のしくみ（知覚の恒常性、錯覚は脳のどこにあるのか、慢性疼痛とは） 第3回目：記憶（記憶の過程、メカニズム、偽りの記憶、抑圧された記憶とは） 第4回目：学習（学習の基本型、学習理論、メタ認知を学習にいかすには） 第5回目：言語・思考（こころにおける言語の役割、言語と思考の関連）、乳児とメディア 第6回目：感情・知能、世界で注目されている“非認知能力”とは 第7回目：パーソナリティ① 個人差の測定（性格検査①の実施と自己分析） 第8回目：パーソナリティ② 個人差の測定（性格検査②の実施と自己分析） 第9回目：パーソナリティ③ パーソナリティの概念、子どもの性格を決定するものは何か 第10回目：ストレス、健康、コーピング（ストレスとどう付き合うか） 第11回目：心理障害の理解および援助の実際（大人の不適応） 第12回目：心理障害の理解および援助の実際（子どもの不適応） 第13回目：認知と社会性の多面的発達①（乳幼児期～児童期） 第14回目：認知と社会性の多面的発達②（青年期～老年期） 第15回目：発達の病理（リスクと脆弱性と弾力性）						
テキスト 長谷川寿一 他著 『はじめて出会う心理学 第3版』有斐閣						
参考書・参考資料等 適宜、授業内で紹介する						
学生に対する評価 授業感想シートの提出および参加態度 30%、レポート課題 70%						
実務経験 精神科クリニックおよび大学相談室、教育相談センター、公立学校にて、心理臨床（カウンセリング、心理検査）に従事。（臨床心理士・公認心理師）						
実務経験を活かした教育内容 実際に精神科医療にて、心理検査およびカウンセリングに従事してきた教員より、自己理解および他者理解のために役立つ心理学を身近な例や臨床例を提示しながら、わかりやすく提供する。						

授業科目名 情報機器の操作 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 小野目 如快
	選択 必修	必修	選択 必修	開講期： 1 学年 前期 又は 後期		
授業の概要 昨今のパソコンの低価格化とインターネットの発達により、様々な場所でパソコンの操作を求められることが多くなっている。しかし、パソコンの理解は実際に機器に触れての操作が必須である。本講座では、演習をとおして、Windows の基本操作や、ワープロ、表計算の利用方法等を学習する。						
授業の到達目標 コンピュータの基本操作を十分理解し、保育現場での様々な作業に応用できるようになる。特に、Office ソフトを用いた以下の操作ができるようになることを目標とする。 ・ Word を用いて各種文書やグラフィクスが活用できる ・ Excel を用いて図表の作成等ができる ・ PowerPoint を用いた発表資料の作成ができる						
事前(準備)・事後学習の内容 事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、自宅に PC がある人は一通りの操作をして、不明な点を明確にしておく。自宅に PC のない人も、大学の PC 教室を利用する等して、確認しておくことが望ましい(2時間) 事後学習：授業で学習したセクションに該当するテキストの演習問題をやる(2時間)						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPI④						
授業計画 第 1 回目：Windows の基本操作 ガイダンス、電源の ON, OFF、各種アプリの起動方法 第 2 回目：ファイル操作 エクスプローラによるファイル操作方法 第 3 回目：ワープロ① Word の基本編集 第 4 回目：ワープロ② Word の書式設定 第 5 回目：ワープロ③ Word の文書作成 第 6 回目：ワープロ④ Word の表作成 第 7 回目：ワープロ⑤ Word で地図作成 第 8 回目：ワープロ⑥ Word でのオブジェクト処理 第 9 回目：ワープロ⑦ Word での文書デザイン検定 第 10 回目：プレゼンテーション PowerPoint を利用した紙芝居作成 第 11 回目：表計算① Excel の基本入力と編集 第 12 回目：表計算② Excel によるグラフ作成 第 13 回目：表計算③ Excel によるデータベース処理 第 14 回目：表計算④ Excel での日時処理、シリアル値、条件付き書式 第 15 回目：表計算⑤ Excel での表計算検定						
テキスト 小野目如快 著『Office2016 で学ぶコンピュータリテラシー』実教出版						
参考書・参考資料等 必要により、別途説明用資料を授業内で配布。						
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 授業内で課題として提出したレポートは、採点して、次回の授業で返却する。						
学生に対する評価 毎回課題を課す(100%)						

§ 2. 外 国 語

授業科目名 英語 I (外国語)	卒業 必修	幼免 必修	保育士 必修	授業形態： 演習 単位数： 2 単位 開講期： 1 学年 通年	学術 ・ 実務	担当教員名 北本洋子
授業の概要 保育園の生活を題材にしたストーリーを読み、読解のポイントを確認しながら内容を理解する。 保育現場に密着した語彙を学ぶ。語句の並べ替えや穴埋めで口語文を作り、子どもや保護者との対話練習をする。 英語を聞いて課題を解くリスニング練習や基本的な文法の復習をおこなう。						
授業の到達目標 保育の現場で、英語による子どもへの言葉かけや保護者への情報伝達ができる。						
事前（準備）・事後学習の内容 （事前）各課のストーリーを下読みし、読解のポイントの解答を日本語で書いておく。 Words & Idioms で扱う語句の意味を、教科書巻末の Words & Idioms INDEX で調べ、書いておく。（30分） （事後）学習した内容を確認しながら、宿題の問題を解く。 「振り返りテスト」に備えて、単語や表現を覚える。（30分）						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPⅡ④						
授業計画 第 1 回目：ガイダンス 授業の進め方、自己紹介 第 2 回目：L1 新学期 初対面のあいさつ、園の人々と設備 第 3 回目：L2 登園 登園時の会話、家族、人物描写 第 4 回目：L3 室内遊び 室内遊びと玩具、欠席の電話連絡 第 5 回目：L4 砂遊び・園庭 外遊びの指導、園庭の遊具と身近な植物 第 6 回目：L5 けんか ゲームの指導、様々な行為とけんか 第 7 回目：文法のおさらい 1 (1) 一般動詞 第 8 回目：文法のおさらい 1 (2) be 動詞 第 9 回目：L6 昼食 昼食時の指導と会話、食材や食器 第 10 回目：L7 着替え 衣類や持ち物についての連絡 第 11 回目：L8 昼寝 トイレの指導、衣類と持ち物 第 12 回目：L9 病気 病気への対処、身体各部の名称 第 13 回目：L10 緊急連絡 保護者への緊急連絡、気持ちと様子 第 14 回目：文法のおさらい 2 疑問文・否定文・命令文 第 15 回目：復習とまとめ 第 16 回目：L11 行事の案内 行事の案内状、電話連絡 第 17 回目：L12 運動会 さまざまな運動 第 18 回目：L13 散歩 1 (1) 付近の建物や施設 第 19 回目：L13 散歩 1 (2) 場所の表現 第 20 回目：L14 散歩 2 道案内 第 21 回目：L15 お絵かき 色々な形、作業の指示 第 22 回目：文法のおさらい 3 (1) 前置詞 第 23 回目：文法のおさらい 3 (2) 前置詞 第 24 回目：L16 工作 文房具、作業の指示						

第25回目：L17 降園 降園時の会話、クラスからのお知らせ
第26回目：L18 連絡帳 連絡帳の記入、乳児室の物品
第27回目：L19 家庭調査書 家庭調査書の書式、園行事
第28回目：L20 園だより 年間行事と園だよりの書き方
第29回目：文法のおさらい4 疑問詞を使った疑問文
第30回目：復習とまとめ

テキスト

森田和子 著『新・保育の英語』三修社

参考書・参考資料等

必要に応じて授業時に配付する。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

数課ごとに「振り返りテスト」を行い、返却時に注意点等を解説する。

学生に対する評価

「振り返りテスト」の成績 80%、受講態度（授業や予習・復習への取り組み）20%

授業科目名 英語Ⅱ (外国語)	卒業 選択	幼免	保育士 選択	授業形態： 演習 単位数： 2単位 開講期： 2学年 通年	學術 ・ 実務	担当教員名 北本洋子
授業の概要 海外旅行に必要な語彙を学ぶ。 海外旅行でしばしば出会う表現を学び、発音練習、会話練習をおこなう。 旅行中によく見かけるパンフレットや書類などから必要な情報を読み取る練習をする。 ビデオ教材も併用し、旅の雰囲気を感じながら、聞き取りや会話の練習をする。						
授業の到達目標 海外旅行の色々な場面で、英語を使って質問や依頼をし、必要な情報や協力を得ることができる。						
事前（準備）・事後学習の内容 (事前) Warm-up と Vocabulary で扱う単語の意味を調べておく。(30分) (事後) 学習した単語や表現を記憶し、応用問題で確認する。(30分)						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPⅡ④						
授業計画 第1回目：ガイドンス、旅の準備をしよう 第2回目：機内にて 第3回目：(ビデオ) 飛行機に搭乗する 第4回目：(ビデオ) 機内サービスを受ける 第5回目：到着と入国審査 第6回目：(ビデオ) 入国手続きをする 第7回目：(ビデオ) 税関を通る 第8回目：両替をしよう 第9回目：ホテルにチェックインしよう 第10回目：ホテル内の施設を利用しよう 第11回目：食事をしよう 第12回目：(ビデオ) ホテルで朝食をとる 第13回目：(ビデオ) ファーストフードの店で昼食をとる 第14回目：(ビデオ) レストランで夕食をとる 第15回目：まとめ 第16回目：観光に行こう 第17回目：会話を楽しもう 第18回目：ショッピングをしよう 第19回目：(ビデオ) デパートで服を買う 第20回目：(ビデオ) お土産を買う 第21回目：体調を崩してしまったら 第22回目：街を歩いてみよう 第23回目：(ビデオ) 観光案内所を訪れる 第24回目：(ビデオ) バスに乗る 第25回目：(ビデオ) タクシーに乗る 第26回目：(ビデオ) 道を尋ねる 第27回目：ホテルをチェックアウトしよう						

<p>第28回目：帰途にて</p> <p>第29回目：旅について話そう</p> <p>第30回目：まとめ</p>
<p>テキスト</p> <p>Diane H. Nagatomo、村瀬文子 著</p> <p>『<i>Simply Traveling—Communication Anytime, Anywhere!</i>』 (場面別フレーズで学ぶ はじめての海外英会話)』 金星堂</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要に応じて授業時に配付する。</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>「おさらいミニクイズ」を口頭または筆記でおこない、授業内で答え合わせや解説をする。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内の活動（70%）、「おさらいミニクイズ」（30%）。</p> <p>この授業では、積極的に声を出し練習することが求められる。</p>

§ 3. 保 健 体 育

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：実技 単位数：1単位	學術	担当教員名
体育実技 (保健体育)	必修	必修	必修	開講期：1学年 通年	実務	堀内弓子 佐久間博子

授業の概要

<前期>

体操・・・自分の身体への「気づき」から、自分の意志通りに、のびのびと正確に動く「からだづくり」「うごきづくり」を目指す。

ダンス・・・音楽に合わせて、イメージを働かせ、豊かな身体表現を身につける。

<後期>

球技スポーツ・・・「サッカー」を通してボールを扱う技術を養うとともに、協力、責任、公正さといった態度を身につける。また、ゲームの進行・運営を自主的に行えるようにする。

大型遊具・・・マット、跳び箱、平均台、巧技台などの用具の特性を生かして、「歩く」「走る」「跳ぶ」「支える」などの基本的な運動を実践し、安全に行う方法を学ぶ。

体操・ダンス・・・子どもの身体表現活動の実践方法を学ぶ。

授業の到達目標

「体育」は、運動と保健・衛生の知識と実践を通して、人間性の発展を企図する教科である。本授業においては、身体活動の価値を認識し、生涯にわたって体育・スポーツを続けていく素地を養うことを目標とするため、学習内容を理解したうえで自主的に実践できる。

さらに、保育の対象となる子どもの発育発達に必要な基本的な運動の種類やその発達過程を自らの身体活動を通じて理解し、それを展開するための知識や技術を習得する。

事前（準備）・事後学習の内容

事前学習：次回授業内容のテキスト該当ページを読む。自分自身の健康を生活の中で維持増進していくために学ぶ「体育講義」の内容を復習しておく。

事後学習：授業で学んだことを日常生活に活用し、自己のライフスタイルに合わせて運動を実践すること
1年次教育実習において、子どもが日常的にどのように体を動かして遊んでいるか、どんなあそびを楽しんでいるのか、また運動会の準備期間では子どもたちや保育者の様子をよく観察しておくこと。

ディプロマポリシーとの関連

DPI-1, DPI-2, DPII④

授業計画

第1回目：前期授業のオリエンテーション

体力測定Ⅰ 自分の体力の現状を知り、劣っている点を見出し、改善する方法を考える。

第2回目：体操・リズム運動① 正しい姿勢、動きの基本動作を学ぶ。その他子どもの好きな遊び紹介

第3回目：体操・リズム運動② リズムに合わせてからだを動かす楽しさを味わう。

第4回目：体操・リズム運動③ 体幹を大きく使って、大きくのびのびと動く。

第5回目：体操・リズム運動④ 他者の動きを観察し、自らの動きを正す。

第6回目：体操・リズム運動⑤ 音楽のリズムを感じながら楽しくからだを動かす。

第7回目：子どもの発育発達に合わせたあそび① ～2,3歳児が楽しめる運動あそびの実践～

第8回目：子どもの発育発達に合わせたあそび② ～4,5歳児が楽しめる運動あそびの実践～

第9回目：伝承あそびを楽しむ① 受け継がれる運動あそびの楽しさを知り、体験する。

第10回目：伝承あそびを楽しむ② 子どもと楽しめる伝承あそびをグループごとに考え、発表する。

第11回目：遊具を使って楽しむ運動あそび。

第12回目：基本体操① ラジオ体操第一。身体各部位と運動方法を理解する。

第13回目：基本体操② グループ練習を行うことで、正しい動きを習得する。
 第14回目：基本体操③ 基本体操で学んできたことの総まとめと評価。
 第15回目：体力測定Ⅱ 3か月間の変化を観察し、自己評価を行う。
 第16回目：後期授業のオリエンテーション / 子どもの体操 / 大型遊具の設定と遊び
 第17回目：「歩く」運動(テキスト、以下(7)とする)p6~8 / 歌って運動 / 子どもの体操
 第18回目：「跳ぶ、回る、走る」運動(7)p15, P19-22 / 子どもの体操
 第19回目：「走る、とぶ、回る、投げる、捕る」運動(7)p22~24, 28, 30 ; 素材遊具 (新聞紙) 遊び /
 子どもの体操
 第20回目：サッカー① 基本技能を習得する / 「蹴る」運動(7)p41~46
 第21回目：サッカー② ゲームの進行・運営の方法を学ぶ / ルールのある遊び(7)p47~48
 第22回目：サッカー③ ゲームの分析~作戦を立てる
 第23回目：サッカー④ ゲームの分析~作戦を立てる
 第24回目：「ぶらさがる、振る、回る」運動 ; 固定遊具の遊び (鉄棒・肋木) /
 「押、引く」運動 / 上肢・上体の遊び / 身体表現 (1)
 第25回目：「ぶらさがる、振る、回る」運動 ; 固定遊具の遊び (鉄棒・肋木) /
 「押、引く」上肢・上体の遊び / 身体表現 (2)
 第26回目：「走る、跳ぶ、回る、投げる・捕る・蹴る」運動 ; 素材遊具 (ビニール袋) 遊び
 第27回目：大型遊具の安全な設定と実践：マット(7)p. 60-66、跳箱(7) p67-71
 平均台(7)p8, 13、巧技台(7)p80
 第28回目：大型遊具 (マット) の設定と実践 / 子どもの体操
 第29回目：大型遊具 (跳び箱、平均台) の設定と実践 / 子どもの体操
 第30回目：子どもの体操発表 / 環境設定の発表

テキスト

橋本妙子・堀内弓子著『こどもの運動あそび』啓明出版

参考書・参考資料等

授業内で随時、紹介する。

課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法

実技授業の中で行ったことを自分で実施し、健康体力づくりに役立てる。

実技で取り扱う提出物については、最終回にフィードバックする。

授業内実技テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度 (50%) と運動技術課題やレポート課題等の提出物 (50%) の総合評価

実務経験

堀内弓子(保育所体育指導)、佐久間博子(幼稚園体育講師)

実務経験を活かした教育内容

授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。

授業科目名 体育講義 (保健体育)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 1単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学術</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実務</div>	担当教員名
	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期		堀内弓子 佐久間博子
授業の概要 健康の維持増進に必要な知識の習得と日常生活における実践力を養う。さらに、身体の仕組みとその働きおよびトレーニング方法について生理学的な側面から学修する。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康度を高めていくため、生活習慣（運動、食事、休養）を見直し、自主的に改善していくことができる。 ・運動の必要性や効果的な運動方法を知り、実践できる。 ・身体の仕組みや機能を知り、健康維持増進のための運動やスポーツを実践できる知識を習得する。 ・けがの予防や応急処置の必要性を理解し、実践できる。 						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習：次回の授業内容に合わせて、現在の生活習慣を振り返り、健康維持のために継続すべきこと、改善すべきことをまとめ、具体的にどのような生活が望ましいかを考える（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を基に、自らの健康管理や日々の身体活動や運動実践を通して理解した自分の体についての弱点を考え、今後どのようなことを生活の中で配慮していけば改善できるかを考える（2時間）						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPⅡ④						
授業計画 第 1 回目：健康になるためのライフスタイル 自らの健康をコントロールし、改善していく方法を学ぶ 「健康度・生活習慣診断検査（1回目）」の実施（アルバイトの有無についての調査を含む） 第 2 回目：運動と食事 適切な食生活の習慣とは 第 3 回目：飲酒と喫煙のからだへの影響 飲酒・喫煙の急性と慢性の影響 第 4 回目：運動と休養 積極的休養となる運動を知る。 第 5 回目：生活習慣病や運動不足がからだに及ぼす影響（1） 高血圧に対する運動の予防効果 第 6 回目：生活習慣病や運動不足がからだに及ぼす影響（2） 2型糖尿病・メタボリックシンドロームと運動習慣の関係 健康に生きるために必要な運動の習慣について学ぶ 第 7 回目：生活習慣病や運動不足がからだに及ぼす影響（3） 三大死因（心疾患・脳血管障害・悪性新生物）と運動習慣の関係 第 8 回目：健康づくりのための身体活動基準および運動指針 基準・指針・メッツ表を参考に自分の運動プログラム作成 第 9 回目：骨の仕組みとその働き <ul style="list-style-type: none"> ・からだの主な骨の仕組みを理解し、その働きについて学習する ・体力測定の振り返りにより、自己の体力を分析する 第 10 回目：骨格筋の仕組みとその働き <ul style="list-style-type: none"> ・からだの主な骨格筋の役割とメカニズムを理解する 第 11 回目：「体力」を考える <ul style="list-style-type: none"> ・生命を維持していくからだの防衛能力と、積極的に仕事をしていくからだの行動力を学ぶ。 ・附属幼稚園の体育指導の事例により、「多様な運動」についての必要性を学ぶ 						

<p>第12回目：運動が体と心に及ぼす影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・からだの適応力と免疫力 <p>第13回目：トレーニングの進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動を安全に、かつ効果的に実施するために必要な知識を習得する。 <p>第14回目：けがの予防と応急処置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な応急処置（RICE 処置、三角巾の使用法）の理解と実践。 <p>第15回目：これまでの学びの振り返り・確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回の体力測定の結果を比較し、変化を考察する ・まとめのテスト
<p>テキスト</p> <p>なし。説明用参考資料を授業内で配布。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業の中で紹介する。また、説明用参考資料を授業内で配布。</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行った上で返却する。 ・講義で取り扱う提出物については、評価をしたのちにフィードバックをし、再確認する。
<p>学生に対する評価</p> <p>課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（30%）とレポート試験（70%）の総合評価</p>
<p>実務経験</p> <p>佐久間博子（幼稚園体育講師）</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>講義の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。</p>

§ 4. 專門教育科目

授業科目名 保育原理 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 本田 幸
	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期		
授業の概要 保育の営みは、子どもを大切に考えることから始まる。この授業では、保育の意義目的、なぜ、保育が必要なのかということ学ぶ。また、保育・幼児教育が日本の国の中でどのように位置づけられ、どのような法制度の中で行われているのかについて学習する。さらに、保育・幼児教育の基本事項である「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の概要と構造について学ぶ。合わせて諸外国や日本の保育の歴史や思想から保育観や子ども観について知識を広げていく。また、現在の日本の保育や子どもをめぐる諸課題についても考える。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・保育の理念や概念について学び、保育の意義と目的について理解している。 ・日本の保育に関する法制度について学び、多様な保育と子育て支援とのつながりについて理解している。 ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における保育の基本と構造を理解し、具体的な保育実践と関連づけることができる。 ・諸外国や日本の保育の歴史や思想を学び、保育の理解や自らの保育観、子ども観につなげることができる。 ・現在の日本の保育や子どもをめぐる諸課題について関心をもち、よりよい保育実践へとつなげることができる。 						
事前(準備)・事後学習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・事前に各授業の内容に該当するテキストを読み、授業内容に関心をもち、意欲的に授業に参加すること。 ・事後は、テキスト及び配布プリントを中心に復習し、知識が定着するように心がける。 ・特に『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』は保育の基本事項である。繰り返し読み内容を十分に理解する。 (事前・事後学習の目安：事前学習2時間、事後学習2時間)						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①						
授業計画 第1回： 保育の意義及び目的 (1) 「保育」とは、「子ども」とは 第2回： 保育の意義及び目的 (2) 創設者 平野恒の保育観、子ども観に学ぶ 第3回： 保育の意義及び目的 (3) 保育の社会的意義について学ぶ 第4回： 保育に関する法令及び制度 (1) 保育にかかわる関係法令 第5回： 保育に関する法令及び制度 (2) 子ども子育て支援新制度 第6回： 保育に関する法令及び制度 (3) 保育の実施体系 第7回： 幼稚園教育要領における保育の基本 第8回： 保育所保育指針における保育の基本 第9回： 保育所保育指針における保育の基本原則 第10回： 保育における養護と教育 第11回： 乳児の保育、1歳以上3歳未満の保育 第12回： 3歳以上児の保育 第13回： 諸外国の保育の思想と歴史 第14回： 日本の保育の思想と歴史 第15回： 日本の保育の現状と課題 定期試験						

<p>テキスト</p> <p>『保育学のはじめの一步 - おさなごにまなぶ-』（横浜女子短期大学） 佐藤寛之、二階堂邦子、石山直樹、 鵜野澤武美、平松美保子、本田幸</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』 * その他、適宜授業内で資料を配布する。</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験(50%)、レポート課題(30%)、授業に対して取り組む姿勢(20%)、の総合評価</p>
<p>実務経験</p> <p>幼稚園教諭</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>授業内で理論と保育実践が結びつくように、テキスト内の事例や具体的エピソードを活用した授業を行う。</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
教育原理 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 前期		岡本 眞幸
授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育の必要性，目的，教育と福祉，生涯学習社会，インクルーシブ教育などの教育の基礎的事項， ・日本国憲法，教育基本法，学校教育法などの教育の法制度， ・今日の幼児教育に影響を与えている，開発主義を中心とした教育の思想， ・OECDによる国際比較教育統計や新しい学力観の影響，新しい学習指導要領や幼稚園教育要領等の内容とその方向性など今日の教育動向， について学習する。 						
授業の到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義・必要性，目的，子ども家庭福祉との関わり等について理解することができる。 2. 教育の法制度について理解することができる。 3. 教育の思想の概要について理解することができる。 4. 教育の動向について理解することができる。 						
事前（準備）・事後学習の内容（目安時間）						
<p>事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、それに関連する新聞の記事やインターネット上の解説などに広く目を通し、不明な点などを整理しておく（2時間），</p> <p>事後学習：毎時間、授業のプリント、ノート等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する（2時間）</p>						
ディプロマポリシーとの関連						
DPII①						
授業計画						
<p>第1回：I. 教育の基礎論①（「教育」の意味とその必要性） / 授業ガイダンス</p> <p>第2回： 教育の基礎論②（教育の目的，子ども家庭福祉との関係，幼児教育の特質）</p> <p>第3回 教育の基礎論③（教育の新潮流：生涯学習社会，インクルーシブ教育）</p> <p>第4回：II. 教育の法制度①（教育・福祉の法制度の体系，日本国憲法の概要）</p> <p>第5回： 教育の法制度②（教育基本法の概要とその重要条文）</p> <p>第6回： 教育の法制度③（生存権・受教育権・義務教育）</p> <p>第7回： こままでの授業内容のまとめと補足事項（「まとめのプリント1」配布）</p> <p>第8回： 学習習熟度の確認（確認テスト1） / 教育の思想①（注入主義と開発主義，ルソー）</p> <p>第9回：III. 教育の思想②（ルソー以前の教育思想，開発主義のルソー，ペスタロッチ，フレーベル）</p> <p>第10回： 教育の思想③（新教育運動，大正自由教育運動，デューイ，モンテッソーリ，倉橋惣三）</p> <p>第11回：IV. 教育の動向①（OECDの国際比較教育統計，PISAの新学力観，非認知能力への注目）</p> <p>第12回： 教育の動向②（中教審答申と新しい学習指導要領，幼稚園教育要領）</p> <p>第13回： こままでの授業内容のまとめと補足事項（「まとめのプリント2」配布）</p> <p>第14回： 学習習熟度の確認（確認テスト2，課題小作文）</p> <p>第15回： 全授業内容に関するまとめと補足説明1回：</p>						
テキスト						
<p>特定の文献をテキスト指定することはしない。</p> <p>講義に必要な資料は、プリントやスライドを用いて、随時、配布または公開する。</p>						

参考書・参考資料等

現代の幼児教育・保育・子育て等に関する諸問題への関心を喚起するために、新聞・雑誌・インターネット上の記事を随時活用する。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

理解度を確認するための小テスト等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。

学生に対する評価

授業への参加度（30%）、授業内確認テスト（30%）、レポート（40%）により総合評価する。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術	担当教員名
保育者論 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 2学年 前期	実務	野津 直樹
授業の概要 本授業では、“保育者とは何か”を命題として、学生一人一人が目指していくべき保育者像を追究していきます。また、実際の現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤や成長、多くの人やものとの出会いなどのエピソードを交えながら講義を進めていきます。内容としては、保育者の役割、保育者の制度的な位置付け、保育者の専門性について学び、保育者として求められる専門的な知識や技術について理解を深めます。また、園・施設の教職員、保護者と協力し合いながら、さらには地域社会との協働・連携を得ながら子どもたちと関わっていくことの重要性についても学んでいきます。また、保育者の専門性の向上及びキャリア形成の意義についても学習します。以上の学びから、2年次の現在、あらためて“自分がなぜ、保育者になりたいのか、どのような保育者を目指していくのか”について深く考えていきます。						
授業の到達目標 次の3つを学習成果とすべく、授業構成を行っています。 ①保育者（幼稚園教諭・保育士等）の役割を言える ②主体性（自ら考え、自ら動く）のある保育者として備えるべき考え方を身に付ける ③保育者の葛藤がどう保育者としての成長を支えているのか、説明できる。 以上の学びから、“保育者とは何か”という命題の元、“自分がなぜ、保育者になりたいのか、どのような保育者を目指していくのか”を深く、深く考えていきましょう。						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習として、各回の内容についてテキスト該当箇所を熟読し、不明な点を明確にして下さい。これを合計2時間とします。事後学習としては、授業内容やそれに伴うノートを参照しながらやはり不明な点を明確にし、かつポイントを改めて整理しましょう。これを合計2時間とします。事前学習、事後学習問わず、明確にならなかった点については、遠慮なく質問ください。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①						
授業計画 ※（）内は事前学習を行う章です。 第1回目：オリエンテーション…授業の目的・概要の説明等、保育者とは何か、保育者像を探る（第1章） 第2回目：保育士と幼稚園教諭、保育教諭について（第1章） 第3回目：保育士と幼稚園教諭、保育教諭の制度的位置付け、（第6章） 第4回目：保育者の倫理、保育者の資質・能力、保育者の専門性、人権・社会問題への配慮（第7章） 第5回目：保育者の専門性 ①幼稚園教諭の仕事と役割（第2章） 第6回目：保育者の専門性 ②保育士の仕事と役割、保育教諭の仕事と役割（第3章、第4章） 第7回目：保育者の専門性 ③保育者の一日（第2章、第3章、第4章） 第8回目：保育の現代的な問題、子どもの最善の利益、守秘義務（第5章、第8章） 第9回目：保育者の協働、関係機関との協働（第11章、第12章） 第10回目：保育者の葛藤と成長①（第9章、第13章） 第11回目：保育者の葛藤と成長②、チーム保育（第9章、第13章） 第12回目：保育における省察（第10章） 第13回目：保育者として働くということ（第14章） 第14回目：主体的な保育者を目指して①（第15章） 第15回目：主体的な保育者を目指して②（第15章）						
テキスト 『保育者論～主体性のある保育者を目指して』野津直樹・宮川萬寿美編著 萌文書林						

<p>参考書・参考資料等</p> <p>『保育所保育指針解説書』フレーベル館、『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>	
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>毎授業内において小テストを実施する。これに対するフィードバックは次回の授業時間にて行う。質問や感想に対しても同様に行う。提出物についても授業時間内でフィードバックを行う。</p>	
<p>学生に対する評価</p> <p>授業に関して積極的に取り組む態度・授業後の小テスト(70%)、提出物(30%)の総合評価にて行う。</p>	
<p>実務経験（実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。）</p> <p>幼稚園において教務主事として従事していた経験あり。</p>	
<p>実務経験を活かした教育内容（実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。）</p> <p>幼稚園にて経験した様々なエピソードを、よりリアルに学生へお伝えします。</p>	

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	學術	担当教員名
カリキュラム論 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	実務	平澤 順子
授業の概要 保育所等の実務経験のある担当教員により、保育の場における計画の意義と役割を体験的事例などから学ぶ。また、幼稚園や保育所にある、入園から終了までの保育の教育課程及び全体的な計画の意義と内容について理解を深めるとともに、それに基づく指導計画の重要性についても学び、それらを通して就学前の生活や学びが就学後に関連性があることを知る。						
授業の到達目標 1) 教育課程・全体的な計画及びそれに基づく指導計画の意義と内容について理解し、説明できる 2) 指導計画の作成の基本を知り、立案が出来るようになる						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、プリントを熟読し、疑問点を明確にしておく（2時間） ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領を熟読しておく。 特に、保育所保育指針・幼保連携認定こども園教育・保育要領では、乳児と幼児の保育内容とねらいの違いについても目を通しておく。 事後学習：プリント等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する（2時間）						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第1回： オリエンテーション、保育における計画の変遷 第2回： 保育の基本（1）：乳幼児期にふさわしい生活 第3回： 保育の基本（2）：発達に適した環境とそれを通しての総合的な学び 第4回： 保育の基本（3）：一人ひとりの発達の個人差と集団の中での学び 第5回： 教育課程と全体的な計画の意義と役割 第6回： 保育における指導計画の種類とその役割 第7回： 幼稚園の教育の特徴 第8回： 幼稚園の指導計画 第9回： 保育所の特徴と指導計画：0～3歳未満児を中心に 第10回： 保育所の特徴と指導計画：3～5歳児を中心に 第11回： 指導計画の作成の基本とその方法 第12回： 指導計画の実際：乳児対象 第13回： 指導計画の実際：幼児対象						

<p>第 14 回： 学習内容の振り返り・確認</p> <p>第 15 回： 幼稚園・保育園と小学校との連携</p>
<p>テキスト</p> <p>使用しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 千葉武夫、那須信樹編集、教育・保育カリキュラム論、中央法規、以上の他は随時授業の中で紹介する</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>・理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>総合評価：レポート（30%）、講義の参加態度（20%）、試験（50%）</p>
<p>実務経験</p> <p>保育所の保育士、認定こども園の保育士</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>指導計画を立案し、それに基づくロールプレイの演習も取り入れ、実務経験を活かした視点からアドバイスを を行うことで実践への即戦力に繋げていく。</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術	担当教員名
特別支援教育の基礎と方法 (専門教育科目)	選択	必修		開講期： 2学年 通年	実務	伊藤 英夫
授業の概要 様々な障害について、その基本的な障害特性について学び、実習前にアセスメントの方法を学び、各自の実習で見た障害児についてアセスメントを行い、個別の指導計画を作成する。また、いわゆる気になる子どもも含めて、様々な障害の支援方法について動画映像を見ながら学ぶ。実際の障害児の保育で見過ごされやすい言葉と遊びの指導について、その発達と具体的な支援方法についても学ぶ。現在、特別支援において最も重要な課題である保護者支援や教育・医療・福祉等の専門機関との地域連携についても学ぶ。						
授業の到達目標 障害児を保育・教育するうえで必要となる基本的な知識や支援の手立てについて学習し、様々な障害についてその障害特性を説明できる。自らアセスメントを行い、個別の支援計画を作成して発達の観点に基づいた保育・教育が行える。発達状態や障害特性に応じた保育を実践できる。障害児の保護者や家族の心理を理解し、保健・福祉・教育機関との連携について理解し、多面的な支援ができるようになる。						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、自分で調べて、不明な点を明確にしておく（2時間）、 事後学習：資料、ノート等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する（2時間） 各回の授業内容について予習して臨むこと。また、各回の授業を聞いたことを復習し、その中でも特に興味を持ったことについて自分で調べて、発展学習を行うこと。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第1回： 障害とは 障害のとらえ方、発達の観点、法律と制度 第2回： 障害児・気になる子のアセスメント 考え方と実際 第3回： 知的障害とは 知的発達の定義、知的発達の評価方法、障害特性の理解 第4回： 自閉症スペクトラム障害とは 診断基準と診断名、障害特性の理解 第5回： 注意欠陥・多動性障害とは 行動の特徴とタイプ、障害特性の理解 第6回： 学習障害の理解と支援 幼児期でみられる特徴、障害特性の理解、支援の手立て 第7回： 気質と性格 第8回： 気になる子の保育 第9回： 肢体不自由児の理解と支援 障害特性の理解、支援の手立てアセスメント 第10回： 視覚・聴覚障害児の理解と支援 障害特性の理解、支援の手立て 第11回： 言語発達のプロセス 第12回： 言語発達の遅れへの支援 第13回： 遊びの発達 第14回： 遊びの支援 第15回： 乳幼児期の障害児の発達と早期発見 第16回： 福祉における支援と現状 児童発達支援 第17回： 保護者や家族に対する理解と支援① 保護者や家族についての理解、保護者支援・連携の必要性 第18回： 保護者や家族に対する理解と支援② 保護者への支援の実際、保護者対応の留意点 第19回： 母子関係・愛着の問題と支援 第20回： 発達障害と児童虐待 第21回： 園での対人関係と心理的ストレス 第22回： 知的障害児の統合保育						

<p>第23回：自閉症スペクトラム児の統合保育</p> <p>第24回：注意欠陥・多動性障害児の統合保育</p> <p>第25回：統合保育とクラス経営</p> <p>第26回：保育者にできるアセスメント：KIDSD 乳幼児発達スケール</p> <p>第27回：KIDS の採点と分析(課題1)</p> <p>第28回：個別の指導計画</p> <p>第29回：個別の指導計画の作成の実際(課題2)</p> <p>第30回：教育における現状と課題 学校の種類と就学相談、小学校との連携</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業の中で紹介する</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>毎回の授業資料の冒頭で、全体としてのフィードバックを行う。個別に必要な場合は、メールでフィードバックを行う場合もある。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業概要 78%、KIDS の分析結果のレポート 5%、個別の指導計画の作成課題 5%、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢・態度 12%での総合評価</p>
<p>実務経験</p> <p>臨床発達心理士、巡回相談員(保育所、幼稚園、小学校、特別支援学級、特別支援学校 広島県庄原市、東京都小金井市)、乳幼児健康診査発達相談員(東京都小金井市、日野市、東久留米市)、教育相談員(東京都豊島区) 小金井市児童発達支援センター長(心理士、聴覚言語士、作業療法士、理学療法士、児童指導員への助言指導)</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>特別支援学校および児童発達支援センターでの助言指導、教育相談員としての臨床実践により、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的障害、発達障害など様々な障害の理解、虐待への対応、アセスメント、指導法について事例を基に紹介する。また、幼稚園、保育園での巡回相談、乳幼児健康診査での助言指導を通して、障害児の遊びの指導、気になる子どもへの支援、個別のアセスメント、個別の指導計画の作成、保護者支援、地域連携などについても事例を基に講義する。</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	學術	担当教員名
障害児保育 (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 通年	実務	米澤 巧美
授業の概要						
<p>障害の捉え方や発達の支援について考え、障害児保育の基本的な考え方を学ぶ。各障害（身体障害、視覚・聴覚障害、知的障害、自閉症、注意欠陥・多動性障害）について、その特性と支援の方法を解説する。発達をうながす生活や遊びの環境づくり、保育のなかで育てる言葉の発達、行動や情動調整のむずかしい子どもの保育における留意点を学ぶ。障害児の評価や保育目標・計画の記録方法について学び、演習する。地域における保健・福祉・教育機関の現状について学び、連携のあり方を考える。保護者や家族の心理について紹介し、支援や対応のあり方について学ぶ。視聴覚教材を用いて障害をもつ子どものイメージがもてるようにし、さまざまな事例を紹介する。</p>						
授業の到達目標						
<p>障害児を保育するうえで、「障害」そのものを正しく知り、理解できる。さまざまな障害の特性について理解し、発達状態や障害特性に応じた保育が実践できるための準備性を培うことができる。障害児の保護者や家族の心理を理解し、保健・福祉・教育機関との連携についての理解を深め、保育の協働を学ぶことができる。</p>						
事前（準備）・事後学習の内容						
<p>毎回の授業内容について、テキストの該当部分や配布する資料（映像資料を含む）、紹介する参考文献をもとに予習時間（2時間）を確保すること。そして、事後学習として配布資料および演習ワークを見返し、ポイントを整理すること（2時間）。実習などで出会う障害をもつ子どもや行動の気になる子どもに対し、関心をもって観察し、その子どもの特性や行動の背景、保育の方法、自分の関わり方について考えるようにすること。毎回、演習ワークを実施するので、質問や発言などの積極的な授業参加が望まれる。</p>						
ディプロマポリシーとの関連						
D P II ③						
授業計画						
<p>第1回：なぜ特別な支援が必要なのか (1) -1 障害とはなにか 第2回：なぜ特別な支援が必要なのか (2) -2 障害児と保育について 第3回：発達を理解する (1) -1 合理的配慮を理解する 第4回：発達を理解する (2) -2 発達の領域と発達検査について 第5回：発達の違いを理解する (1) -1 発達検査の結果から 第6回：発達の違いを理解する (2) -2 発達を支援すること 第7回：障害の特性を理解する (1) -1 肢体不自由 第8回：障害の特性を理解する (1) -2 知的障害 第9回：障害の特性を理解する (1) -3 視聴覚障害 第10回：障害の特性を理解する (1) -4 病弱・重症心身障害・言語障害 第11回：障害の特性を理解する (2) -1 ASD（自閉スペクトラム症） 第12回：障害の特性を理解する (2) -2 ADHD（注意欠如・多動症）・LD（限局性学習症） 第13回：支援方法を理解する (1) -1 心の支援 第14回：支援方法を理解する (2) -2 発達論による支援 第15回：第1～14回までの学習内容の振り返り 事例の紹介とグループワーク 第16回：支援方法を理解する (3) -1 行動・コミュニケーションの支援 第17回：支援方法を理解する (3) -2 ケーススタディ①環境調整による支援 第18回：支援方法を理解する (4) -1 環境調整による支援 第19回：支援方法を理解する (4) -2 構造化された支援と実際 第20回：支援方法を理解する (5) -1 周囲の人との連携</p>						

<p>第21回：支援方法を理解する (5) -2 横のつながりと縦のつながり 第22回：支援の方法を考える実践ワーク (1) -1 支援の実際 第23回：支援の方法を考える実践ワーク (2) -2 特性に合わせた支援の実際 第24回：個別の教育支援計画をつくる (1) -1 個別の教育支援計画とは 第25回：個別の教育支援計画をつくる (2) -2 個別の教育支援計画と検証（記録） 第26回：ケーススタディ②感覚支援について 第27回：ケーススタディ③社会的コミュニケーションについて 第28回：保護者支援と今後の課題 (1) -1 特別な支援を必要とする子どもの親の気持ち 第29回：保護者支援と今後の課題 (2) -2 保護者支援の実際例 第30回：まとめ 第16～29回の学習内容の振り返り グループワーク</p>
<p>テキスト</p> <p>星山麻木編著 『障害児保育ワークブック-インクルーシブな保育・教育をめざして』 萌文書林 ※説明用の資料を授業内で適宜配布する</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 『よくわかる障害児保育』 ミネルヴァ書房</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>演習ワークを毎回実施し、次回授業時間内で講評等のフィードバックを行う。優れた回答は、授業の共有資料として採用し紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業学習（特に毎回の演習ワーク）に関して積極的に取り組む姿勢・態度・（30%）、授業内で実施するリアクションペーパーの内容（20%）およびレポート試験（50%）の総合評価</p>
<p>実務経験</p> <p>知的障害および発達障害者支援事業に従事（生活介護・就労継続B型・就労移行支援・入所支援・相談支援） 社会福祉士（国家資格）・臨床発達心理士（連合学会認定資格）</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>自閉スペクトラム症を中心とした発達障害児者に対する根拠ある包括支援プログラム（TEACCH Autism Program）とその展開の実践を教授する。具体的には、心理教育アセスメントの活用と構造化された臨床発達支援、そしてライフステージを縦断する本人中心主義による社会資源との連携の実際を、実践記録（画像および映像資料）を用いることで、リアリティある教育内容を提供する。</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
社会福祉 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期		スティーヴン・トムソン
授業の概要 保育サービスは、社会福祉の大切なサービスの一つであることに基づき、社会福祉の基本的事項として、その理念、歴史、実施体制、法制度の概要について学習する。また、社会福祉の専門職として、子どもとその保護者への支援を職務とする保育士の役割に着目しながら、相談援助や権利擁護の基本的な考えや方法を学ぶ。また、今日における社会福祉の動向や課題について考える。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉のもつ基本的な意義と歴史の変遷について説明できる ・社会福祉政策における子ども家庭支援の分野について説明できる ・社会福祉の実施機関について説明できる ・社会福祉におけるソーシャルワークについて説明できる ・日本における子どもの貧困問題について説明できる 						
事前（準備）・事後学習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストで取り上げられる箇所を熟読する（2時間） ・事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間） （各授業で取り上げるテキストの範囲を示した詳細なシラバスを初回授業で配布する）						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①						
授業計画						
区分	テーマ			授業内容		
①	ガイダンス、社会福祉とは何か			社会福祉の思想と現実、基本的人権と子どもの権利		
②	子ども家庭支援と社会福祉			現代社会と子ども家庭支援、児童福祉法における子ども家庭支援、保育と子ども家庭支援		
③	社会福祉の歩み ①			第2次世界大戦以前（明治期以前、明治期、大正期から昭和前期）		
④	社会福祉の歩み ②			第2次世界大戦後から高度経済成長期、低経済成長と福祉見直し		
⑤	社会福祉の歩み ③			社会福祉基礎構造改革とその後の展開		
⑥	社会保障及び関連制度			国民生活と社会保障、社会保障を構成する制度、社会保障制度の機能、子どもを育てている世帯		
⑦	社会福祉の制度と法体系			社会福祉の制度と法律、日本における法体系と日本国憲法、社会福祉の法体系		
⑧	前半授業の総括			第1～7回目の学習内容の振り返り・確認		

⑨	社会福祉の実施機関	福祉の行政機関、福祉の民間団体・組織、社会福祉施設の役割
⑩	社会福祉の担い手	高まる専門性への期待、行政機関で働く児童福祉専門職、関連分野の福祉専門職
⑪	ソーシャルワークの理論・方法 ①	ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワークの理論・視点
⑫	ソーシャルワークの理論・方法 ②	ソーシャルワークの意義と機能、ソーシャルワークの対象と実践課程、ソーシャルワークの方法
⑬	子どもの貧困と保育	日本に貧困は存在するのか、子どもの貧困の現状と対策、貧困問題に対する保育者の役割
⑭	地域社会の推進と社会福祉	地域とは何か、社会福祉基礎構造改革と地域福祉の推進、地域福祉推進の主体とあり方
⑮	後半授業の総括	第9～14回目の学習内容の振り返り・確認
	期末試験	期末試験
テキスト		
井元真澄・坂本健編集『シリーズ・保育の基礎を学ぶ 実践に活かす社会福祉』ミネルヴァ		
参考書・参考資料等		
『保育福祉小六法 2021年版』（株）みらい		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法		
<ul style="list-style-type: none"> ・理解度を確認するための小テストについては、授業中に返却し、説明・解説を行う ・期末試験について、必要に応じて個別的にフィードバックと指導を行う 		
学生に対する評価		
授業に取り組む姿勢・態度（20%）小試験（40%）期末試験（40%）の総合評価		

授業科目名 子ども家庭福祉 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 石山 直樹
	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		

授業の概要

今日の子どもとその家族が直面している生活問題とその社会的背景をふまえて、子ども家庭福祉に関する法制度およびサービスの全体像を把握していきます。また、社会福祉の専門職として、保育所以外にもさまざまな施設・機関などで子どもとその家族とのかかわる保育士に求められる役割を理解していきます。そして、保育士を目指すにあたって「子どもの最善の利益」を念頭に置いた思考・判断ができるようになることを目指していきます。

授業の到達目標

- ・子どもとその家族を取り巻く社会環境の現状を正しく理解し、その特徴を説明することができる。
- ・時代とともに変化している子どもとその家族が抱える生活問題を正しく理解し、社会的背景と関連付けて説明することができる。
- ・子ども家庭福祉にかかわる社会福祉制度やサービスの実施体制の現状を正しく理解し、その内容を説明することができるとともに、課題についても述べるができる。
- ・子どもがもつ権利ならびに今日の社会における子ども家庭福祉の意義についての正しい理解をもとに、今日そしてこれからの社会における保育士の役割について考察することができる。

事前（準備）・事後学習の内容

【事前学習】（各回2時間）

各回の授業内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所（下の「授業計画」部分に記載）を熟読して、その概要を捉える。

【事後学習】（各回2時間）

テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、授業内容とそのポイントを整理する。不明な点についてはテキストや参考書、インターネットなどを活用して調べる。もし不明な点が解消されない場合は、次回授業時などに担当教員に確認できるようまとめておく。

このほか、新聞・テレビのニュース・インターネット上のニュースサイトなどをこまめに確認するなどして、虐待・DV・障がい・非行・貧困・ひとり親家庭・待機児童など、子どもとその家族が直面しているさまざまな生活問題の実情と、子どもと家族が生活する今日の社会の状況について、常に関心をもつことも事前・事後学習としておすすめします。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①

授業計画

授業回	授業内容	テキスト該当ページ ※事前学習として読む部分
第1回	・オリエンテーション(授業内容と展開方法、評価方法などの説明) ・子ども家庭福祉の理念と、子どものもつ権利について	28～41、55 ページ
第2回	・子どもとその家族を取り巻く社会環境の変化とその背景 (少子化問題を中心に)	6～16 ページ
第3回	・子どもとその家族の取り巻く社会環境および子どもと家族のライフスタイルの変化とその背景	16～27 ページ
第4回	・日本および諸外国における子ども家庭福祉の歴史	42～52 ページ
第5回	・子ども家庭福祉に関する法制度と行財政	53～79 ページ
第6回	・子ども家庭福祉にかかわる社会福祉施設・機関と専門職者	79～87 ページ

授業回	授業内容	テキスト該当ページ ※事前学習として読む部分
第7回	・子ども家庭福祉の現状と課題① 子育て支援と保育サービス（日本における少子化対策、次世代育成支援対策について）	88～104 ページ
第8回	・子ども家庭福祉の現状と課題② 子どもに対する虐待問題への対応策	123～131 ページ
第9回	・子ども家庭福祉の現状と課題③ 社会的養護を必要とする子どもに対する援助	138～153 ページ
第10回	・第1～8回授業の学びの振り返りと学びの確認(中間テスト) ・子ども家庭福祉の現状と課題④ 非行傾向および心理的な不安定さを抱える子どもに対する援助	154～166 ページ
第11回	・第1～8回授業の学びの振り返りと学びの確認(中間テスト)の解説 ・子ども家庭福祉の現状と課題⑤ 障がいをもつ子どもとその家族に対する援助	184～204 ページ
第12回	・子ども家庭福祉の現状と課題⑥ 配偶者からの暴力（DV）に関する対応策（女性福祉含む）	131～137 ページ
第13回	・子ども家庭福祉の現状と課題⑦ ひとり親家庭に対する援助	167～183 ページ
第14回	・子ども家庭福祉の現状と課題⑧ 母子保健・子どもの健全育成に関するサービス	105～122 ページ
第15回	・諸外国の子ども家庭福祉の動向について ・まとめ ～これからの子ども家庭福祉と保育士の社会的役割について～	205～228 ページ
<p>テキスト</p> <p>比嘉真人監修、石山直樹・岡本真幸・田家英二編『輝く子どもたち～子ども家庭福祉論～』株式会社みらい</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>保育福祉小六法編集委員会『保育福祉小六法 2021年版』株式会社みらい 二階堂邦子・石山直樹・本田幸編著『保育学のはじめの一步 おさなごにまなぶ』横浜女子短期大学 ※必要に応じて、授業内でその他の参考書・参考資料を紹介します。</p> <p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間テストについては、授業内で全体を対象とした解説を行ったうえで返却します。 ・その他の課題の内容などについては、授業内で全体を対象にフィードバックを行います。 ・上記2項目に加え、必要に応じて個別のフィードバックも行います。 <p>学生に対する評価</p> <p>中間テスト(筆記試験) (45%)、期末レポート (40%)、授業に取り組む姿勢と参加度 (15%)</p>		

授業科目名 子ども家庭支援論 (専門教育科目)	卒業 選択	幼免	保育士 必修	授業形態：講義 単位数：2単位 開講期：1学年 後期	学術 ・ 実務	担当教員名 石山 直樹
授業の概要 子どもとその家族、そして両者を取り巻く社会環境についての理解など、「子ども家庭福祉」の授業での学習内容を基盤として、子どもとその家族がともに生活を営む場である「家庭」に対する支援を展開するにあたって求められる知識・技術と、援助者としての姿勢・態度を習得していきます。そして、社会や個々の家庭の状況を踏まえつつ、保育士として「子どもの最善の利益」を尊重した子ども家庭支援を実践できるための基礎力を身につけていきます。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・今日の社会における子育て家庭に対する支援の意義と目的を捉えたいうで、保育士の専門性を活かした子ども家庭支援のあり方について、説明することができる。 ・個々の子育て家庭がもつ多様な子育て支援に関するニーズを的確に捉え、そのニーズに応えるための適切な支援方法を考える（子ども家庭福祉に関する法制度、サービス、施設、機関、団体などの的確に結びつける）ことができる。 ・今後の子育て家庭を取りまく社会の状況を見通して、保育士が行う子ども家庭支援に期待される役割や課題を述べることができる。 						
事前（準備）・事後学習の内容 【事前学習】 （各回2時間） 第1回：参考書やインターネットなどを一切使用せずに、「家族」と「家庭」という言葉の意味を考える。（辞書に載せる解説文のようなイメージで文章化する） 第2回以降：各回の授業内容をシラバスで確認し、参考書・参考資料を熟読して概要を捉える。 ※第2回以降の具体的な事前学習内容（参考書・参考資料の参照ページなど）は、初回授業時に説明します。 ※事前学習で使用する参考書・参考資料は、1学年の前期・通年開講科目（子ども家庭福祉、社会福祉、保育実習指導）などで使用するテキストとなります。 【事後学習】 （各回2時間） 各回の授業の事前学習で使用した参考書・参考資料、および授業時に使用したプリントをもとに、授業内容とそのポイントを各自で整理する。不明な点については参考書やインターネットなどを活用して調べる。もし不明な点が解消されない場合は、次回授業時などに担当教員に確認できるようまとめておく。 このほか、新聞・テレビのニュース・インターネット上のニュースサイトなどをこまめに確認するなどして、子ども家庭福祉に関する話題に常に関心をもつこと、そしてその内容を「子ども」の側からだけでなく「家族」「家庭」といった視点から捉えてみることも、事前・事後学習としておすすめします。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ②, DPⅡ④						
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業内容と授業の展開方法、評価方法などに関する説明） 「家族」と「家庭」とは／「家族」「家庭」と子どもの育ち 第2回：現代社会における子ども家庭支援の意義と必要性 第3回：保育・幼児教育の場における子ども家庭支援の目的と機能 第4回：子育て支援、次世代育成支援施策の推進（「子ども・子育て支援新制度」について） 第5回：保育の専門性を活かした子ども家庭支援						

<p>第6回：子ども家庭支援を実践する保育士に求められる姿勢</p> <p>第7回：子ども家庭支援の内容と対象（相談援助技術を活用した子ども家庭支援）</p> <p>第8回：子ども家庭支援に活かす記録技法</p> <p>第9回：第1～8回授業の学びの振り返りと確認（中間テスト） 子ども家庭支援における社会資源の活用・開発、行政機関・施設などとの連携</p> <p>第10回：第1～8回授業の学びの振り返りと確認（中間テスト）の解説 子どもの育ちの喜びの共有（その意義と実践方法）</p> <p>第11回：個々の家庭の状況に合わせた支援の展開</p> <p>第12回：保育所等を利用する子どもとその家族に対する支援</p> <p>第13回：地域の子どもの家庭支援の推進における保育士の役割</p> <p>第14回：要保護児童とその家族に対する支援</p> <p>第15回：まとめ（子ども家庭支援の課題と将来展望）</p>
<p>テキスト</p> <p>特に指定しません。毎回プリントを配付して授業を行います。</p>
<p>参考書・参考資料等 ※末尾に◆のついたものを事前学習で主に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比嘉真人監修、石山直樹・岡本真幸・田家英二編『輝く子どもたち～子ども家庭福祉論～』株式会社みらい◆ ・井元真澄・坂本健編著『シリーズ・保育の基礎を学ぶ① 実践に活かす社会福祉』ミネルヴァ書房◆ ・厚生労働省編『保育所保育指針解説（平成30年3月）』フレーベル館◆ ・保育福祉小六法編集委員会『保育福祉小六法 2021年版』株式会社みらい◆ ・石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範編『学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 保育と子ども家庭支援論』株式会社みらい
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間テストについては、授業内で全体を対象とした解説を行ったうえで返却します。 ・その他の課題などについては、授業においてその内容に関する全体を対象としたフィードバックを行います。 ・上記2項目に加え、必要に応じて個別のフィードバックも行います。
<p>学生に対する評価</p> <p>中間テスト(筆記試験)および期末課題(レポートなど) (70%)、授業内課題(レポートなど) (15%)、授業に取り組む姿勢と参加度 (15%)</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子育て支援 (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 後期		岡本 眞幸 スティーブン・トムソン 石山 直樹
授業の概要						
<p>保育士の行う子育て支援（すなわち保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者や地域住民に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援）について、その特性と具体的な展開を学ぶ。</p> <p>また、保育士の行う子育て支援（保育相談支援）について、実践的な事例等の検討を通して具体的に学ぶ。</p>						
授業の到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士の行う子育て支援（保育相談支援）について、その特性と展開を理論的かつ具体的に理解することができる。 2. 保育士の行う子育て支援について、その支援の内容、方法・技術を理論的かつ具体的に理解することができる。 						
事前（準備）・事後学習の内容（目安時間）						
<p>事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所（初回授業時に教員が指示する）を熟読し、不明な点などを明確にしておく（30分）</p> <p>事後学習：プリント、ノート等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する（30分）</p>						
ディプロマポリシーとの関連						
DPII②, DPII④						
授業計画						
<p>第1回： ● 授業ガイダンス（担当教員の分担箇所、評価方法等の明示）／保育士の行う子育て支援の意義</p> <p>第2回： I. 保育相談支援の特性①（子どもの保育とともに行う保護者の支援）</p> <p>第3回： 保育相談支援の特性②（保護者との日常的・継続的な関りによる信頼関係の形成）</p> <p>第4回： 保育相談支援の特性③（保護者の抱える支援ニーズへの気づきと多面的な理解）</p> <p>第5回： 保育相談支援の特性④（子ども・保護者が多様な他者と関わる機会と場の提供）</p> <p>第6回： II. 保育相談支援の展開①（子ども・保護者の状況・状態の把握）</p> <p>第7回： 保育相談支援の展開②（支援の計画・実施・記録・評価・カンファレンス）</p> <p>第8回： 保育相談支援の展開③（職員間の連携・協働）</p> <p>第9回： 保育相談支援の展開④（社会資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協働）</p> <p>第10回： III. 保育相談支援の実際①（保育所等における支援）</p> <p>第11回： 保育相談支援の実際②（地域の子育て家庭に対する支援）</p> <p>第12回： 保育相談支援の実際③（障害のある子どもとその家庭に対する支援）</p> <p>第13回： 保育相談支援の実際④（子ども虐待の予防と対応）</p> <p>第14回： 保育相談支援の実際⑤（要保護児童等の家庭に対する支援）</p> <p>第15回： 保育相談支援の実際⑥（多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解）</p>						
テキスト						
<p>小原敏郎・橋本好市・三浦主博編集『演習・保育と子育て支援』（株）みらい、2019年</p> <p>その他、毎回の講義でプリントや資料等を配布する。</p>						
参考書・参考資料等						
<ul style="list-style-type: none"> ・才村純ほか編著『子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門』ミネルヴァ書房、2019年 ・吉田真理『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』萌文書林、2019年 ・佐藤博之他編著『保育・教職実践演習 ―子どもによりそう保育とその学びの総合性―（第2版）』2020年 						

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

理解度を確認するための演習課題等については、可能な限り授業内にてフィードバックする。

学生に対する評価

授業への参加度（20%）、授業内の課題（40%）、レポート（40%）により総合的に評価する。

授業科目名 社会的養護 I (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2 単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学術</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実務</div>	担当教員名 岡本 眞幸 スティーヴン・トムソン
	必修	必修	必修	開講期： 1 学年 後期		

授業の概要

現代社会では、親や家庭環境の問題により家族と生活していない子どもたちがいる。これらの子どもたちは施設養護や家庭養護などの社会的養護を受けている。社会的養護の歴史、社会的養護の仕組み（制度）、社会的養護の実施体系、社会的養護の理念、施設養護の原理、子どもの保護理由、保育士や児童指導員による支援、子どもの権利擁護、自立支援などについて学ぶ。

授業の到達目標

- ・社会的養護とは何かを説明できる
- ・社会的養護のあゆみ（歴史）の大筋を説明できる
- ・社会的養護の基本原理を説明できる
- ・児童相談所における養護相談の受け入れから子どもの施設措置・里親委託までの流れを説明できる
- ・社会的養護を担う施設（乳児院、児童養護施設など）の役割と機能を説明できる

事前（準備）・事後学習の内容

- ・事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストで取り上げられる箇所を熟読する（2時間）
 - ・事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
- (各授業で取り上げるテキストの範囲を示した詳細なシラバスを初回授業で配布する)

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①

授業計画

区分	テーマ	授業内容
①	ガイダンス	授業ガイダンス、社会的養護の現代的課題
②	社会的養護の歩み ①	明治期以前の子どもの養護、明治期の子どもの養護、大正・昭和期の社会的養護
③	社会的養護の歩み ②	第2次世界大戦後の社会的養護、ホスピタリズム論争
④	社会的養護の基本的な考え方	社会的養護の基本理念、社会的養護の基本原理
⑤	社会的養護の仕組み	社会的養護の仕組み
⑥	社会的養護の法律・実施体系	社会的養護の法体系、社会的養護の実施体系
⑦	社会的養護の対象と求められる環境	社会的養護の対象、社会的養護に求められる生活環境
⑧	前半授業の総括	第1～7回目の学習内容の振り返り・確認
⑨	社会的養護を担う施設の役割と機能 ① (乳児院)	乳児院

⑩	社会的養護を担う施設の役割と機能 ② (児童養護施設)	児童養護施設
⑪	社会的養護を担う施設の役割と機能 ③ (母子生活支援施設)	母子生活支援施設
⑫	家庭養護を担う機能・制度 (里親とファミリーホーム)	里親とファミリーホーム
⑬	社会的養護を担う人々	社会的養護に関わる専門職、専門職の倫理と責務
⑭	児童福祉施設の運営管理	児童福祉施設運営の基本理念、児童福祉施設の運営管理、児童福祉施設の利用方式
⑮	後半授業の総括	第9～14回目の学習内容の振り返り・確認
	期末試験	期末試験
テキスト		
小川恭子・坂本健編集『シリーズ・保育の基礎を学ぶ 実践に活かす社会的養護Ⅰ』ミネルヴァ		
参考書・参考資料等		
授業中で紹介する。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法		
<ul style="list-style-type: none"> ・理解度を確認するための小テストについては、授業中に返却し、説明・解説を行う ・期末試験について、必要に応じて個別的にフィードバックと指導を行う 		
学生に対する評価		
授業学習に取り組む姿勢・態度（20%）小試験（40%）期末支援（40%）の総評価		
実務経験		
岡本 眞幸：児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援業務）。		
スティーヴン・トムソン：児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）、児童養護施設アドバイザー、児童養護施設の第三者委員会委員。		
実務経験を活かした教育内容		
岡本 眞幸：提示し検討する事例の中に、実務経験を活かした体験的事例も含める。		
スティーヴン・トムソン：授業では、内容をより理解できるように随時施設の子どもが抱えている課題や職員の支援活動の具体的な事例を紹介する。		

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
社会的養護 II (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 前期		岡本 眞幸 スティーヴン・トムソン
授業の概要 社会的養護の授業では、社会的養護の施設体系、施設養護、家庭的養護などを入門的に取り上げた。この授業では、社会的養護を必要としている子どもやその保護者の視点やニーズを基に行われる支援について学ぶ。特にアドミッションケアからアフターケアの一連の援助過程で行われる個別支援について理解を深める。様々な事例(ケース)を検討し、子ども・保護者の視点、個別援助、子どもの権利擁護、保育士に求められている倫理観などを学ぶ。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションケアからアフターケアの一連の援助課題を説明できる ・現在、子育て家庭が抱えている主な養護問題を説明できる ・児童養護施設でのインケアの具体的な内容を説明できる ・施設養護における保育者の里親・ファミリーホーク支援を説明できる ・施設養護における子どもの権利擁護の具体的な内容を説明できる 						
事前(準備)・事後学習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストの箇所や事前に配られた資料を熟読する(2時間) ・事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する(2時間) (各授業で取り上げるテキストの範囲を示した詳細なシラバスを初回授業で配布する)						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ②, DPⅡ④						
授業計画						
区分	テーマ	授業内容				
①	ガイダンス	社会的養護の形態、社会的養護の援助課程 (アドミッションケアからアフターケア)				
②	家庭の養護問題(養護相談)	家庭が抱える養護問題、養護問題を抱える家庭の事例				
③	子どもの一時保護	子どもの一時保護、保護された兄弟の事例				
④	アドミッションケア ①(児童相談所)	児童相談所が行うアドミッションケア、施設入所が検討されている子どもの事例				
⑤	アドミッションケア ②(施設)	施設が行う入所する子どもへの支援、施設入所する子どもの支援内容の検討				
⑥	インケア(施設環境)	施設養護の養護環境、小規模グループケアの事例				
⑦	インケア(子どもの行動上の問題)	施設における治療的養育、子どもの感情的爆発の ⇒ 事前学習：事前に配布された資料				

⑧	インケア（親子関係の調整）	施設における親子調整、親子の面会の事例
⑨	インケア（子どもの自立支援）	子どもの自立支援、自立支援計画の内容
⑩	リービングケア（子どもの退所支援）	子どものリービングケア（退所支援）の内容
⑪	アフターケア	アフターケアの必要性、アフターケアの内容
⑫	家庭養護	家庭養護（里親、ファミリーホーム）、週末里親、家庭養護の事例
⑬	子どもの権利擁護	子どもの権利養育、苦情解決、職員の専門性、施設内虐待の事例
⑭	保育者の疲労・ストレス	保育者の「共感的疲労」、不規則な勤務、「燃え尽き症候群」、「燃え尽き症候群」の事例
⑮	児童養護施設職員に求められる倫理	全国児童養護施設協議会倫理綱領など
<p>テキスト 指定しない。プリントなどを授業で配布。</p> <p>参考書・参考資料等 小川恭子・坂本健編集『シリーズ・保育の基礎を学ぶ 実践に活かす社会的養護Ⅰ』ミネルヴァ 櫻井 奈津子（編）「社会的養護の実践：保育士のための演習ワークブック」青踏社 河合高鋭・石山直樹 編集『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』みらい</p> <p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・事例検討課題や課題 ① については、授業時間内で講評等フィードバックを行う ・課題 ② について、について、必要に応じて個別にフィードバックと指導を行う</p> <p>学生に対する評価 授業学習に取り組む姿勢・態度（20%）課題 ①（40%）課題 ②（40%）の総評価</p> <p>実務経験 岡本 眞幸：児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援業務）。 スティーヴン・トムソン：児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）、児童養護施設アドバイザー、児童養護施設の第三者委員会委員。</p> <p>実務経験を活かした教育内容 岡本 眞幸：提示し検討する事例の中に、実務経験を活かした体験的事例も含める。 スティーヴン・トムソン：授業では、内容をより理解できるように随時施設の子どもが抱えている課題や職員の支援活動の具体的な事例を紹介する。</p>		

授業科目名 子どもの保健 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 甲斐 純夫 鏑木 陽一 (担当教員別授業)
	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		
授業の概要 小児科専門医として臨床経験が豊富な担当教員により、医学的・保健学的な視点から保育を学ぶ授業である。子どもの保健の意義、身体発育、運動機能・精神機能の発達、健康状態の把握方法、児童虐待などの保健分野から、感染症と予防接種、アレルギー、口・歯の病気、先天異常、身体各臓器の疾患、発達障害など保育者として最低限知っておきたい小児期の疾病まで概説する。授業は教員が実際に経験した事例・症例を元に構成したパワーポイントを用い、配付資料および教科書を読んで理解を進める。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義が理解できる。 ・胎児期より青年期に至るまでの身体発育、運動機能、精神機能の発達の概略、およびこれらに影響を与える環境因子や虐待などについて理解し、子どもの健やかな成長・発達に必要な保育の視点を持つ事ができる。 ・子どもによく見られる病気の症状、病態を学び、その予防と保育施設での適切な対応方法が説明できる。 						
事前（準備）・事後学習の内容（目安時間） 本科目は覚える内容が多いため、毎回、十分な事前学習と事後学習が必要である。 事前学習：次回の内容をシラバスで確認し、教科書の該当箇所を熟読して不明な点を明確にしておく（2時間） 事後学習：配布資料、教科書を読み返し、理解が不十分な部分があれば自分で調べ、もしくは次回の授業時に教員に質問して十分に理解する（2時間）。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第 1 回目：子どもの保健の意義と目的 第 2 回目：健康の概念と健康指標 第 3 回目：地域における保健活動と子ども虐待防止 第 4 回目：身体発育および運動機能の発達 第 5 回目：生理機能の発達、精神機能の発達 第 6 回目：子どもの心身の健康状態とその把握、子どもに多い症状 第 7 回目：感染症 第 8 回目：予防接種 第 9 回目：アレルギーの病気 第 10 回目：口と歯の健康 第 11 回目：先天異常 第 12 回目：循環器、呼吸器、消化器の病気 第 13 回目：脳・神経、運動器、血液の病気 第 14 回目：皮膚、泌尿器、眼、鼻、耳の病気 第 15 回目：心の病気（心身症など）、発達障害 「定期試験」：筆記試験。対面授業とリモート授業の両方の授業内容から出題する。						

<p>テキスト</p> <p>遠藤郁夫・三宅捷太編集 『子どもの保健』 学建書院</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>パワーポイントの内容を資料として配付する。</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>理解度確認のための課題の回答は次の授業の際に提出し、講師による評価終了後に返却される。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>積極的に授業、課題に取り組む姿勢（20%）と筆記試験点数（80%）の総合評価。</p>
<p>実務経験</p> <p>両教員とも日本専門医機構認定小児科専門医の資格を有する小児科医師。</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>成長発育上の問題、健康被害や病気について、実際に経験した事例・症例を元に解説する。</p>

授業科目名 子どもの健康と安全 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	學術	担当教員名 渡邊 悦子
	選択		必修	開講期： 2学年 前期	実務	
授業の概要 母子保健から小児保健への流れと地域保健、及び対象に必要な保健的な援助について理解する。 子どもの健康及び安全に関わる保健活動を計画し、その実践と評価について理解する。 保育に関する感染症対策、アレルギー対応、事故防止及び事故発生時の対応や安全対策について、子どもの発達や状態に即した適切な対応について理解する。						
授業の到達目標 1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる 2. 保育における衛生管理、事故防止、危機管理及び安全対策等について具体的に理解できる 3. 子どもの体調不良、感染症対策について学び保健的な対応を理解し一部実施できる 4. 子どもの健康及び安全管理に関わる組織的な取り組みや、保健活動の計画・実施・評価について具体的に学び、一部の計画を立案し実施できる						
事前（準備）・事後学習の内容 講義及び演習の前には、講義及び演習内容について予習を行う。特に演習の前には、演習内容を事前学習し、手順・方法等を確認して臨む(1時間)。授業中に取り上げた内容について、提示された資料やテキストの該当箇所を復習し、不明な点等あれば調べポイントを整理する(1時間)。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第1回：オリエンテーション、母子保健から小児保健、保育所保育指針の養護「生命の保持」について 第2回：子どもの健康と保健 第3回：子どもの安全と保健 第4回：子どもの体調不良等の対応 第5回：子どもの体調不良等の対応 第6回：子どもの体調不良等の対応 第7回：子どもの体調不良等の対応 第8回：応急手当と心肺蘇生法 第9回：応急手当と心肺蘇生法 第10回：感染症対策 第11回：保育における保健的対応；3歳未満児、個別の配慮の必要な子どもへの対応 第12回：感染症予防・事故防止等、保健指導計画立案、保健便り作成						

第13回：感染症予防・事故防止等、保健指導計画立案、保健便り作成

第14回：感染症予防、事故防止等に関する保健指導の発表

第15回：まとめ

定期試験

実施しない

- ・演習時は、演習項目にふさわしい服装等で臨むこと

テキスト

- ・高内正子編 子どもの保健と安全 教育情報出版
- ・吉田一心・伊東和雄 子どもの事故と応急手当 マスターワークス

参考書・参考資料等

- ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
- ・保育所における感染症対策ガイドライン
- ・教育・保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン
- ・事故防止及び事故発生時対応マニュアル―基礎編―
- ・必要時、資料を配布する

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。
講義終了時に学びや感想を毎回記入し、それについて個別または全体に講評等フィードバックを行う

学生に対する評価

- ・授業・演習への参加度(60%)、授業内提出物(40%)

実務経験

看護師・助産師として大学病院に勤務経験あり。

実務経験を活かした教育内容

新生児集中治療室・小児外科・小児HCU(High Care Unit)での小児看護の経験が、子どもの病気やケガへの対応についての学びに役立つと考えている。また助産師として母子保健に携わっていたため、母子保健から小児保健や地域保健への流れ等、具体的な事例を提示する。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子どもの食と栄養 A (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 後期		奥 裕乃 中岡 加奈絵
授業の概要 胎児期（妊娠期）から、出生後の乳児期（乳汁期・離乳期）における栄養と食生活について、理論と実践の両面から学び、基礎栄養学および小児栄養学に関する知識と技術を習得する。						
授業の到達目標 ・妊娠前から妊娠期の食生活が胎児に及ぼす影響について理解する。 ・子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活の意義と役割を理解し、説明できる。 ・母乳栄養の利点と留意点を説明できる。 ・人工栄養の内容を理解し、正しく調乳ができる。 ・離乳の必要性や離乳の進め方を理解し、保育者としての適切な食事支援の方法を習得する。						
事前（準備）・事後学習の内容（目安時間） 初回授業の事前学習：1年前期に学んだ乳児の保育について復習した上で授業に臨む（120分）。事前学習：各回の内容をシラバスで確認のうえテキストの該当箇所を熟読し、キーワードを中心に整理した上で不明な点を明確にしておく（30分）。事後学習：授業内容を振り返り、分からなかったところを調べてまとめておく。レポートや課題等に取り組む（90分）。						
ディプロマポリシーとの関連 DPII③						
授業計画 第1回： オリエンテーション 第2回： 栄養素に関する基本的知識 第3回： 食事摂取基準 第4回： 献立作成と調理の基本 第5回： 胎児期（妊娠期）の栄養と食生活 第6回： 子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題 第7回： 乳汁期の栄養と食生活① 母乳栄養 第8回： 乳汁期の栄養と食生活② 人工栄養・混合栄養 第9回： 乳汁栄養の実際 調乳実習 第10回： 離乳期の栄養と食生活 第11回： 離乳期の食事の実際① 離乳食実習（初期） 第12回： 離乳期の食事の実際② 離乳食実習（中期） 第13回： 離乳期の食事の実際③ 離乳食実習（後期） 第14回： 離乳期の食事の実際④ 離乳食実習（完了期） 第15回： まとめ 定期試験						
テキスト 太田百合子、堤ちはる編著 『子どもの食と栄養 第2版～保育現場で活かせる食の基本』 羊土社						
参考書・参考資料等 授業内で提示						
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 理解度を確認するための小テストや課題等については、翌週以降の授業時にフィードバックを行う。 実習時に作成するレポートについては、授業期間中にフィードバックを行う。						
学生に対する評価 授業学習に積極的に取り組む姿勢・態度（20%）、レポート（20%）、筆記試験（60%）の総合評価を行う。						

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子どもの食と栄養 B (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 2学年 前期		奥 裕乃 中岡 加奈絵
授業の概要 多様化する育児支援のニーズに食の観点から適切に対応できる実践力を理論と実践から養うことを目指し、子どもの発育・発達と食生活の特徴や留意点、保育所等の児童福祉施設の給食の意義、食育の基本と内容、食物アレルギー等の特別な配慮を要する子どもへの対応等、小児栄養学に関する内容について重点的に講義し、調理実習、制作やプレゼンテーションを実施する。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「食」が生涯にわたる健康と生活の基礎になることを理解できる。 ・乳幼児期の発育・発達と食生活について学び、保育者としての関わり方を思い描くことができる。 ・体調不良、食物アレルギー、障がいのある子どもに対する食生活における対応の基本を説明できる。 ・児童福祉施設の給食ならびに給食時の保育者が果たす役割を理解し、自身の実生活に応用できる。 ・食育の必要性、基本と内容を理解し、食育のための環境づくりに参加できる。 						
事前(準備)・事後学習の内容(目安時間) 初回授業の事前学習：1年次履修科目である「子どもの食と栄養 A」の内容を復習し、「保育実習 I」で学んだ子どもの食の実際をまとめた上で授業に臨む(120分)。事前学習：各回の内容をシラバスで確認後、テキストの該当箇所を熟読し、キーワードを中心に整理した上で不明な点を明確にしておく(30分)。事後学習：授業内容を振り返り、分からなかったところを調べてまとめておく。レポートや課題等に取り組む(90分)。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第 1 回目：幼児期の心身の発達と食生活① 第 2 回目：幼児期の心身の発達と食生活② 第 3 回目：幼児期の食事の実際① 幼児食の実習 第 4 回目：幼児期の食事の実際② 望ましい間食の実習 第 5 回目：調乳実習 第 6 回目：特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第 7 回目：幼児期の食事の実際③ 食物アレルギーに対応した間食の実習 第 8 回目：児童福祉施設における食と栄養 第 9 回目：学童期・思春期の心身の発達と食生活 第 10 回目：成人期・老年期の栄養と食生活 第 11 回目：食育の基本と内容① 食育の推進施策 第 12 回目：食育の基本と内容② 食育実践の事例 第 13 回目：食育の実践① 食育発表会 第 14 回目：食育の実践② 食育発表会 第 15 回目：まとめ 定期試験						
テキスト 太田百合子、堤ちはる編著 『子どもの食と栄養 第2版～保育現場で活かせる食の基本』 羊土社						
参考書・参考資料等 授業内で提示						

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

理解度を確認するための小テストや課題等については、翌週以降の授業時にフィードバックを行う。

実習時に作成するレポートについては、添削したうえで授業期間中に返却する。

食育発表会の内容については、授業時間内に講評を行う。

学生に対する評価

授業学習に積極的に取り組む姿勢・態度（20%）、レポート（20%）、制作物（10%）、筆記試験（50%）の総合評価を行う。

授業科目名 乳児保育Ⅰ (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 佐野 眞弓 渡邊 悦子 石田 みどり
	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期		
<p>授業の概要</p> <p>乳児保育の意義を理解します。 乳児保育のおこなわれる場における現状と課題、心身の発達について学び、3歳未満児の具体的な保育内容運営体制などを理解します。 また、乳児保育は、職員間の、保護者、関連機関との連携の下に行われる大切さを理解します。 講義科目ですが、各教員の実務経験を生かした演習授業も取り入れることで、学びを多面的に見ること、考えることの大切さを学びます。</p>						
<p>授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育に必要な基本的な知識と技術を習得します。 ・人は、人との関わりの中で、人として育っていきます。子どもと関わる大人は、乳児期の発達の特徴を理解し、愛情を持って育てていくことが望まれます。 ・本授業では、3歳未満児の発達や乳児保育の基礎を学び、豊かな心根と確かな知識と技術を持った、望ましい保育者のあり方を学びます。 ・また前期講義科目・乳児保育Ⅰと後期演習科目・乳児保育Ⅱを修得した時点では、自分で決めたテーマ(乳児保育の課題の中で)について、レポートのまとめを通し各自発表できることを目指します。 						
<p>事前(準備)・事後学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)。 ・事後学習：プリント、ノート等を見返し、ポイントを整理する。特に乳幼児期の心身の発達の講義では、テーマ別に学んだ発達を年齢別にまとめていくなどの工夫をし、マイノートに活かしていく(2時間) ・また、普段から赤ちゃんや赤ちゃんを取り巻く環境に興味を持ち、赤ちゃんを見たり赤ちゃんの用品売り場ののぞいたり、育児・保育に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。 						
<p>ディプロマポリシーとの関連</p> <p>DPⅡ③</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回： ガイダンス 授業内容、評価方法、授業の進め方等当授業を学ぶにあたっての必要事項 乳児保育の実際(DVD)</p> <p>第2回： 乳児保育の基本的考え方① 子ども・子育てをめぐる状況、乳児保育の歩み</p> <p>第3回： 乳児保育の基本的考え方② 乳児保育の現状と課題</p> <p>第4回： 乳児保育の基本① 乳児保育の基本、保育の計画と乳児保育</p> <p>第5回： 乳児保育の基本② 乳児保育の行われる場</p> <p>第6回： 乳児保育の基本③ 保育士の専門性、子育て支援と関連機関との連携</p> <p>第7回： 乳児保育の保育内容① 保育所保育指針に順守した実践とは</p>						

<p>第8回： 乳児保育の保育内容② 保育の視点を明確にする</p> <p>第9回： 乳児保育の保育内容③ 事例から読み解く保育の実際</p> <p>第10回： 乳幼児期の心身の発達 DVD（発達を理解する）</p> <p>第11回： 胎児期の育ち</p> <p>第12回： 身体及び運動の発達 ～体・手指の発達～</p> <p>第13回： 認知の発達 ～見る・聞く・考える～</p> <p>第14回： 言葉とコミュニケーションの発達 ～言葉を話すようになること～</p> <p>第15回： 自己意識の発達 ～自分への気づき～</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』 萌文書林 ・必要に応じて授業内で資料を配布
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・保育用語辞典 ・保育・教育実践演習 第2版 第10の扉
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、参加度、課題の提出等、授業に積極的に取り組む姿勢（50%） ・筆記試験の成績（50%）の総合評価
<p>実務経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐野 眞弓（保育所の保育士・園長 幼稚園の幼稚園教諭・園長 幼保連携型子ども園の園長） ・渡邊 悦子（大学病院の看護師・助産師） ・石田 みどり（保育所の保育士・現職園長）
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の中に、実務経験を生かした事例を含める。 ・教員が、それぞれの実務経験を生かした視点で、理論、技術及び心根を、講義、演習の中に掲示することで、多面的、主体的に考えられる授業を展開する。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術	担当教員名
乳児保育Ⅱ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 1学年 後期	実務	佐野 眞弓 渡邊 悦子 石田 みどり
授業の概要 乳児保育の意義を理解し、乳児保育に必要な知識と技術を、講義・演習を通して具体的に学びます。 また、保育園での乳児保育の実際を見学・観察することや、ポスター発表等の活動を通して、乳児保育の内容や乳児保育の場における現状や課題について、積極的に考えていきます。 各教員の実務経験を生かした授業の中で、多面的に見ることの大切さを学びます。						
授業の到達目標 人は、人との関わりの中で、人として育っていきます。子どもと関わる大人は、乳児期の発達の特徴を理解し、愛情を持って育てていくことが望まれます。 本授業では、3歳未満児の発達や乳児保育の基礎を学び、豊かな心根と確かな知識と技術を持った、望ましい保育者のあり方について知り、学びの一部を説明できる。 乳児保育に必要な基本的な知識学び、人形等を用いて保育に必要な技術の実践ができる。 また、前期科目・乳児保育Ⅰと後期科目・乳児保育Ⅱを習得した時点で、自分で決めたテーマ(乳児保育の課題の中で)についてレポートにまとめ発表できる。						
事前(準備)・事後学習の内容 ・事前学習：授業内容によって、指定したテーマや課題について学習する。演習の際には演習項目と手順等をテキストの該当箇所を熟読し、不明な点などを明確にしておく(1時間)。 ・事後学習：プリント、ノート等を見返し、ポイントを整理する。特に乳幼児期の心身の発達の講義では、テーマ別に学んだ発達を年齢別にまとめていくなどの工夫をし、マイノートに活かしていく(1時間) ・事前事後に関わらず、赤ちゃんや赤ちゃんを取り巻く環境(通学途中、赤ちゃん用品売り場、近所の子)に興味を持ち、赤ちゃんや育児・保育に関する新聞記事やニュースに関心を持ち興味を持つ。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第1回： 中村愛児園見学・観察 乳児保育の実際に触れる 第2回： 中村愛児園見学・観察 乳児保育の実際に触れる 第3回： 保育園見学・観察のまとめ 第4回： 乳児保育の援助の実際① 講義 排泄 清潔 沐浴 第5回： 乳児保育の援助の実際② 演習 おんぶ 抱っこ ⇔ 事例の読み取り 第6回： 乳児保育の援助の実際③ 演習 おむつ替え、授乳 ⇔ 事例の読み取り 第7回： 乳児保育の援助の実際④ 演習 沐浴 着替え(新生児) ⇔ 乳児の絵本 第8回： 乳児保育の援助の実際⑤ 講義 沐浴 着替え(新生児) ⇔ 乳児の絵本 第9回： 乳児保育の援助の実際⑥ 講義 食事 睡眠						

<p>第10回： 乳児保育の援助の実際⑦ 講義 演習 安心、安全、環境整備</p> <p>第11回： 乳児保育の援助と実際⑧ 講義、演習 保護者との連携、守秘義務</p> <p>第12回： 乳児保育のまとめ DVD</p> <p>第13回： レポート作成① 各自テーマを決め、図書室及びインターネットで調べる</p> <p>第14回： レポート作成② グループディスカッションまたは個人ワーク 前回の続き</p> <p>第15回： レポート発表③ 発表</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌文書林</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針 ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・ 保育用語辞典
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度、参加度、課題の提出等、授業に積極的に取り組む姿勢（50%） ・ 課題レポートの成績（50%）
<p>実務経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐野 眞弓（保育園の保育士・園長 幼稚園の幼稚園教諭・園長 幼保連携型子ども園の園長） ・ 渡邊 悦子（大学病院の看護師・助産師） ・ 石田 みどり（保育園の保育士・現職園長）
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の中に、実務経験を生かした事例を含める。 ・ 教員が、それぞれの実務経験を生かした視点で、理論、技術及び心根を、講義、演習の中に提示することで、多面的、主体的に考えられる授業を展開する。 ・ 石田園長の在職園での乳児保育見学、観察を通し、乳児と一緒に過ごすことで、興味や関心を持つ。

授業科目名 保育の心理学（発達） （専門教育科目）	卒業 必修	幼児 必修	保育士 必修	授業形態：講義 単位数：2単位 開講期：1学年 前期	学術 ・ 実務	担当教員名 佐藤寛之
授業の概要 幼児の心身の発達過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。具体的には、発達の定義、関連概念、発達の規定因、発達の方向性等、発達の特徴・特質、発達段階と発達課題の考え方について理解し、愛着と人間関係の発達、心身の機能と遊びの発達、言語、思考の発達、自我、自己概念の発達、社会性の発達、道徳性の発達について学ぶ。発達の個人差、多様性を理解する。						
授業の到達目標 ①幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用なども含めて、発達に関する代表的理論を学ぶことを通して、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解するとともに、②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を学習することにより、幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解することができるようになる。						
事前（準備）・事後学習の内容 初回の事前学習（2時間以上）としては、周囲で見かける子どもの行動に関心を持ち、子どもの日々の変化、年齢によるできることの違いを観察しておくこと。毎回の授業の過程、ないしは、終了時に、その授業内容のまとめ、振り返り、事後学習と、次回のテーマ・学習事項に関する準備学習ないし、課題学習について指示していくので、それに基づき、毎回、各自、事後学習2時間、次回の準備学習2時間を行い、課題学習に取り組む。特に、事後学習においては、これまでの学習内容を他教科での学び、自身の体験、考え等と照合していくことを通して、発達の意味、子どもの発達していく過程の全体像の構築を図ること。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第1回目：発達とは① 発達の定義とその規定因（遺伝と環境の相互作用）、発達段階、生涯発達の考え方、 第2回目：発達とは② 発達の特徴・特質、ヒトの発達の特異性・特殊性 第3回目：発達の諸理論 発達理論の変遷、ピアジェ、ヴィゴツキーの発達説等 発達と成熟、レディネス、学習、文化との関係性 第4回目：発達課題 発達段階と発達課題；ハヴィガーストの考え、エリクソンの心理・社会性の漸成的発達論等 第5回目：愛着と人間関係の発達 愛着と依存、愛着の形成・発達、応答性と相互作用、愛着の発達段階、 初期経験と愛着の形成が発達全般に及ぼす影響 第6回目：心身の機能の発達（概要チャート） 心身の機能発達の相互関連性 第7回目：心身の機能と遊びの発達① 遊びの理論、遊びの特性、遊びの展開、社会的参加度と遊びの発達 第8回目：心身の機能と遊びの発達② 運動機能、認知機能と遊びの発達（乳児期、幼児前期） 第9回目：心身の機能と遊びの発達③ 運動機能、認知機能と遊びの発達 遊びから課題活動の発達へ（幼児後期以降） 第10回目：心身の機能と遊びの発達④ 視点取得能力の発達、社会的な認知的葛藤、対人関係と創造性・問題解決技能の 発達、認知スタイルの発達 第11回目：言語の発達 言語発達の流れ、メタ言語能力の発達、言語発達と思考 第12回目：思考・知能の発達 表象能力の発達、操作的思考・知能の構成 第13回目：自己概念の発達 自他の分化、名前の認識、性同一性、自尊心、社会的自己、自己主張と自己抑制の発達 第13回目：社会性の発達 対人関係、友人関係の発達、社会的技能の発達 第14回目：道徳性の発達 規範意識、道徳行動の発達、向社会性の発達、共感と思いやりの発達 第15回目：発達と障害 多重知能理論と心身の機能発達の個人内、個人間における多様性と適応について						
テキスト 新井邦二郎 編著『図でわかる発達心理学』福村出版 佐藤寛之他 編著『保育・教職実践演習—子どもによりそう保育とその学びの総合性—』（第2版）横浜女子短期大学 ※説明用資料、学習教材、学習課題を授業内で配布。						

参考書・参考資料等

小田豊・森真理 編著『子どもの発達と文化のかかわり』光生館
※別途参考書を授業の中で紹介する。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

授業で行う課題学習については、当日ないしは、後日、授業時間内で解説と講評等フィードバックを行う。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（33%）とレポート試験（67%）の総合評価

授業科目名 保育の心理学 (学習) (専門教育科目)	卒業 選択	幼免 必修	保育士 本学 指定	授業形態：講義 単位数：2単位 開講期：1学年 後期	学術 ・ 実務	担当教員名 佐藤 寛之
授業の概要 本授業では、現代社会に対応した学習能力の育成という観点から、幼児理解の基礎としての観察、学習と知能の理論、適性 処遇交互作用と教授学習理論、特にアクティブ・ラーニングと、その基礎となる学習に関わる動機づけの概念、集団づくり、 評価と主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。						
授業の到達目標 幼児教育・保育実践に必要と考えられる、現代社会に対応して生きていくために必要となるであろう学習能力の育成のため に、学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的考え方を理解できるよう になる。より具体的には、①様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎について学習する中 で、②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方を発達の特徴と関連付けて理解できるようにな り、③乳幼児、児童の心身の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できるよう になる。						
事前(準備)・事後学習の内 初回の事前学習(2時間以上)としては、周囲で見かける子どもの行動に関心を持ち、教育実習(1年次)において、でき ないことが、できるようになっていく変化の様子や年齢によるできることの違いと、保育者の子どもへの関わり方を観察し ておくこと。前期に学習した、保育の心理学(発達)の学習内容を復習しておくこと。子どもに自信、意欲を持たせる関わ り方について事前に調べるなどして、自分なりに有効と思える方法を考えること。 毎回の授業の過程、ないしは、終了時に、その授業内容のまとめ、振り返り、事後学習と、次回のテーマ・学習事項に関す る準備学習ないし、課題学習について指示していくので、それに基づき、毎回、各自、事後学習2時間、次回の準備学習2 時間を行い、課題学習に取り組む。特に、事後学習においては、これまでの学習内容を、他教科での学び、自身の体験、考え 等と照合していくことを通して、教育的支援の基礎となる、発達と教育、学習の関係性の理解を深めること。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第1回目 教育心理学とは 教育と心理学の関係性、現代社会が必要とする学習能力：問題解決技能の育成 第2回目 幼児理解の基礎 自然的観察と実験的観察、教育場面での参与観察の有用性 第3回目 学習と知能の諸理論 発達と学習、学習の基礎的様式を理解、多重知能理論と知能の三部理論 第4回目 適性処遇交互作用(ATI) 処遇と個人の適性・特性の組み合わせがもたらす学習効果の差異 第5回目 教授学習理論 一斉学習、バズ学習、プログラム学習、オープン 教育、発見学習、有意味受容学習、ジグソー学習、視聴覚教育、メディア教育、体験学習 第6回目 アクティブ・ラーニング 問題解決技能の育成を図る主体的学習 第7回目 動機づけと学習① 欲求の階層説、動機づけの要因—外発的動機づけと内発的動機づけ、動機づけと学習過程 の関係性 第8回目 動機づけと学習② 内発的動機づけの諸理論：認知的動機づけ、達成動機づけ—成功追求動機と失敗回避動 機、自己決定理論、学習の統制感 第9回目 動機づけと学習③ 帰属理論と動機づけ—原因帰属、学習された無力感の克服、自己効力感の育成 第10回目 動機づけと学習③ 動機づけと自他の認知：期待効果—ピグマリオン効果、社会的現実の構築、教師期待効果 と学習支援 第11回目 動機づけと学習④ 自尊心の維持、高揚と社会的比較過程及び自己提示と学習、競争と協同的状況がもたらす 効果、自尊心を高めるかわり方 第12回目 主体的学習を支える集団づくりアプローチ：発達に沿った支援の流れ 第13回目 教師・保育者に求められる特質、カウンセリング・マインド：人格を尊重し、自己成長力を育む子どもへのか かわり方 第14回目 カウンセリング・マインドの効用から見た望まれる教師・保育者像 第15回目 子どもの内面性の理解とそれを踏まえた評価						

テキスト

藤士圭三 監修『心理学からみた教育の世界』北大路書房 ※別途説明用資料を授業内で配布。
佐藤寛之他 編著『保育・教職実践演習—子どもによりそう保育とその学びの総合性—』（第2版）横浜女子短期大学
※説明用資料、学習教材、学習課題を授業内で配布。

参考書・参考資料等

渡部雅之・豊田弘司 著『教育心理学Ⅰ：発達と学習』サイエンス社
※別途参考書を授業の中で紹介する。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

授業で行う課題学習については、当日ないしは、後日、授業時間内で解説と講評等フィードバックを行う。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（33%）とレポート試験（67%）の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 細野美幸
子ども家庭支援の心理学 (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 前期		
授業の概要 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。 2. 初期経験の重要性、発達課題、各時期の移行等について理解する。 3. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 4. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。 5. 子どもと養育者の精神保健とその課題について理解する。						
授業の到達目標 ・ 子育てに関わる諸問題について知り、真摯に向き合っていくことができる。 ・ 親子関係・家族関係の重要性と子どもの発達に与える影響について理解し、子育て支援に活かすことができる。 ・ 乳幼児期から老年期に至るまでの生涯発達の過程を理解し、育児不安に陥る養育者の心の問題に向き合い、子どもを中心とした家庭支援の在り方について考えることができる。 ・ 子どもと養育者の心をケアし子育てを支えるための方法について具体的に考えることができる。						
事前(準備)・事後学習の内容 事前学習：次の時間で扱う授業内容に該当するテキストページを事前に読み込み、不明点を明確にしておく(2時間)。事後学習：プリントおよびテキストを使って授業内容を振り返る時間を持ち、感じたことや考えたことを記述しまとめる(2時間)。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ②, DPⅡ④						
授業計画 第1回： 授業オリエンテーション：なぜ「子ども家庭支援の心理学」を学ぶのか 第2回： 生涯発達①：初期経験の重要性と乳幼児期の発達 第3回： 生涯発達②：学童期における発達 第4回： 生涯発達③：成人期・老年期までの発達(発達課題、アイデンティティの問題など) 第5回： 親としての力・親としての成長①：子育ての現状 第6回： 親としての力・親としての成長②：親の発達と子育て支援 第7回： 子育てを取り巻く社会的状況①：親子・家族関係の理解 第8回： 子育てを取り巻く社会的状況②：女性のライフコースと仕事・子育て 第9回： 子育てを取り巻く社会的状況③：虐待のリスク要因 第10回： 多様な家庭・特別な配慮を要する家庭とその理解 第11回： 発達支援の必要な子どもがいる家庭とその理解						

<p>第12回： 子どもの精神保健①：生活・生育環境とその影響</p> <p>第13回： 子どもの精神保健②：子どもの心の健康と不調</p> <p>第14回： 子どもと家族を支えるために：関連テーマについての資料収集</p> <p>第15回： 子どもと家族を支えるために：関連テーマについての発表</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>青木紀久代（編）「子ども家庭支援の心理学」みらい（株）、2019年</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>無藤隆・中坪史典・西山修（編）「発達心理学」ミネルヴァ書房、2010年他</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中に課したレポートに対しては、次回授業時間においてフィードバックを行う。 ・ 課題等の内容は授業時間内での相互閲覧・共有を可能にし、講評を行う。 ・ 小テストについては授業時間内でフィードバックを行う。
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト・定期試験 60%、授業参加 30%、提出物 10%</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術	担当教員名
子どもの理解と援助 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：1 学年 後期	・ 実務	小林 聡子
授業の概要 子どもの行為や表現する事柄にもとづいて子どもを理解する方法や保育者としての対応の仕方を具体的な事例を用いて学ぶ。また、記録をもとにした子ども理解の基礎的な方法と視点を学習する。さらに、子どもを取り巻く家庭・園・地域などの環境と子ども理解についての関連性について理解し、教育相談にて心理臨床に従事してきた担当教員と実際のな子どもの育ちと子育てを支援する方法について考えていく。						
授業の到達目標 保育における「子どもを理解する」ことが、保育者の子どもへの「援助」にどのように関係してくるのか、理解を深めるために、必要な知識を習得し、自分自身で考えることができる。						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習：毎回テキストの該当箇所を事前に読み込んでおくこと。また、指定のされた課題がある場合はそれに取り組んでおくこと（2時間） 事後学習：プリントやノートを確認し、ポイントを整理しておくこと（2時間）						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第1回： 保育における「子ども理解」とは 第2回： 子どもを取り巻く環境の理解① ブロンフェンブレンナーの生態学モデル、地域環境について 第3回： 子どもを取り巻く環境の理解② 子どもの貧困と虐待 第4回： 子ども理解における発達の観点① 子どもの発達 ピアジェ、エリクソンの発達理論 第5回： 子ども理解における発達の観点② 各年齢の発達段階に対する理解 第6回： 子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド、アサーショントレーニング 第7回： 保育における観察と記録の実際① 記録の方法を学ぶ 第8回： 保育における観察と記録の実際② ワーク 第9回： 記録にもとづく保育カンファレンス 第10回： 保育における個と集団の関係の理解と援助 第11回： 一人一人の子どもの特性の理解と援助 —発達に応じた援助とかかわり— 第12回： 一人一人の子どもの特別なニーズの理解と援助—特別な配慮を必要とする子どもとかかわり— 第13回： 関係者期間との連携 子育て支援と地域の関連専門機関との関わり 第14回： 保護者理解と援助の基本 現代の子育て環境への理解および保護者の心情への理解 第15回： まとめ（事例を用いたワーク）						
テキスト 高嶋景子・砂上史子 編 『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』ミネルヴァ書房						
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介						
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ワークや事例、課題については、授業時に解説を行うなどフィードバックする。						
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢・態度 30% 授業内課題 30% レポート試験課題 40%						

実務経験

公認心理師・臨床心理士として、精神科クリニック、大学相談室、公立学校でのカウンセリングに従事

実務経験を活かした教育内容

検討する事例において、実務経験を活かした視点、見解を提示する。

授業科目名 教育相談 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 小林聡子
	選択	必修		開講期：2学年 後期		
授業の概要 保育士・幼稚園教諭が行う教育相談について、その役割と特徴を理解し、教育相談の方法と基礎を学ぶ。カウンセリングの基礎・技法および人間理解への臨床心理学的知識を習得し、子どもおよび保護者支援への理解を深める。実際に保護者の教育相談に従事している担当教員より、配慮の必要な保護者の支援について、ロールプレイや事例を通して学ぶ。						
授業の到達目標 保育士・幼稚園教諭として、子育て支援としての教育相談の重要性を理解し、カウンセリングマインドの姿勢とスキルを身につけることができる。また、乳幼児期の子どもとその保護者をめぐるさまざまな問題に対して、専門的な知識を習得し、柔軟かつ多面的に対応できるように支援方法について、理解を深め、実際の保育、相談場面に応用できる。						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習：テキストの該当箇所（授業で指示します）を熟読し、不明点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（2時間）						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第1回目：教育相談とは ー教育相談の役割と特徴、子どもと保護者への支援について考える 第2回目：カウンセリング態度の基礎および技法①ー来談者中心療法について 第3回目：カウンセリング態度の基礎および技法②ーアセスメントおよびその他の心理療法について 第4回目：人間理解のための臨床心理学概論①ー精神障害への理解（統合失調症、うつ病、不安障害） 第5回目：人間理解のための臨床心理学概論②ー精神障害への理解（パーソナリティ障害、PTSD） 第6回目：子どもの発達理解ー発達段階と発達課題、感情コントロールについて 第7回目：子どもの発達と臨床①ー子どもの問題行動について 第8回目：子どもの発達と臨床②ー虐待への対応、トラウマを受けた子どものケアについて考える 第9回目：子どもの発達と臨床③ー発達障害について 第10回目：配慮の必要な保護者への支援①ー障害やその傾向のある子どもをもつ保護者への支援 第11回目：配慮の必要な保護者への支援②ー障害のある保護者への支援 第12回目：保育者の行う教育相談の具体的展開①ー事例検討を通し、教育相談の進め方について学ぶ 第13回目：乳幼児をもつ家庭への理解ー日本の子育て環境および産後の親のメンタルヘルスについて 第14回目：子どもの社会性を育てる ーSSTなど具体的援助方法について学ぶー 第15回目：保育者の行う教育相談の具体的展開②ー事例検討を通し、外部専門期間との連携について学ぶ						
テキスト 小田豊 秋田喜代美 編 『子どもの理解と保育・教育相談 第2版』 みらい						
参考書・参考資料等 吉田圭吾 著 『教師のための教育相談技術』金子書房 その他、授業内にて適宜提示する。						
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。						
学生に対する評価 レポート（26%）、授業に取り組む姿勢・態度（24%）、授業内小テスト（50%）の総合評価						

実務経験

公認心理師・臨床心理士として、精神科クリニック、大学相談室、公立学校でのカウンセリングに従事

実務経験を活かした教育内容

検討する事例およびロールプレイにおいて、実務経験を活かした視点、見解を提示する。

授業科目名 保育内容総論 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学術</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">実務</div>	担当教員名 鶴野澤武美
	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期		
授業の概要 乳幼児保育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身に付ける。						
授業の到達目標 ・保育の基本姿勢と、保育内容の全体構造について理解する。 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育の領域について理解する。 ・園生活全体を視野に入れて子どもの遊びや活動は総合的なものであることを理解し、指導計画の考え方や具体的な保育実践を身に付ける。						
事前(準備)・事後学習の内容 ・事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を熟読した上で不明な点を明確にしておく。(1時間) ・事後学習：プリント、ノート等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する。(1時間) ・保育内容、保育の領域について深く学ぶために、前期に履修した保育原理や各領域のねらい及び内容を復習しておくこと。また、実習で経験したこと、学んだこと、疑問点などを整理し、自分が保育者であったらどうするかというイメージを持って授業に臨むこと。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回目：保育の基本と保育内容を理解する ー保育内容とは何を指しているのかを理解し考え方の全体像を捉える 第2回目：養護と教育が一体的に展開する保育 ー養護と教育が一体となった保育について、乳幼児期の育ちを通して考える 第3回目：環境構成を分析して、物的環境や人的環境との関わりについて話し合う ー視聴覚教材を活用しながら、外遊びでの環境構成を観察し理解する 第4回目：子どもの生活場面を通して、保育内容を理解する ー保育の1日の流れを知り、子どもがどのように発達に必要な経験を積んでいるのか考える 第5回目：子どもの食事の在り方や指導法について学ぶ ー「はじめてのお弁当(給食)」をどのように指導するのか学ぶ 第6回目：遊びを通しての指導 ー遊びを通して総合的に指導するという考え方を理解する 第7回目：子どもの遊びを分析して、どのような経験をしているのか話し合う ー視聴覚教材を活用し、子どもの自由遊び場面を観察し理解する 第8回目：「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と活動のつながり ー乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する 第9回目：幼保小の連携について考え、就学前教育における見方・考え方を話し合う ー就学前教育と小学校教育の違いについて学ぶ 第10回目：保育における計画の重要性 ー実際の教育課程・全体的な計画、長期指導計画、短期指導計画について学ぶ 第11回目：保育における記録 ー保育の計画、評価という視点から、記録の内容と留意点について学ぶ 第12回目：園生活における行事について ー視聴覚教材を活用しながら、行事の在り方や指導法について学ぶ 第13回目：支援を要する子ども理解とクラス運営および指導上の配慮 ー支援を要する子どもの生活・遊びと保育者の役割や環境構成を理解する						

<p>第14回目：模擬保育を目指して指導案を作成する —子ども理解、目標、保育の内容、保育者の役割、評価について学ぶ</p> <p>第15回目：模擬保育をグループで実施する —ねらい及び内容に沿って指導することを実践で学ぶ</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>神蔵幸子 宮川満寿美 編『保育内容総論』青踏社 二階堂邦子 編『保育学のはじめの一步 -おさなごにまなぶ-』横浜女子短期大学</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 内閣府 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で取り扱う提出物については、最終回にフィードバックする。 ・理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。
<p>学生に対する評価</p> <p>授業に関して積極的に取り組む態度、レポート課題（40%）と筆記試験（60%）の総合評価</p>
<p>実務経験</p> <p>幼稚園教諭・幼稚園園長・保育士</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>掲示し検討する事例の中に、実務経験を活かした体験的事例を含める。 授業内容の中に実務経験を活かした実践的視点を掲示する。</p>

授業科目名 保育内容研究 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 佐野 眞弓 滝口 節子 兼子 真理 ※一部、関連科目担当教員による指導あり
	選択		必修	開講期：2学年 後期2コマ		
授業の概要 子どもたちにとってよりよい表現活動を展開するためにはどうしたらよいかをグループで考え、テーマの選定と発表内容の構成を行います。その後、メンバー一人ひとりの役割(舞台上の出演者および音響、照明など)を決め、脚本、衣装・大道具・小道具などをグループのメンバー全員での協力のもとで創作します。そして、最終的には1月に実施する「保育内容研究発表会」において、発表をします。						
授業の到達目標 子どもの発達、保育内容(5領域を意識して)の成り立ちについて学習してきたことをもとに、子どもの視点を通した表現活動をグループで行う。また、保育の総合性を理解し、グループ活動のなかでお互いに認め合い・助け合い・高めあっていくことによって、学生一人ひとりの人間性や保育者としての資質を高めていくことができる。さらに、活動にあたっては、一人ひとりが自分の考えを述べることができ、主体的に活動することで、保育者となるにあたっての自信がもてる。						
事前(準備)・事後学習の内容 実習や就職活動が入るなど、限られた時間で活動することになるので、放課後や空き時間、さらには自宅などでもセリフや動きを練習する。また、小道具や衣装の作成などの準備を進めるよう心がけ、自分だけではなくグループ内の他のメンバーの様子にも気を配り、お互いに助け合う姿勢をもつことができるようにする。そして、その日の活動を振り返り、次の活動へと繋げられるようにする。(事前準備2時間、事後学習2時間) なお、時間があれば、プロが行う演劇やミュージカルなどを鑑賞し、よりよい発表を行うための参考とする。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画(前期) 第1回目：オリエンテーション(授業のねらい)ビデオ鑑賞 第2回目：グループ分け、「お話」の構成について 第3回目：テーマの選定に向けた教材研究 第4回目：テーマ、発表内容の調整(発表内容の決定) 第5回目：グループでの活動(活動計画書の作成) 第6回目：グループでの活動(脚本、衣装ラフ画作成) 第7回目：グループでの活動(脚本、小道具ラフ画作成) 第8回目：グループでの活動(脚本完成、読み合わせ) 第9回目：グループでの活動(脚本の修正、読み合わせ) 第10回目：グループでの活動(音響・照明に関する説明) 第11回目：グループでの活動(立ち稽古、小道具制作) 第12回目：グループでの活動(他のグループの立ち稽古の鑑賞) 第13回目：グループでの活動(立ち稽古を鑑賞しての振り返り) 第14回目：グループでの活動(立ち稽古、小道具制作) 第15回目：前期の取り組みについての振り返りとまとめ				授業計画(後期) 第16回目：オリエンテーション(後期の授業の進め方) 第17回目：グループでの活動(立ち稽古) 第18回目：学年全体での立ち稽古の相互鑑賞と評価 第19回目：グループでの活動(立ち稽古、衣装制作) 第20回目：グループでの活動(立ち稽古、衣装制作) 第21回目：グループでの活動(立ち稽古、大道具制作) 第22回目：グループでの活動(立ち稽古、大道具制作) 第23回目：グループでの活動(立ち稽古、大道具制作) 第24回目：グループでの活動(立ち稽古、大道具制作) 第25回目：グループでの活動(リハ前の最終立ち稽古) 第26回目：リハーサル(音響業者立会い) 第27回目：リハーサルを経ての、発表内容の最終調整 第28回目：直前通しリハーサル(音響業者立会い) 第29回目：「保育内容研究発表会」本番 第30回目：1年間の取り組みの振り返りとまとめ		
テキスト 特に指定しません。適宜プリントを配付して授業を行います。						
参考書・参考資料等 各グループの発表内容に応じて適宜紹介し、必要に応じて資料配布。						
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 個人用・グループ用の活動記録をとり、提出しフィードバックする						

学生に対する評価

グループ活動（プロセス・発表）の内容（60%）、グループ活動への参加度（20%）、レポート（自己の振り返り）（20%）

実務経験

佐野真弓 保育所の保育士・園長、幼稚園の幼稚園教諭・園長、幼保連携型認定こども園の園長

滝口節子 保育所の保育士

兼子真理 幼稚園・保育所の絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師

実務経験を活かした教育内容

保育の現場経験がある教員により、子どもの発達や5領域を活かし、保育における楽しめる発表を学び、理解を深める。

授業科目名				授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術	担当教員名
健康 (専門教育科目)	卒業 必修	幼免 必修	保育士 必修	開講期： 1学年 後期	実務	堀内弓子
授業の概要						
<p>健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。</p>						
授業の到達目標						
<p>乳幼児の「からだ」と「こころ」の発達と健康についての現状や問題点を理解し、保育実践に役立つ領域「健康」の指導の知識を学び、技能を身につける。科学的な視点から実践事例を分析する力と各種事例報告をグループ討議により、領域「健康」の指導上の留意点について深く考える力を身につける。</p>						
事前(準備)・事後学習の内容						
<p>事前学習： 次回の授業内容を確認し、テキストを読む (30分) 事後学習： 授業で配布された資料を読み、わからなかった点は文献で調べて次回の授業までに確認し、質問事項も明確にしておく (30分)</p>						
ディプロマポリシーとの関連						
D P II ④						
授業計画						
<p>第 1 回目： 乳幼児期の健康課題 健康の定義と乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境と健康 (テキスト、以下(㊦)とする)p1 第 2 回目： 領域健康のねらい・内容 保育者の支援方法(㊦)p13, 90～92 第 3 回目： 領域健康と他領域との関連 公開行事運動会のねらいと指導の留意点 第 4 回目： 運動会の実践事例から考える 第 5 回目： 乳幼児期の生活習慣の形成 乳幼児期の生活習慣(着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄)の獲得及び生活リズムの形成とその意義(1)(㊦)p37 第 6 回目： 乳幼児期の生活習慣の形成 乳幼児期の生活習慣(着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄)の獲得及び生活リズムの形成とその意義(2) 第 7 回目： 日常生活における運動 社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方(㊦)p20, 2～3 第 8 回目： 乳幼児期の運動発達の特徴 運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味、及び両者の関係(㊦)p62～67 p13, 74 第 9 回目： 遊びとしての運動 子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方(㊦)p142 第 10 回目： 幼児期の怪我や事故の特徴(㊦) p 46～52 第 11 回目： 幼児の安全教育と危険(リスクとハザード) 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理(1)(㊦) p 123～124 第 12 回目： 幼児の安全教育と危険(リスクとハザード) 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理(2) 第 13 回目： 乳幼児期形態的な体の発育の特徴 保育者の配慮(㊦) p 19～27 第 14 回目： 乳幼児期の体の機能的発達 保育者の配慮(㊦) p 27～30 第 15 回目： まとめと振り返り</p>						
テキスト						
吉田伊津美著『乳幼児教育・保育内容シリーズ 保育内容 健康』光生館、2018						

<p>参考書・参考資料等</p> <p>近藤充夫著『幼児の運動と心の育ち』世界文化社、1994 幼児期運動指針ガイドブック 文部科学省編 その他、授業の中で紹介する。また、説明用参考資料を授業内で配布。</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で課題とする提出物については、評価した後、授業内でフィードバックする。 ・提出された課題の中で模範となるレポートを授業内で共有し説明、解説等を行う。 ・理解度を確認するための小テストを実施し、授業時に解説を行ったうえで返却する。
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み・討論への貢献度（10%）、レポート課題（30%）、筆記試験（60%）</p>
<p>実務経験</p> <p>保育所体育指導</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術	担当教員名
健康の指導法 (専門教育科目)	選択	必修		開講期： 2 学年 後期	実務	佐久間 博子
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」のねらい、内容を理解し、幼児期の子どもにとって健康な生活を送るための保育者の役割とはどうあるべきかを考える。 ・保育者として、日常生活の中で「健康」な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うために必要な知識や実践的な指導力を身につける。 ・領域「健康」のねらい、内容を踏まえた実践的な運動の指導法を学ぶ。 						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」のねらい、内容を理解し、幼児期の子どもにとって、健康な生活を送るための保育者の役割とはどのようなものかを理解し、説明ができる。 ・日常生活の中で子どもがどのように自分の健康について留意していくことが望ましいかを理解し、子どもが主体的に健康を意識できるような援助、指導ができる。 ・特に運動的な視点から、保育を展開する中での健康や安全に対する指導法を具体的に指導することができる。 						
事前（準備）・事後学習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業内容を確認し、1年次で学習した「健康」、「子どもの生活と遊びⅢ」の授業と関連する箇所を復習し、乳幼児の体と心の発達と健康について理解しておく。（30分） ・授業で配布された資料を振り返り、わからなかった点は文献で調べて次回の授業までに確認し、質問事項も明確にしておくこと（30分） 						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 <p>第 1 回目：オリエンテーション/保育における「健康」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基本と領域「健康」のねらいと内容 ・子どもにとっての運動会、保育者のあり方を考える <p>第 2,3 回目：健康な心と体を育む保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全を中心とした具体的指導 「運動会」の実際（進行、判定、公正、誘導等） <p>第 4 回目：健康管理と安全能力を育む援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「見通しを持った行動」を促すための援助 <p>第 5 回目：運動あそび場面での保育者の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究「組み立て体操」の意義、留意点、指導法 <p>第 6,7 回目：運動あそび場面での保育者の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究「遊戯」の指導法（創作における留意点・選曲・図解・指導） <p>第 8 回目：遊戯の指導法 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階を踏まえた遊戯作品創作の実際 <p>第 9,10 回目：遊戯の指導法 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解と保育の視点を基盤とした評価 <p>第 11 回目：多様な動きとは(レパートリーとバリエーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の種類と動きの多様性 <p>第 12 回目：多様な運動の経験を促す援助 1(指導案作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動あそびを中心とした具体的な保育場面を想定した指導 <p>第 13 回目：多様な運動の経験を促す援助 2</p>						

授業回	授業内容	テキスト該当ページ ※事前学習として読む部分
第13回	・子どもの育ちを支える保護者と保育者との関わり	136～141 ページ
第14回	・子どもの育ちを支える保育者同士の関わり	141～145 ページ
第15回	・本授業の学習内容の振り返りと確認（期末テスト） ・本授業の学習内容の振り返りと確認（期末テスト）（ポイント解説） ・まとめ ～領域「人間関係」の新しい課題～	146～154 ページ

テキスト

谷田貝公昭監修、小櫃智子・谷口明子編著『新版 実践保育内容シリーズ② 人間関係』一藝社
二階堂邦子・石山直樹・本田幸編著『保育学のはじめの一步 -おさなごにまなぶ-』横浜女子短期大学

参考書・参考資料等

佐々木正美『子どもへのまなざし』ミネルヴァ書房
田代和美・榎本眞実編著『演習 保育内容「人間関係」-基礎的事項の理解と指導法-』建帛社
田宮縁『体験する・調べる・考える 領域「人間関係」〈第2版〉』萌文書林
森上史朗・柏女靈峰編『保育用語辞典〔第8版〕』ミネルヴァ書房

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

課題およびテストの内容などに関するフィードバックは、授業内で全体を対象に行います。
また、必要に応じて個別のフィードバックも行います。

学生に対する評価

期末テスト（筆記試験）（40%）、授業内課題等の取り組み状況（35%）、授業に取り組む姿勢（25%）

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術	担当教員名
人間関係の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	実務	本田 幸
授業の概要 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をもとに、保育において育みたい資質・能力、幼児期のおわりまでに育てほしい姿を確認し、保育の総合性をふまえて、領域「人間関係」との関連について学ぶ。 特に「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」に関連する保育内容について考えていく。その上で、子どもが生活や遊びを通して人と関わる力を育むための具体的な保育実践について学ぶ。						
授業の到達目標 ・保育内容の構造から領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、保育計画の作成と実践を行うことができる。 ・乳幼児期の発達と照らし合わせながら保育場面での子どもが人との関わりを広げていくプロセスと人との関わりを豊かにしていくための保育者の役割について学び、具体的援助の方法と関連づけることができる。						
事前(準備)・事後学習の内容(目安時間)※ 初回授業前までに前期に学習した「人間関係」の内容をしっかりと復習し、乳幼児期の人間関係の発達等、基本的な知識は身に付けておくこと。また、保育の基本、保育内容の構造、5領域、は保育を行う上での基本的事項である。繰り返し復習しておくこと。 各回の授業前には、「幼稚園教育要領」「保育所保育士指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当する部分を予習しておくこと。(事前準備学習2時間)						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回目：オリエンテーション 第2回目：保育内容の構造 第3回目：領域「人間関係」のねらい及び内容① 第4回目：領域「人間関係」のねらい及び内容② 第5回目：3歳未満児の保育における人との関わり 第6回目：幼児の自立心を育む援助 第7回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助①－3歳児 第8回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助②－4歳児 第9回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助③－5歳児： 第10回目：協同性 第11回目：道徳性・規範意識の芽生え 第12回目：自己調整力の育ち－子どもの折り合う姿 第14回目：ルールのある遊びと保育者の援助(演習) 第15回目：まとめ 一人と関わる力を育むための保育者の役割－ 定期試験						
テキスト 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省						
参考書・参考資料等 ：随時授業時に紹介する。						

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名																																							
人間関係 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1 学年 前期		石山 直樹																																							
授業の概要 乳幼児期の子どもの人間関係の発達過程および領域「人間関係」のねらいと内容を学習します。また、現代社会において乳幼児期の子どもが人と関わる力を育むうえでの問題点や課題を考えます。さらに、自己理解・他者理解の重要性に関する学習を通して、保護者と保育者および保育者同士の間関係のあり方についても学習します。																																													
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どもの人間関係の育ちを理解し、その特徴を説明することができる。 ・保育の基本のひとつである、領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、その内容を正しく説明することができる。 ・領域「人間関係」のねらいと内容、および乳幼児期の人間関係の育ちを総合的に捉え、保育実践においてその知識を適切に活用することができる ・社会で生活していく者として「人と関わること」の意味を的確に捉え、それを説明することができる。 ・自己理解・他者理解を深め、保育者を目指す者としての他者（子ども・保護者・保育者など）との適切な関わりを行うことができる。 																																													
事前（準備）・事後学習の内容 【事前・事後学習】 （各回、事前学習と事後学習を合計して1時間） 事前学習としては、各回の授業内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所（下の「授業計画」部分に記載）を熟読して、その概要を捉える。 事後学習としては、テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。不明な点についてはテキストやインターネットなどを活用して調べる。もし不明な点が解消されない場合は、次回授業時などに担当教員に確認できるようまとめておく。																																													
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④																																													
授業計画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">授業回</th> <th style="width: 60%;">授業内容</th> <th style="width: 30%;">テキスト該当ページ ※事前学習として読む部分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>・オリエンテーション(授業内容と展開方法、評価方法などの説明) ・保育の基本として重視すべき事項について</td> <td>9～18 ページ</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>・領域「人間関係」のねらいと内容</td> <td>19～28 ページ</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>・乳幼児の「人への関心」</td> <td>29～37 ページ</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>・人との関係の始まり</td> <td>38～47 ページ</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>・人との関わり方の基盤 ～アタッチメントの形成～</td> <td>48～56 ページ</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>・自我の発達</td> <td>57～66 ページ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>・道徳性・規範意識の芽生え</td> <td>67～76 ページ</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>・思いやりと社会性の発達</td> <td>77～85 ページ</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>・子どもと家族との関わり</td> <td>86～95 ページ</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>・子どもと保育者との関わり</td> <td>96～105 ページ</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>・遊びの中での関わり方の育ち</td> <td>106～116 ページ</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>・友達との関わり</td> <td>117～126 ページ</td> </tr> </tbody> </table>							授業回	授業内容	テキスト該当ページ ※事前学習として読む部分	第1回	・オリエンテーション(授業内容と展開方法、評価方法などの説明) ・保育の基本として重視すべき事項について	9～18 ページ	第2回	・領域「人間関係」のねらいと内容	19～28 ページ	第3回	・乳幼児の「人への関心」	29～37 ページ	第4回	・人との関係の始まり	38～47 ページ	第5回	・人との関わり方の基盤 ～アタッチメントの形成～	48～56 ページ	第6回	・自我の発達	57～66 ページ	第7回	・道徳性・規範意識の芽生え	67～76 ページ	第8回	・思いやりと社会性の発達	77～85 ページ	第9回	・子どもと家族との関わり	86～95 ページ	第10回	・子どもと保育者との関わり	96～105 ページ	第11回	・遊びの中での関わり方の育ち	106～116 ページ	第12回	・友達との関わり	117～126 ページ
授業回	授業内容	テキスト該当ページ ※事前学習として読む部分																																											
第1回	・オリエンテーション(授業内容と展開方法、評価方法などの説明) ・保育の基本として重視すべき事項について	9～18 ページ																																											
第2回	・領域「人間関係」のねらいと内容	19～28 ページ																																											
第3回	・乳幼児の「人への関心」	29～37 ページ																																											
第4回	・人との関係の始まり	38～47 ページ																																											
第5回	・人との関わり方の基盤 ～アタッチメントの形成～	48～56 ページ																																											
第6回	・自我の発達	57～66 ページ																																											
第7回	・道徳性・規範意識の芽生え	67～76 ページ																																											
第8回	・思いやりと社会性の発達	77～85 ページ																																											
第9回	・子どもと家族との関わり	86～95 ページ																																											
第10回	・子どもと保育者との関わり	96～105 ページ																																											
第11回	・遊びの中での関わり方の育ち	106～116 ページ																																											
第12回	・友達との関わり	117～126 ページ																																											

・運動あそび指導の実際

第 14 回目：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教科とのつながり

第 15 回目：これまでの学習の振り返り・確認、まとめのテスト

テキスト

なし

参考書・参考資料等

宮崎 豊・田澤 里喜 著『改訂第2版 健康の指導法』玉川大学出版部、2019（必要な箇所を資料として配布）
その他、授業の中で紹介する。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・講義で課題とする提出物については、評価した後、授業内でフィードバックする。
- ・提出された課題の中で模範となるレポートを授業内で共有し説明、解説等を行う。
- ・理解度を確認するための小テストを実施し、授業時に解説を行ったうえで返却する。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（40%）と発表、実技試験、小テスト（60%）

実務経験

幼稚園体育講師

実務経験を活かした教育内容

授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。

<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 提出課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。</p>
<p>学生に対する評価 授業に取り組む姿勢（30%）、授業後の小レポートおよび提出物（20%）、レポート課題（50%）、の総合評価。</p>
<p>実務経験 幼稚園教諭</p>
<p>実務経験を活かした教育内容 保育内容の構造の理解、及び領域「人間関係」のねらい及び内容については、保育実践の具体的事例等に関連させて学習する。 また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と具体的保育実践の関連について、DVD等の視聴覚教材などを活用しながら、実践力向上につながる学習を行う。</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術	担当教員名
環境 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期	実務	平澤 順子
授業の概要 保育所などにおける保育士としての実務経験を持つ担当教員により、子どもが環境と関わる事での学びについて、体験的事例を提示し検討を行っていく。また、子どもを取り巻く環境（物的、人的、自然環境、社会的事象）についての理解を深め、乳幼児がそれらに自ら心を動かし、主体的に関わる事の重要性について学ぶ。さらに、それらを通して子どもの活動が豊かになる為の環境構成についても理解を深める。						
授業の到達目標 1) 幼児を取り巻く環境の重要性、乳幼児にとっての環境の意義を理解し、説明できる。 2) 乳幼児の思考・科学的概念の発達を理解し、それらを育むための環境の在り方について知り、応用できる。 3) 幼児期の標識・文字や数字等や情報・施設との関わりを通しての学びを理解し、実施できる。 4) 自然物に触れ、それらの名称や遊びへの取り入れ方を知り、実施できる。						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、次回のプリントを熟読し、疑問点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリント等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する（2時間）						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回： オリエンテーション -領域「環境」で学ぶこと- 第2回： 幼児教育の基本（1）：乳幼児期にふさわしい生活 第3回： 幼児教育の基本（2）：発達に適した環境とそれを通しての教育 第4回： 人的環境としての保育者の役割 第5回： 保育内容「環境」のねらいと内容 第6回： 乳児・1～2歳児の発達の特徴と環境との関わり 第7回： 幼児と自然環境との関わり 第8回： 身近な野草に触れ、それを活用した幼児の遊びを考える 第9回： 幼児と物的環境との関わり 第10回： 身近な素材や廃材を使った遊びを考える 第11回： 幼児と文字や標識、数量・図形との関わり 第12回： 身近にある標識やポスターなどを活用した遊びを考える 第13回： 幼児と身近な情報及び施設との関わり						

<p>第 14 回： 学習内容の振り返り・確認</p> <p>第 15 回： 現代における保育の課題と領域「環境」の重要性</p>
<p>テキスト</p> <p>使用しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>福元真由美 編者代表 事例で学ぶ保育内容『領域環境』 萌文書林、保育所保育指針、幼稚園教育要領等</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。
<p>学生に対する評価</p> <p>総合評価：レポート（30%）、講義の参加態度（20%）、試験（50%）</p>
<p>実務経験</p> <p>保育所の保育士、認定こども園の保育士</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>提示する事例において、実務経験を活かした視点から分析及び検討を行っていく。</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
環境の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期		梅原 正美
授業の概要 人的環境や物的環境を通して、幼児期の五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる）を豊かにする方法を探り、好奇心や探求心を深めながら生きる力について学ぶ。また、地域の社会環境を活用しながら、幼児期の遊びを豊かなものにするのを学ぶ。						
授業の到達目標 ・5領域「環境」の人的・物的・社会的な部分を知り、各々の環境設定ができる。 ・様々な自然に触れることで各々の事象に興味関心をもち、より深い自然環境について学び、事象や現象について考察することにより、「なぜ・どうして」の答えを「なぜならば」に変えることができる。 ・幼児の生きる力を育むための環境構成について学び、どのような環境構成が適切なのかを考察することにより、子ども達の生きる力を育むことができる。						
事前（準備） 各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、五感を研ぎ澄まし、四季の変化による自然環境の移り変わりを、植物や昆虫、小動物などを通して感じ取りながら、気づいたことについて調べてみる。（2時間）						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第 1 回目：子どもの育ちと「環境」の関りを知り、領域「環境」のねらいと内容について学ぶ 第 2 回目：環境構成と子どもの発達について学ぶ 第 3 回目：子どもを取り巻く人的環境について学ぶ 第 4 回目：子どもを取り巻く物的環境について学ぶ 第 5 回目：子どもを取り巻く社会的環境について学ぶ 第 6 回目：子どもを取り巻く自然環境について学ぶ 第 7 回目：子どもの生きる力を育む環境①（自立する心や好奇心、探究心を育む環境について） 第 8 回目：子どもの生きる力を育む環境②（表現する心や道徳心を育む環境について） 第 9 回目：季節に合った植物や昆虫の採集した標本を発表し、身近な自然環境の知識を深める 第 10 回目：子どもの守り育てる環境や気になる子どもとの環境の設定について考える 第 11 回目：子どもの発達にかかわる数・量・形（年齢における数量や図形への関心） 第 12 回目：保育者にかかわる数・量・形（消毒液のつくり方、濃度、割合） 第 13 回目：園生活でみられる数学（野菜から学ぶ形や大きさ、数量） 第 14 回目：遊びの中でみられる数学（サイコロのづくりとすごろく遊び、紙や鉄の図形遊び） 第 15 回目：保育における「環境」の重要性についてのまとめ						
テキスト 酒井幸子・守巧 編著 保育内容『環境』 萌文書林 吉田明史・田宮緑 編著 保育者が身につけておきたい『数学』 萌文書林						
参考書・参考資料等 福元真由美 編者 事例で学ぶ保育内容『領域 環境』 萌文書林 森のムッレ協会新潟 編集 身近な自然と遊んで育つ保育実践 わかば社 大豆生田啓友 編者 草花のある園庭と季節の自然遊び フレーベル館						

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。

講義で取り扱う提出物については、最終回にフィードバックする。

実践のスキル向上のために行う造作品の課題等については、授業時間内で学生同士評価したうえで、講評等を行った後にフィードバックする。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(40%)と レポート試験(60%)の総合評価

実務経験

保育所の園長 日本保育学会の会員

実務経験を活かした教育内容

実務経験の中で、体験した事例を提示・活用し、保育に携わる者へのスキルを具体的に向上させる。

授業科目名 言葉 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術	担当教員名 本田 幸
	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期	実務	
授業の概要 幼児が豊かな言葉や表現を身につけるために必要な基礎的知識を学ぶ。人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、乳児期から幼児期後期の言葉の発達過程を学習する。幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識や技術について基礎的事項を学ぶ。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・人間にとって言葉を持つことの意義を説明することができる。 ・子どもの言葉が発達していく道筋について理解している。 ・言葉の楽しさや美しさに対する感覚を育てるために、絵本、紙芝居等の児童文化財の意義を理解し、基礎的な技術が習得できている。 ・子どもの言葉を豊かに育むための保育実践力の基盤が身についている。 						
事前（準備）・事後学習の内容 日常生活の中で、言葉に関心を持ち、言葉の美しさや楽しさを見つけることを心がける。子どもの言葉に着目して、子どもが言葉を獲得していく姿や言葉を楽しみ、味わっている様子などを積極的に観察する。特に言葉の発達過程に関しては、繰り返し復習し知識をしっかりと自分のものにする。 絵本や紙芝居などの子どもの言葉を育む児童文化財について興味・関心をもつ。 授業前には、関連する箇所についてテキストを読み、意欲をもって授業に臨むこと。 (事前・事後学習の目安時間： 事前学習 2時間)						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第 1 回目：オリエンテーション ー身近な生活から言葉の意義について考えるー 第 2 回目：人間にとって「言葉」とは何か？ 第 3 回目：子どもにとって言葉 ー言葉の世界が広がるときー 第 4 回目：保育者の言葉、実習生の言葉 第 5 回目：保育内容 領域「言葉」 第 6 回目：言葉の発達過程を学ぶ① 前言語コミュニケーションの発達 第 7 回目：言葉の発達過程を学ぶ② 非言語から言語へ 第 8 回目：言葉の発達過程を学ぶ③ 2歳児の言葉の発達 第 9 回目：言葉の発達過程を学ぶ④ 3歳児の言葉の発達 第 10 回目：言葉の発達過程を学ぶ⑤ 4～5歳児の言葉の発達 第 11 回目：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財Ⅰ (絵本) 絵本とは何か、絵本の与え方 第 12 回目：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財Ⅱ (絵本) 絵本の読み聞かせの実践 (演習) 第 13 回目：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財Ⅲ (紙芝居) 紙芝居について理解を深める 第 14 回目：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財Ⅳ (紙芝居) 紙芝居の実践 (演習) 第 15 回目：子どもの言葉を育むこと (まとめ)						
テキスト 駒井美智子編『保育者をめざす人の保育内容「言葉」[第2版]』株式会社みらい						

<p>参考書・参考資料等 今井和子『子どもとことばの世界』ミネルヴァ書房</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。</p>
<p>学生に対する評価 授業に取り組む姿勢（30%）、授業後の小レポートおよび提出物（30%）、レポート課題（40%）の総合評価</p>
<p>実務経験 幼稚園教諭</p>
<p>実務経験を活かした教育内容 子どもにとっての言葉の意味や子どもの言葉の発達過程を学習する際に、保育実践の場での事例や具体的な子どもの姿を交えて学ぶ。 特に、第12回目、第14回目の授業では、保育教材としての絵本、紙芝居について、実践での場を想定し基礎的な技術が身に付く演習を行う。</p>

授業科目名 言葉の指導法 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術	担当教員名 本田 幸
	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	実務	
授業の概要 幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、「幼稚園教育要領」に示された領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現するための保育実践について学ぶ。保育者と子どもとの関わりから生まれる言葉、友達との関わりを通して豊かになる言葉など、事例を通して学習する。具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を学ぶ。 保育活動として行われる絵本の読み聞かせや、児童文化財の活用など計画・実践・評価を含む授業から、互いの学び合いにつなげる。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」について理解している。 ・子どもの言葉の育ちを踏まえた保育のあり方や子どもの言葉を育む保育者の関わりについて具体的に実践と結びつけて考えることができる ・絵本の読み聞かせや紙芝居、言葉遊びなどの具体的な指導案作成、実践、振り返りを行い、保育を構成する力が身につけている。 						
事前（準備）・事後学習の内容 初回授業開始前には、前期に履修した「言葉」の授業や関連する科目の内容をきちんと復習し整理する。さらに、実習体験などを通して、子どもの言葉が育つ過程や、子どもの言葉の面白さなどに着目し、自分なりに記録、考察する。絵本や紙芝居など保育教材についても図書館などを利用し、積極的に知識・実践力を広げる。 授業前には、関連する箇所についてテキストを読み、意欲をもって授業に臨む。 (事前・事後学習の目安時間： 事前学習 2時間)						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第 1 回目：保育における「言葉」とは？ — 保育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容 第 2 回目：子どもの言葉を育む保育技術① — おはなしについて学ぶ 第 3 回目：子どもの言葉を育む保育技術② — おはなし作り 第 4 回目：子どもの言葉を育む保育技術③ — 絵本の読み聞かせ、絵本の選び方 第 5 回目：保育の内容① — 乳児保育に関わるねらい及び内容 第 6 回目：保育の内容② — 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 第 7 回目：保育の内容③ — 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容 第 8 回目：子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 — ペーパーサートについて学ぶ 第 9 回目：子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 — ペーパーサートの製作（演習） 第 10 回目：子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 — ペーパーサートの発表（演習） 第 11 回目：子どもの言葉を育む保育の構想 — 指導計画の考え方 第 12 回目：子どもの言葉を育む保育の構想 — 具体的な保育場面を想定した指導案の作成 第 13 回目：子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 — 紙芝居について学ぶ 第 14 回目：言葉での関わりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援 第 15 回目：言葉の発達を支える保育者のかかわり						
テキスト						

<p>駒井美智子編『保育者をめざす人の保育内容「言葉」[第2版]』株式会社みらい</p>
<p>参考書・参考資料等 今井和子『子どもとことばの世界』ミネルヴァ書房</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 レポート課題、保育実践の演習授業等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。</p>
<p>学生に対する評価 授業に取り組む姿勢（30%）、授業後の小レポートおよび提出物（20%）、レポート課題（50%）、の総合評価。</p>
<p>実務経験 幼稚園教諭</p>
<p>実務経験を活かした教育 第5回目、第6回目、第7回目の保育の内容の授業については、具体的な実践事例などを踏まえて、子どもの興味・関心や発達過程を踏まえた保育について学習する。 絵本、紙芝居、お話し、ペープサート等の保育に活用される教材に関する授業では、児童文化財としての知識を学ぶとともに、指導案作成や保育場面を想定した発表等、実践力を高める。</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名
音楽表現 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1 学年 前期		横森 弘之
授業の概要 領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。						
授業の到達目標 (簡易リズム・音楽理論・歌唱指導・重唱) 本授業のテーマは、幼児の表現の発達について考察するとともに、『豊かな感性と表現』の内容を音楽の実体験を通し、領域『表現』に関する専門事項を習得することができる。また、幼児の感性の発達の姿や、発達にふさわしい援助を理解し、幼児期の感性と表現の育ちの全体像がとらえられる音楽的表現能力を習得することができる。 具体的には、以下の8つの到達目標を設定している。 ①幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。②表現の生成する過程について理解していることができる。③幼児の素朴な音楽表現を見出し、受け止め、共感することができる。④様々な音楽表現を感じる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。⑤身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした音楽表現ができる。⑥音楽表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。⑦協働して音楽表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。⑧様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。						
事前(準備)・事後学習の内容 事前学習： 講義終了前に次回の課題を提示し、事前説明及びプリントを配布して次回の講義に備える。(2時間) 事後学習： 授業で理解出来なかった箇所をプリント等から調べて理解できるようにする。(2時間) 尚且つ理解できない箇所は教員に質問する。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回： 領域「表現」のねらい及び内容の理解 教材 P6～8 童謡 P31～36 幼児教育における領域「表現」の位置付けについて理解する。また、自分自身の表現を振り返りその生成過程における内的な作用の重要性やモノとの関わりについて理解する。 第2回： 幼児の表現の発達の理解 教材 P10～11 童謡 P37～40 乳幼児の表現の芽生えの発達について理解し、幼児の素朴な表現に気付くことができる。 第3回： 環境との対話 教材 P12～13 童謡 P43～46 身体の諸感覚を通して環境と対話し、感受性を豊かにする。自らの感性を環境にひらき、感性的な出会いの豊かな環境と表現の関係について理解する。 第4回： 身の周りの音・声・楽器による音楽遊び 教材 P13～14 童謡 P46～49 生活や遊びの中にある声や音の面白さに気付く。声や動き等、自ら創り出す音の多様性を生かした表現を行う。声や楽器等を用いて、応答的な音楽表現を即興的に行う。 第5回： 豊かな表現のために 教材 P14 童謡 P51～53						

季節や行事の歌を用いて、言葉の意味や情景が伝わるような、表情豊かな歌唱表現を身に付ける。
合唱や合奏等のアンサンブルを通じ、音や声の重なり 合う美しさを体験する。

第6回： 簡易な楽器を用いて、幼児の発達に即したリズム遊びの展開例の考案 教材 P15 童謡 P54
～56

わらべうたや手遊び歌を体験することを通じ、音楽的な「学び」について考える。

第7回： イメージを音に表現 教材 P14 童謡 P59～62
心情や情景などを、楽器や声、身の周りの音を使い、協働して表現する。言葉のイントネーション
やリズムを生かし、協働して簡易な曲を創作する。

第8回： ICTの活用と総括 教材 P15 童謡 P63～64
ICTを活用した音楽表現活動を具体的に考える。学習のまとめを発表する

第9回： ことばのイメージを創造する 教材 P15 童謡 P64～69
生活や遊びの中で歌っている曲にテーマを決めて、『替え唄』にして楽しむ

第10回： 即興表現を考える 童謡 P70～72
生活や遊びの中で使っている子どもたちの言葉から、それを即興で歌にして表現する

第11回： ボディーパーカッションの定義と実践 1. 童謡 P75～80

第12回： ボディーパーカッションの定義と実践 2. 童謡 P83～85

第13回： 幼小接続（乳幼児期に育まれる音楽表現と小学校低学年音楽科での学びとの連続性）の理解と、
歌唱の実践 童謡 P86～90

第14回： 幼小接続（乳幼児期に育まれる音楽表現と小学校低学年音楽科での学びとの連続性）の理解と、
器楽の実践 童謡 P91～110

第15回： 幼児期の感性の育ちのまとめ及び学生による発表

定期試験 実技試験及び筆記試験

テキスト

「幼児のための音楽教育」教育芸術社 「たのしく打楽器」共同音楽出版 「童謡カレンダー」東亜音楽出
版 及び作成プリント

参考書・参考資料等

進度に合わせて作成したプリントで授業を行う。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

小テストや課題等については、授業時に解説を行い返却する。

前回の授業で理解出来なかった箇所を確認して授業時間内でフィードバックを行う。

前期末、後期末の定期については、試験後にフィードバックする。

学生に対する評価

レポート評価(30%) 学びの確認評価(40%)。授業内評価(30%)

実務経験

芸術学士・幼児リトミック講師・合唱団指導講師

実務経験を活かした教育内容

児童に関する歌唱・器楽演奏表現指導法

ピアノ簡易作曲法・伴奏法・編曲法

日本の唱歌・童謡の歴史的研究及び表現指導

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術	担当教員名
音楽表現の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	・ 実務	横森 弘之 篠原 万喜子
授業の概要 乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深め、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。						
授業の到達目標 音楽表現の指導法 (楽器指導・合奏・即興アンサンブル演奏等) 本授業のテーマは、幼児の豊かな感性や表現する力、創造する力、他者の表現に共感する力、共同する力を援助する技術を習得することができる。単に技術的なスキルではなく学生自身の感性を高め、幼児と共に共感できる資質を育成することができる。 具体的には、以下の9つの到達目標を設定している。 ① 領域「表現」のねらい、内容並びに全体構造を理解していること、②領域「表現」のねらい、内容を踏まえ、(特に音楽表現において) 幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。③幼児教育における評価の考え方を理解できる。④領域「表現」(特に音楽表現)に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解できる。⑤幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解できる。⑥領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。⑦指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。⑧模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。⑨領域「表現」の特性に応じた(特に音楽表現における)保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。						
事前学習： 講義終了前に次回の課題を提示し、事前説明及びプリントを配布して次回の講義に備える。(2時間) 事後学習： 授業で理解出来なかった箇所をプリント等から調べて理解できるようにする。(2時間) 尚且つ理解できない箇所は教員に質問する。 プリントや教科書の内容を授業終了前に確認し、次回に反映できるよう心掛ける。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回： 領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現の姿と関連付けながら理解する。 教材 P100～104 第2回： 乳幼児の発達の過程を理解し、表現活動において育みたい能力等について、具体的に考える。 教材 P107～109 第3回： 表現活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に関連付けながら、幼児の表現における評価の考え方を理解する。P109～110 第4回： 幼児が経験し身に付けていく表現の内容と指導上の留意点を理解する。 教材 P110～111 第5回： 幼児期の表現活動と、小学校の(教科での)学習内容との学びの連続性について理解し、具体的な実践を考える。 教材 P113～116 第6回： 音楽表現における保育実践の動向について学び、保育構想の向上に取り組む。 教材 P116～120 第7回： 音楽表現における保育実践の動向について学び、保育構想の向上に取り組む。						

<p>教材 P123～126</p> <p>第 8 回：豊かな感性を育み表現を引き出す言葉掛けについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用を考える。 教材 P126129</p> <p>第 9 回：感性豊かな音環境について、自ら身体の諸感覚を通じた体験を生かし、具体的な環境構成を考える教材 P129～138</p> <p>第 10 回：表現活動における情報機器及び教材の活用法について学び、実際に体験することを通し、保育構想に活用できる具体案を考える。 P138～139</p> <p>第 11 回：指導案作成について学び、音楽的なねらいについて具体的に考えるとともに、様々に教材研究を行う。</p> <p>教材 P140～144</p> <p>第 12 回：モデルとなる指導案に基づいた保育実践をイメージしたり部分的に体験したりすることにより、保育者の援助について考える。 教材 P146～147</p> <p>第 13 回：3歳未満児の音楽遊びの指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。 教材 P148～152</p> <p>第 14 回：3歳～5歳児の音楽表現の指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える 教材 P153～157</p> <p>第 15 回：ポートフォリオ等の作成を通して保育を振り返り、幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む。 教材 P158～162</p> <p>定期試験 実技及び筆記試験</p>
<p>テキスト</p> <p>「幼児のための音楽教育」教育芸術社 「たのしく打楽器」共同音楽出版 「童謡カレンダー」東亜音楽出版 及び作成プリント</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>進度に合わせて作成したプリントで授業を行う。</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>小テストや課題等については、授業時に解説を行い返却する。</p> <p>前回の授業で理解出来なかった箇所を確認して授業時間内でフィードバックを行う。</p> <p>前期末、後期末の定期については、試験後にフィードバックする。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>演習・授業への取り組み・態度(50%) 提出物(50%)</p>
<p>実務経験</p> <p>芸術学士・幼児リトミック講師・合唱団指導講師</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>児童に関する歌唱・器楽演奏表現指導法</p> <p>ピアノ簡易作曲法・伴奏法・編曲法</p> <p>日本の唱歌・童謡の歴史的研究及び表現指導</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術	担当教員名
造形表現 (専門教育科目)	必須	必修	必修	開講期：1学年 前期	実務	兼子真理
授業の概要 幼稚園・保育園での造形・絵画指導の経験をもつ担当教員により、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的視点を提示しながら学ぶ。幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につけると同時に演習を通して表現活動の楽しさを体験する。						
授業の到達目標 つくり出す喜びとは何かを考え、様々な表現の基礎的な知識・技能について知り、各自でスケッチブックにまとめることにより保育の現場で役立つことができる。						
事前（準備）学習 では指定箇所部分の教科書を読み、演習に必要な材料や道具を揃える（1時間） 事後学習 ではスケッチブックに学びの内容・過程を課題ごとに視覚的にわかりやすくまとめる（1時間）						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回目：ガイダンス 5領域 表現のねらい等授業展開の説明 第2回目：「新聞紙であそぶ」意義、目的を学ぶ 第3回目：身の周りの紙の特徴を学ぶ 第4回目：描画材料 クレヨン・クレパス・コンテパステルの種類と特徴 第5回目：絵の具の性質を学ぶ 第6回目：絵の具の機能と技法あそびを体験 第7回目：技法あそびの目的と意義 第8回目：絵の具の導入① 指導法を学ぶ 第9回目：絵の具の導入② 筆を使用する前段階 第10回目：模造紙に描く（協同制作） 第11回目：版画①系引き模様 第12回目：版画②デカルコマニー 第13回目：版画③マーブリング 第14回目：版画④スパッタリング・ビー玉転がし 第15回目：実習で活用できる制作						
テキスト 吉田 収・宮川萬寿美「造形表現」青踏社						
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 授業で取り扱う提出物について最終回に解説しながら、フィードバックする						
学生に対する評価 演習・授業への取り組み・態度（50%）提出物スケッチブック課題（50%）の総合評価						

実務経験

幼稚園、保育所の造形絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師

実務経験を活かした教育内容

保育所、幼稚園での造形・絵画指導の実務経験を活かし、実践的な造形技法を提示する

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
造形表現の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期		兼子真理
授業の概要 乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深める。幼稚園・保育所の造形絵画指導の経験をもつ担当教員により、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。						
授業の到達目標 保育内容の各領域を総合的に捉え、表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導方法を知る。また表現活動の特徴や面白さを確認することにより、応用や発達を考え実践を重ね、総合的な表現活動を計画・指導・実践する力を身につけることができる。						
事前学習では教科書の指定箇所部分を読み、必要な材料や資料を準備する (1時間) 事後学習では課題ごとに学んだ内容や過程をスケッチブックに視覚的にわかりやすくまとめる (1時間)						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回： 壁面制作 第2回： 折り紙を使用した制作 第3回： 紙版画 第4回： スチレン版画① (一版一色) 第5回： スチレン版画② (一版多色) 第6回： 幼児造形で使用される粘土① (紙・油・泥・小麦粉) 第7回： 粘土② 第8回： クリスマスカード (ステンシル) 第9回： クリスマスの飾り① 第10回： クリスマスの飾り② 第11回： 実践を踏まえた制作① 第12回： 実践を踏まえた制作② 第13回： 指導案を作成 第14回： 指導案に沿って模擬保育を行う 第15回： 振り返りを通して改善点を考える						

<p>テキスト 吉田 収・宮川萬寿美「造形表現」青踏社</p>
<p>参考書・参考資料等 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 授業で取り扱う提出物については、最終回に解説をしながらフィードバックする</p>
<p>学生に対する評価 演習・授業への取り組み・態度（40%）学習内容の様子や気づきをスケッチブックにまとめ、学生自身の学びが可視されたものを評価する（60%）の総合評価</p>

授業科目名 子どもの生活と遊び I (専門教育科目)	卒業 選択	幼免	保育士 必修	授業形態： 演習 単位数： 1 単位 開講期： 2 学年 前期	学術 ・ 実務	担当教員名 横森 弘之 兼子 真理 鵜野澤 武美
授業の概要 乳幼児期の子どもは、日常の生活の中から様々な体験を積み重ねている。子どもが豊かな生活を送るために保育者として必要な知識や技術を実践的に学ぶ。また、季節や日本の自然や風土に根差した、子どもの遊びや生活について理解を深める。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは環境の中で自らを発揮しながら、遊びを通して園生活を楽しむ。日本の春・夏の季節を感じ、日本の伝統文化、行事を総合的に実践し、子どもの生活を質の高い生活へと援助する方法を探究する。 ・豊かな保育実践に必要な生活の基礎を身につける。 ・学んだことを指導案作成の作業を通し、保育と関連付けられる。 						
事前（準備）・事後学習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テーマについて基本的なことを調べて授業に出席する。（1時間） ・事後学習：内容を復習し、指導案を作成する。（1時間） また、身近なことに目を向け、生活の基礎となる技術を身に付けるようにする。日本の伝統や文化に関心を持つ。授業後は、内容を復習し生活者としての知識や技術を身に付けるように努力すること。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回：ガイダンス(授業の概要説明・導入) 第2回：日本の季節感を感じる童謡や行事の意義を考察し発表する。 童謡・唱歌の創成期から現在までの曲を表にまとめ考察する。 実際に歌い表現の違いを発表する。 コード進行の基礎を学習する。 第3回：季節感に関する曲を各自表にまとめ発表する。 実際に歌いながら各自注意点を発表しまとめる。 明瞭な発音や言葉の意味を考査する コード進行の基礎を学習する。 第4回：プロの歌い方のCDや動きをスマホを用いて学習する。 声の出し方、音程感覚、発音の明瞭、言葉の意味を伝える表現力等を CD・スマホ等から見聴き、意見交換しながらプレゼン力を磨く。 コード進行の基礎を学習する。 第5回：アニメ曲、ディズニー曲等を調べ発表しながら合奏を楽しむ コード進行の基礎を学習する。 全体のまとめを行い、感想文を提出する。 第6回：風を感じる遊びⅠ（乳児編） 第7回：風を感じる遊びⅡ（幼児編） 第8回：自然素材を使った遊び 第9回：紙の遊び（七夕飾り） 第10回：春と夏における、日本の伝統文化や行事について知る 園で行われている行事を知り、図書館等で調べる 第11回：子どもが親しむ春の遊びを知る 春ならではの子どもの遊びや、環境について学ぶ						

<p>第12回：子どもが親しむ夏の遊びを知る 夏ならではの子どもの遊びや、環境について学ぶ</p> <p>第13回：夏の遊びの実践 スライム作りをする</p> <p>第14回：ファイルの製作（授業内で使用するファイル作り）</p> <p>第15回：まとめ（発表）</p>
<p>テキスト</p> <p>神蔵幸子・中川秋美編著『保育を支える生活の基礎～豊かな環境のづくり手として～』萌文書林</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業内で随時、紹介する。</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 ・子どもの生活と遊びⅠ・Ⅱ・Ⅲを通じて、一つのファイルにまとめ、発表する。
<p>学生に対する評価</p> <p>授業学習に関して積極的に取り組む姿勢（30%）、課題・発表（70%）の総合評価</p>
<p>実務経験</p> <p>横森弘之 幼児リトミック講師、合唱団指導講師</p> <p>兼子真理 幼稚園・保育所の絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師</p> <p>鶴野澤武美 幼稚園の幼稚園教諭・園長</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>第2回から第5回の授業は、幼児への音楽指導経験のある教員による授業である。季節の歌を取り入れ、子どもに指導するための歌唱法、楽器の指導法等を学ぶ実践的授業である。第6回から9回の授業は、幼稚園、保育所での絵画指導、幼児対象の造形ワークショップの指導経験のある教員による授業である。季節に合わせた遊びの中で実践できる造形の技法を具体的に学ぶ。第10回から第13回は、幼稚園教諭・園長の経験を持つ教員による授業である。春から夏にかけての子どもの遊びや伝統行事を知り、事例の検討や体験を通して園での子どもの生活について理解を深める。また、学んだことが実践に結びつくよう実務経験を活かした掲示をする。</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名 横森 弘之 兼子 真理 佐野 眞弓
子どもの生活と遊びⅡ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2 学年 後期		
授業の概要 ・乳幼児期の子どもは、日常の生活の中から様々な体験を積み重ねている。子どもが豊かな生活を送るために保育者として必要な知識や技術を実践的に学ぶ。 ・季節や自然・風土に根差した、子どもの遊びや生活について理解を深める。						
授業の到達目標 ・子どもは環境の中で自らを発揮しながら、遊びを通して園生活を楽しむ。日本の春・夏・秋・冬の季節を感じ、日本の伝統文化、行事を総合的に実践し、子供の生活を質の高い生活へと援助する方法を探求出来る。 ・豊かな保育実践に必要な生活の基礎を身につける。 ・学んだことを指導案作成の作業を通し、自分の保育と関連付けられる。						
事前(準備)・事後学習の内容 ・事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テーマについて基本的なことを調べて授業に出席する。(1時間) ・事後学習：内容を復習し、指導案を作成する。(1時間) ・また、普段から身近なことに目を向け、生活の基礎となる技術を身に付けるようにする。日本の伝統や文化に関心を持つ。 ・授業後は、内容を復習し生活者としての知識や技術を身に付けるように努力すること。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回：ガイダンス(授業の概要説明・導入) 第2回：様々な曲に保育楽器を用いて楽しく合奏しながら、表現力を磨く。 各自演奏技術を高めると共に、手作り楽器に挑戦する。 紙芝居、エプロンシアター等のBGMを考査し、体験する。 第3回：保育楽器の種類、特徴、演奏方法を習得する。 リズム楽器のみの合奏を経験し適合する曲を考査する。 年齢に合わせた合奏の方法を交差する。 保育楽器と吹奏楽で使用する楽器を用いてコラボして楽しむ。 スマホを活用して音楽に創作ダンスを取り入れ、動きを加え楽しむ。 第4回：紙芝居(読み聞かせ)、エプロンシアター、音楽劇等のBGM作りを経験する。 BGMに必要な定番のリズム楽器とメロディー楽器の効果的な使い方。 保育楽器以外の手作り楽器を紹介し活用してみる。 BGMを入れやすい題材を考えてプレゼンする。 第5回：各グループで紙芝居・読み聞かせ・エプロンシアター・創作劇等にBGMを入れて発表する。 感想文を提出する。 第6回：秋から冬にかけての園や地域の行事について知る ・6～9回に向けてのガイダンス ・10月～3月までの園行事について調べましょう ・住んでいる地域に伝わる文化、行事について調べましょう 第7回：秋から冬にかけての子どもの遊びについて知る ・子どものときに遊んだ遊びを思い出して書き出してみよう ・園で行われている遊びについて調べましょう						

<p>第8回：子どもの遊びⅠ（秋） 「オータムボックス」を作ろう</p> <p>第9回：子どもの遊びⅡ（冬） 「毛糸で遊ぼう」 ボンボン作り、雪の結 etc.</p> <p>第10回：クリスマスカード （でんぐりを使用した立体カード作り）</p> <p>第11回：クリスマスのプレゼント作り 子どもが大好きな行事の準備とは</p> <p>第12回：伝承あそびⅠ 日本の伝統文化</p> <p>第13回：伝承あそびⅡ 世界の伝承あそびを学ぶ</p> <p>第14回：伝承あそびⅢ 折り紙で遊ぼう</p> <p>第15回：合同発表 子どもの生活と遊びⅠ・Ⅱ・Ⅲ</p>
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育を支える生活の基礎 神蔵幸子・中川秋美編著 萌文書林 ・説明用資料を授業内で配布する。
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で随時、紹介する。 ・
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 ・子どもの遊びと生活Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて、課題はファイルにまとめ授業内で発表する。
<p>学生に対する評価</p> <p>授業学習に関して積極的に取り組む姿勢（30%）、課題・発表（70%）の総合評価</p>
<p>実務経験</p> <p>横森弘之 幼児リトミック講師、合唱団指導講師</p> <p>兼子真理 幼稚園・保育所の絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師</p> <p>佐野眞弓 保育所の保育士・園長、幼稚園の幼稚園教諭・園長、幼保連携型認定こども園の園長</p>
<p>実務経験を活かした教育内容（実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。）</p> <p>第2回から第5回の授業は、幼児への音楽指導経験のある教員による授業である。保育楽器を用いて合奏の実践を行い、年齢に応じた指導法を学ぶ。また、紙芝居（読み聞かせ）、エプロンシアター、音楽劇等のBGM作りを経験することで、保育における楽器の効果的な活用の仕方を学ぶ。第6回から9回の授業は、園長経験のある教員による授業である。秋から冬にかけての子どもの遊びや行事を調べ、自然・素材・教材への理解を深める。遊びの実践体験を通して園での子どもの遊びについて学ぶ。また、現場での実践と結びつくよう事例の提示をしていく。第10回から第14回は、幼稚園、保育所での絵画指導、幼児対象の造形ワークショップの指導経験のある教員による授業である。季節に合わせた制作を取り入れ、子どもが楽しめる行事について理解を深める。また、日本と世界の伝承あそびについて学ぶ。</p>

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術	担当教員名
子どもの生活と遊びⅢ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 前期	・ 実務	堀内 弓子 佐久間 博子
授業の概要 実践内容は、「身体表現」「大型遊具」「小型遊具」「素材遊具を使った遊び」「伝承遊び」等を取り上げる。それぞれの運動特性、遊具の取り扱いの習熟、指導の目標と方法について理解を深める。一方、特に運動発達の視点から幼児教育の根幹である「育みたい資質・能力」を育てる指導・援助のあり方を考える。						
授業の到達目標 日常生活やあそびの中で多様な動きを身につける時期は、乳幼児期である。その動きを身につけることが、丈夫な体を作り、知識を身につけ、工夫し考える力をつけ、友達をつくることにつながっている。この視点から、「多様な動きを育む」ための環境や知識、技術を習得する。						
事前(準備)・事後学習の内容 ・事前学習：各回のテーマに合わせて、1年次教育・保育実習の学びの中で、保育の中の日常身体活動や運動がどのように行われていたかを自らの実習日誌から読み取っておく。(30分) ・事後学習：授業において協同で取り組む課題やレポート作成課題を課すので、返却後はポイントを見返し、再度確認を行う(30分)						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回目：ガイダンス 「人や物とかかわったり触れ合ったりしながら、十分に体を動かす」大切さを知る 身体表現遊び・大型遊具遊び(平均台、マット等) 第2回目：「いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす」意味を知る 乳幼児の遊びの理解を深める 第3回目：「リズムカルな運動遊び」について、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ(1) 歌と鬼あそび・小型遊具遊び(フープ、なわ等) 第4回目：「リズムカルな運動遊び」について、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ(2) 昔の子どもの運動遊びを調べる 第5回目：「イメージを膨らませて行う身体表現遊び」について、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ(1) 身近な生き物をイメージした遊び・大型遊具遊び(マット、とび箱等) 第6回目：「イメージを膨らませて行う身体表現遊び」について、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ(2) 段ボールを組み合わせた物体をいろいろなものに見立ててイメージを膨らませた身体表現遊びを考える 第7回目：「伝承遊びの中の運動遊び」について、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ(1) 歌の入った運動遊び・各種鬼ごっこ 第8回目：「伝承遊びの中の運動遊び」について、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ(2) 保育内容にふさわしい伝承遊びの中の運動遊びを調べる 第9回目：「身近な素材を使った遊び」について、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ(1) スズランテープ、布(バルーン)を使った遊び 第10回目：第1回～第9回で体験した運動遊びや自分で調べた運動遊びを基に保育現場で実際に子どもと行ってみたい遊びの指導案作成を行う。						

<p>第11回目：子どもにとっての模倣あそび</p>	<p>子どもにとって模倣の発達、例えば人や物の動きをよく見ようとする力や動きをコントロールする調整力等、模倣運動から得られる発育発達を理解し、子どもにとって楽しめる模倣あそびを考え、まとめる。</p>
<p>第12回目：オリンピック・パラリンピックを知ろう</p>	<p>オリンピックイヤーに因み、オリンピックの歴史や開催の意義、競技種目について調べ、知識を得る。また、オリンピックを通してスポーツや運動に親しむ気持ちや、連帯感、フェアプレーなどについて子どもにどのように伝え、運動に対する意識を高めるかについて考え、まとめる。「走る」「跳ぶ」「投げる」などの基本的な動作から具体的な運動あそびを学ぶ。</p>
<p>第13回目：屋外での運動あそび</p>	<p>自らが、戸外で体を十分に動かす気持ちよさを体験する。さらに子どもが「楽しい」と感じることができるよう、運動の種類や動きの多様性を学び、安全を考えたルールや注意点をおさえる。</p>
<p>第14回目：室内での運動あそび ～伝承遊び～</p>	<p>保育室やホールなどの室内で安全に楽しめる運動あそびを考え、遊びを通して生まれる協同性や道徳性を理解する。</p>
<p>第15回目：廃材遊び</p>	<p>道具や遊具などを用いる遊び、用いない遊びを考え、あそび方の知識を広げ、体験することで、その特長や楽しみ方を知る。</p>
<p>子どもの生活の中で身近なもの、例えば新聞紙やトイレトーパーの芯、空き箱や紙袋などの廃材を利用した様々な遊びを知る。子どもが素材に興味を持ち、自分なりに工夫したり試したり、友達と共有したりしながら作って遊ぶことを楽しめるような指導法を学ぶ。</p>	
<p>テキスト 橋本妙子・堀内弓子著『子どもの運動あそび』啓明出版</p>	
<p>参考書・参考資料等 授業内で随時、紹介する。</p>	
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。 ・提出物については、最終回にフィードバックして再確認を行う。 ・小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 	
<p>学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(50%)と課題やテスト、ノート等の提出物(50%)の総合評価</p>	
<p>実務経験 堀内弓子(保育所体育指導)、佐久間博子(幼稚園体育講師)</p>	
<p>実務経験を活かした教育内容 授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。</p>	

授業科目名 保育方法論 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 神蔵 幸子
	選択	必修	必修	開講期： 2学年 後期		
授業の概要 保育は「環境を通して行う」ことを基本としており、保育者には乳幼児の発達を理解し、それぞれの段階にふさわしい保育を展開することが求められている。「遊びを通しての総合的な指導」の観点のもとに、さまざまな保育方法の具体的展開と工夫について学ぶ。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な保育形態および保育方法について学び、場面に応じた保育方法の選択ができる。 ・保育実践例について考察することにより、子どもの発達に応じた保育方法について応用することができる。 						
事前(準備)・事後学習の内容(目安時間) 事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、保育原理、保育内容指導法等で学んだ関連箇所を読み、基礎的な事項について理解しておくこと。また、実習等の体験をふり返り、各テーマに対応した実践場面を選び、自己の課題を考えておくこと(2時間)。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画 第1回： 保育形態と保育方法の多様性 第2回： 一日の流れにおける保育方法 第3回： 子どもの発達理解と保育方法①—年齢の違いによる保育教材の展開の工夫 第4回： 保育教材についてのグループワーク 第5回： 子どもの発達理解と保育方法②—年間を見通した指導法の配慮 第6回： 保育記録から保育方法を見直す 第7回： 環境構成と保育の展開①—計画的な環境の構成 第8回： 季節を捉えた環境構成についてのグループワーク 第9回： 環境構成と保育の展開②—子どもの興味関心を活かして 第10回： 環境構成と保育の展開③—個と集団の相互の発展 第11回： 行事を生かした保育の展開 第12回： 家庭・地域・小学校との連携 第13回： 家庭との連携についてのグループワーク 第14回： 保育内容の変遷と現代の保育方法						

第15回：第1～14回目の学習内容の振り返り・確認の小テストと解説

テキスト

特に指定しない。

各回の授業時に資料を配布する。

参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省

神蔵幸子・中川秋美編著『保育を支える生活の基礎』萌文書林

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・各回の授業の省察の記録については、内容を確認し必要に応じてコメントを付して返却する。
- ・グループワークによる製作物と発表については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。
- ・小テストについては、終了後解説を行う。

学生に対する評価

小テスト（30％）、グループワークによる発表（30％）、授業への意欲・参加度（20％）、指定用紙による授業の省察の記録（20％）、

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 実務	担当教員名
保育環境構成技術(音楽) I (専門教育科目)	選択	必修	本学 指定	開講期： 1学年 通年		篠原万喜子 中村みどり 梅原恵子 佐々木美奈子 中村美雪 大石由起子 花田えり佳
授業の概要 表現活動を行うための基礎技能・知識を習得し、表現力を身に付ける。 現場に備えられていることの多いピアノを用いながら、表現する技術を習得する。						
授業の到達目標 初心者、楽典の基礎やピアノ実技の基礎的な技術を習得する。並行して、保育現場で必要な、やさしい童謡の伴奏を弾きながら歌えるようになる。前期は春と夏の童謡を、後期は秋と冬の童謡を中心に取り組む。 経験者は、童謡や行事のうたを中心に、季節に関わらず合奏や弾き歌いができるようになる。 また、実習に備え、生活のうた・実習で行う曲を習得する。						
事前(準備)・事後学習の内容(目安時間) 事前学習：教材とピアノ実技計画一覧をもとに、それぞれの経験に合った形で、授業で出た次の課題内容を練習しておく(2時間)。 事後学習：その日の授業内容を復習し、担当教員から提示されたところを練習する(2時間)。						
ディプロマポリシーとの関連 DPII④						
授業計画 第1回目：MLシステムの楽器の使い方 指番号と、高音部譜表の音符の読み方の習得(メト・ローズ P.4~P.7) 第2回目：高音部譜表と低音部譜表の音符の読み方(メト・ローズ P.6~P.11) 第3回目：音符の種類 右手と左手を異なる音部記号を見ながら同時に動かす練習(メト・ローズ P.8~P.13) 第4回目：休符の種類 スラーとスラーを切る練習(メト・ローズ P.12~P.14) 0.1才児へ向けた童謡 第5回目：拍子記号・リズムとソルフエージュ 左手の分散和音の伴奏形態を習得(メト・ローズ P.14~P.15) 0.1才児へ向けた童謡 第6回目：#、b、4記号の理解 ソのポジションを習得(メト・ローズ P.15~P.17) 2才児へ向けた童謡 第7回目：加線の理解 いろいろのポジションを習得(メト・ローズ P.17~P.19) 2,3才児へ向けた童謡 第8回目：1年次教育・保育実習の準備 6度音程の習得(メト・ローズ P.20~P.21) 3,4才児へ向けた童謡 第9回目：1年次教育・保育実習の準備 付点音符の練習(メト・ローズ P.20~P.23) 4,5才児へ向けた童謡 第10回目：1年次教育・保育実習の準備 シャープ記号の練習(メト・ローズ P.22~P.25) 4,5才児へ向けた童謡 第11回目：楽典前期の復習 休符の練習(メト・ローズ P.24~P.27) 4,5才児へ向けた童謡 第12回目：前期学習内容の振り返り 8分音符の習得(右手のみ)(メト・ローズ P.28~P.29) 2才児、5才児 へ向けた童謡 第13回目：前期学習内容の振り返り 8分音符の習得(左手にも8分音符を入れる)(メト・ローズ P.28~P.31) 0才児~5才児へ向けた童謡 第14回目：発表の準備 課題曲の練習 第15回目：広い教室で課題曲発表 第16回目：リズムとソルフエージュ 付点音符の習得(メト・ローズ P.32~P.33) 第17回目：長音程と短音程 付点音符の習得(メト・ローズ P.32~P.33) 1,2才児へ向けた童謡 第18回目：完全音程 フラット記号の習得(メト・ローズ P.33~P.35) 1,2才児へ向けた童謡 第19回目：主要三和音と属七の和音 3/8拍子と6/8拍子の習得(メト・ローズ P.36) 3,4才児へ向けた童謡 第20回目：長音階と調号 和音の転回形 第19回目の応用曲の練習(メト・ローズ P.36~P.37)						

3,4才児へ向けた童謡

- 第21 回目：長音階とカデンツ 親指をくぐらせる練習 (メトードーズ P. 38) 3,4才児へ向けた童謡
第22 回目：長音階とカデンツ 復習と4課のまとめ (メトードーズ P. 38～P. 39) 4,5才児へ向けた童謡
第23 回目：長音階とカデンツ 2つ以上の音を一度におさえる練習 (メトードーズ P. 40) 4,5才児へ向けた童謡
第24 回目：短音階と調号 応用曲の練習 (メトードーズ P. 40～P. 41) 4,5才児へ向けた童謡
第25 回目：やさしい伴奏付け 復習とラの短調のポジションを習得 (メトードーズ P. 40～P. 43) 4,5才児へ向けた童謡
第26 回目：やさしい伴奏付け 復習とソの短調のポジションを習得 (メトードーズ P. 43～P. 45) 2才児～5才児へ向けた童謡
第27 回目：後期学習内容の振り返り 復習とレの短調のポジションを習得 (メトードーズ P. 45～P. 46) 2才児～5才児へ向けた童謡
第28 回目：後期学習内容の振り返り 5課の復習 (メトードーズ P. 46～P. 47) 2才児～5才児へ向けた童謡
第29 回目：発表の準備 課題曲の復習
第30 回目：広い教室で課題曲を発表

テキスト

安川加寿子訳編『メトードーズ・ピアノ教則本』音楽之友社
吉田梓監修『子どもとたのしむ童謡カレンダーVol. 1. Vol. 2』音楽之友社
山本英子著『ぴあののアトリエ楽典レッスン1. 2』共同音楽出版社

参考書・参考資料等

基礎的楽典等のプリントやピアノ実技計画一覧を配布する。
必要に応じて弾きやすいプリントを作成し資料として使用する。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

課題発表後、未習得者へは、補修を行い指導する。

学生に対する評価

音楽の基礎知識定着度（40%）、課題発表における音楽表現力（40%）
グループレッスンを受けるにあたり、事前学習、事後学習を含めた積極的に取り組む姿勢（20%）の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
保育環境構成技術(音楽)Ⅱ (専門教育科目)	選択	本学 指定	本学 指定	開講期： 2学年 通年		篠原万喜子 中村みどり 梅原恵子 佐々木美奈子 中村美雪 大石由起子 花田えり佳
授業の概要 表現活動を行うための幅広い技術・知識を習得し、表現力を身に付ける。 現場に備えられていることの多いピアノを用いながら、表現する技術を習得する。						
授業の到達目標 必要な楽典を学び、ピアノ教則本を最後まで習得する。終了した学生は、マーチ・小曲集の中から選曲し、音楽の幅広い表現力を身に付ける。 音楽Ⅰの曲より一段難しくなった童謡や行事の弾き歌いを習得する。また実習に備え、生活のうたや子どもたちと楽しめる音楽活動内容、実習園より指定の曲なども学ぶ。						
事前(準備)・事後学習の内容(目安時間) 事前学習：教材とピアノ実技計画一覧をもとに、それぞれの経験に合った形で、授業で出た次の課題内容を練習しておく(2時間)。 事後学習：その日の授業内容を復習し、担当教員から提示されたところを練習する(2時間)。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画 第1回目：保育実習での音楽表現の振り返り 指を広げる練習と連打音の習得(メト・ローズ P.48～P.49) 第2回目：強弱をつけて表現を学ぶ(メト・ローズ P.50) 3.4 才児へ向けた童謡 楽典 第3回目：強弱をつけて表現を学ぶ(メト・ローズ P.50～P.51) 3.4 才児へ向けた童謡 楽典 第4回目：右手と左手を交互に強弱をつける(メト・ローズ P.52) 4.5 才児へ向けた童謡 楽典 第5回目：右手に表情をつけながら左手の伴奏にも強弱をつける(メト・ローズ P.52～P.53) 4.5 才児へ向けた童謡 楽典 第6回目：和音を弾く練習(メト・ローズ P.54) 4.5 才児へ向けた童謡 楽典 第7回目：2年次教育・保育実習の準備 音をのびしながら和音を弾く練習(メト・ローズ P.55) 楽典 第8回目：2年次教育・保育実習の準備 音階の習得(メト・ローズ P.56) 楽典 第9回目：2年次教育・保育実習の準備 全課のまとめ(メト・ローズ P.57) 楽典 第10回目：2年次教育・保育実習の準備 楽典の確認 第11回目：0才～3才児へ向けた童謡 付点音符のリズムとそうではないリズムの組み合わせを習得 第12回目：0才～5才児へ向けた童謡 和音で付点音符のリズムを習得 第13回目：0才～5才児へ向けた童謡 第14回目：発表の準備 課題の練習 第15回目：広い教室で課題曲を発表 定期試験 第16回目：教育・保育実習での音楽表現の振り返り 第17回目：4.5才児へ向けた童謡や合奏 第18回目：4.5才児へ向けた童謡や合奏 第19回目：4.5才児へ向けた童謡や合奏 第20回目：4.5才児へ向けた童謡や合奏 第21回目：4.5才児へ向けた童謡や合奏 第22回目：4.5才児へ向けた童謡や合奏						

<p>第23回目：0才児～5才児へ向けた童謡</p> <p>第24回目：0才児～5才児へ向けた童謡</p> <p>第25回目：0才児～5才児へ向けた童謡</p> <p>第26回目：0才児～5才児へ向けた童謡</p> <p>第27回目：発表の準備 課題の復習</p> <p>第28回目：発表の準備 課題の復習</p> <p>第29回目：発表の準備 課題の復習</p> <p>第30回目：広い教室で課題曲を発表</p>
<p>テキスト</p> <p>安川加寿子訳編『メトードローズ・ピアノ教則本』音楽之友社</p> <p>吉田梓監修『子どもとたのしむ童謡カレンダーVol.1.Vol.2』音楽之友社</p> <p>山本英子著『ぴあののアトリエ楽典レッスン1.2』共同音楽出版社</p> <p>マーチのプリント配布 吉田梓編著『ピアノ・レッスン』エー・ティー・エヌ</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>楽典他のプリントやピアノ実技計画一覧を配布する。</p> <p>必要に応じて弾きやすいプリントを作成し授業内で紹介、配付する。</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>課題発表後、未習得へは、補修を行い指導する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>実技授業を受けるにあたり、事前学習、事後学習を含めた積極的に取り組む姿勢、態度（40%）と半期ごとの課題発表や筆記試験（60%）の総合評価</p>

授業科目名 保育・教職実践演習 (幼稚園) (専門教育科目)	卒業	幼児	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学術</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">実務</div>	担当教員名 佐藤寛之、本田幸 (他に専任教員 15 名、 非常勤講師 梅原正美)
	選択	必修	必修	開講期： 2 学年 後期		
授業の概要 幼稚園教諭・保育士になるために必要な実践力に関して、「幼児教育・保育者の役割、職務内容、責任感、使命感、教育的愛情」「社会性、対人関係能力」「幼児理解、クラス経営」「教科、保育内容の指導力」の観点から、各自の修得状況を総合的に自己分析・診断する。保育及び福祉の各専門分野の教員の授業から、保育の理論と実践をもう一度振り返る。保育者となるために、各自新たな課題を意識するとともに、それぞれの専門性を自分のものとする。各授業での実践や演習課題に取り組み、総合的な保育の学びへと結びつける。この科目全般を通して、「子どもに寄り添う保育」とは何か、「保育の総合性」を学ぶ授業を行う。						
授業の到達目標 幼稚園教諭・保育士になるために必要な「幼児教育・保育者の役割、職務内容、責任感、使命感、教育的愛情」「社会性、対人関係能力」「幼児理解、クラス経営」「教科、保育内容の指導力」に関する資質を強化するために、各自が自分自身の課題・目標を設定し、演習、学習活動に取り組むことにより、幼稚園教諭、保育士、保育教諭に必要な実践力の底上げを図り、その能力的統合を行うことで、卒業までに各自可能な限り、保育・教育実践に必要なコンピテンシーを向上させる。さらに、授業の最終段階において、これまでのすべての学びを振り返ることで、卒業後、保育専門職者として職務遂行において更なる強化、取組が必要だと考える課題を見いだすことにより、向上心を持ち、向上する方法を知る保育専門職者として職場に立つことができる。						
事前（準備）・事後学習の内容 初回授業前（2 時間以上）、これまでの全教科の学習内容、特に 2 回の教育実習、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ等の学習内容をしっかり再確認しておくこと。今までの学びを通して、幼児教育者・保育者に求められることは何かを整理しておくこと。 各回の授業前には、テキストの該当する部分に目を通しておくこと（事前準備 2 時間）。 授業後は、すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習 2 時間）。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①、DPⅡ②、DPⅡ③、DPⅡ④						
授業計画 第 1 回目：この科目の目的・趣旨（履修カルテ、学習成果の振り返り） 第 2 回目：保育という営み 第 3 回目：保育内容について学ぶ（1）領域【健康】 第 4 回目：保育内容について学ぶ（2）領域【環境】 第 5 回目：保育内容について学ぶ（3）領域【表現】音楽 第 6 回目：保育内容について学ぶ（4）領域【表現】造形 第 7 回目：保育の計画及び評価 第 8 回目：文化と保育（1）手あそびうたで育ちあう 第 9 回目：文化と保育（2）保育の中の多文化 第 10 回目：健康及び安全 第 11 回目：保育と福祉の接点（1） 第 12 回目：保育と福祉の接点（2） 第 13 回目：保育とコミュニケーション 第 14 回目：保育者になるあなたへ 第 15 回目：まとめ（履修カルテ、学習成果の振り返り）						

<p>テキスト</p> <p>佐藤寛之他編著，授業担当教員著『保育・教職実践演習第2版』 学校法人白峰学園 横浜女子短期大学 授業内容に応じて必要な教材資料を配布。必要な図書資料について指示。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要な参考書、参考資料については授業内で紹介を行う。</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面授業では、各授業の最後にその授業のまとめ、振り返りと課題学習に関するコメント伝達を実施する。 ・対面授業、遠隔授業の課題は、逐次的に指導担当教員の評価・コメント等のフィードバックを行う。
<p>学生に対する評価</p> <p>授業に積極的に取り組む態度（10%），各授業の演習課題評価点の合計（90%）を合わせて総合的に評価する。</p>
<p>実務経験（職名）</p> <p>鵜野澤武美（幼稚園教諭，幼稚園園長），佐久間博子（幼稚園体育講師），平澤順子（保育所保育士），梅原正美（現職保育所所長），滝口節子（保育所保育士），渡邊悦子（看護師，助産師），佐野眞弓（保育所保育士，幼稚園教諭，公立保育園園長，幼稚園園長，幼保一体園園長歴任），本田幸（幼稚園教諭）</p>
<p>第2回及び第14回の授業は、園長経験のある専任教員を含む実務経験者による授業である。</p> <p>第4回は現職保育所の所長であり、本学の非常勤講師による授業である。特に、領域「環境」における保育内容、子どもと自然環境について現場の保育実践を踏まえた実践的内容である。</p> <p>その他、実務経験のある教員による具体的な保育実践に結び付く授業である。</p>

授業科目名 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅰ (専門教育科目)	卒業 選択	幼児	保育士 必修	授業形態： 演習 単位数： 2単位 開講期： 1・2学年 通年	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 スティーブントムソン 滝口 節子 鵜野澤 武美 平澤 順子 石山 直樹
授業の概要 保育実習Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅰ（施設）の事前・事後の学習を中心に行います。実習の意義・目的の理解、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項（人権・プライバシーの保護と守秘義務等）の理解、実習の計画・実践と記録・評価の理解、事後指導における実習の総括と課題の明確化を行います。また、2年間を通して、保育者になるための実習の学びの記録として、各自が創意工夫を基に「私の実習ノート」を仕上げます。						
授業の到達目標 ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。 ・施設の保育者の専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる。 ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識が明確化する。						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく（1時間） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する（1時間）						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①②③④						
授業計画 第1回： 授業オリエンテーション 第2回： 実習の意義・目的・内容の理解 第3回： 実習の段階・内容・方法の理解 第4回： 子どもの生活と遊びの理解 第5回： 子どもの生活と発達の理解 第6回： 保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領を学ぶ① 第7回： 保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領を学ぶ② 第8回： 実習記録日誌・（部分）指導案の意義と書き方① 第9回： 実習記録日誌・（部分）指導案の意義と書き方② 第10回： 保育技術の実践（絵本、紙芝居、パネルシアターの実践方法） 第11回： 保育技術の実践（手遊び、製作などの実践方法） 第12回： 指導案に基づく保育実践 第13回： 映像による児童養護施設の理解 第14回： 児童養護施設の概要 第15回： 映像による保育所の理解 第16回： 保育実習Ⅰ（保育所） 事前学習①（日誌） 第17回： 保育実習Ⅰ（保育所） 事前学習②（学ぶべきこと） 第18回： 保育実習Ⅰ（保育所） 事前学習③（課題を立てる・日々の目標） 第19回： 1年次・2年次の話し合いによる学びの強化（1・2年合同） 第20回： 実習オリエンテーション（冬期集中）：指導計画の立案の基本と作成法 第21回： 実習オリエンテーション（冬期集中）：実習の心得など 第22回： 保育実習Ⅰ（児童養護施設） 事前学習①（日誌） 第23回： 保育実習Ⅰ（児童養護施設） 事前学習②（学ぶべきこと・課題と目標） 第24回： 保育実習Ⅰ（保育所） 事後学習① 実習体験の振り返り（観察力・着眼点・行動等の自己評価） 第25回： 保育実習Ⅰ（保育所） 事後学習② 第26回： 保育実習Ⅰ（児童養護施設） 事後学習①実習体験の振り返り（観察力・着眼点・行動等の自己評価） 第27回： 保育実習Ⅰ（児童養護施設） 事後学習②						

<p>第 28 回： 実習記録日誌の書き方の振り返り 第 29 回： 指導計画の立て方の振り返り 第 30 回： 指導計画の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 ・ 保育実習 I として保育所（1 年生の 2 月～3 月）、保育所以外の児童福祉施設（2 年生の 4 月～翌年 1 月）で各 12 日間の実習を行う。
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜女子短期大学 実習テキスト ・ 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 ・ 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ・ 「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府 ・ 保育・教職実践演習 2 版 - 子どもによりそう保育とその学びの総合性 -
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「最新保育資料集」ミネルヴァ書房 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理解度を確保するための小テストや課題等については、各回の授業時に解説を行ったうえで返却する。
<p>学生に対する評価</p> <p>授業参加態度（提出物含む）（20%）、定期試験（20%）、マイノート（40%）、実習報告会（20%）</p>
<p>実務経験</p> <p>岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業） ステイーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ） 滝口節子 保育所の保育士 鵜野澤武美 幼稚園の教諭・園長 平澤順子 保育所の保育士</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。</p>

授業科目名 保育実習指導 保育実習Ⅱ (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 スティーブントムソン 滝口 節子 鶴野澤 武美 平澤 順子 石山 直樹
	選択		必修	開講期： 2学年 通年		
授業の概要 保育実習Ⅱの事前・事後の学習を中心に行います。保育所での具体的な実践を通して、保育所の役割や機能、保育所の子どもと保育、保護者支援、指導計画の作成から評価までの過程、保育士の業務内容や職業倫理について理解し、併せて実習における自己の課題を明確化します。 また、2年間を通して、保育者になるための実習による学びの記録として、各自が創意工夫の基「私の実習ノート」を仕上げます。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。 ・施設の保育者の専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる。 ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識が明確化する。 						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく（30分） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する（30分）						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①②③④						
授業計画 第1回： 児童福祉施設と保育士の仕事の理解 第2回： 保育実習Ⅱ 事前学習①（日誌） 第3回： 保育実習Ⅱ 事前学習②（指導案） 第4回： 保育実習Ⅱ 事前学習③（学ぶべきこと・課題と目標） 第5回： 実習オリエンテーション（夏期集中）：責任実習指導案の作成・ロールプレイ 第6回： 実習オリエンテーション（夏期集中）：実習の心得など 第7回： 実習オリエンテーション（夏期集中）：保育実技（ペープサート、パネルシアターなど） 第8回： 保育実習Ⅱ 事後学習① 実習体験の振り返り（観察力・着眼点・行動等の自己評価） 第9回： 保育実習Ⅱ 事後学習② 第10回： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）① 第11回： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）② 第12回： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）③ 第13回： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）④ 第14回： 実習報告会 第15回： 1年次・2年次の話し合いによる学びの強化（1年・2年合同） <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・保育実習Ⅱ（保育所）として2年生の9月に12日間の実習を行う。 						
テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・横浜女子短期大学 実習テキスト ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府 ・保育・教職実践演習2版 - 子どもによりそう保育とその学びの総合性 - 						
参考書・参考資料等 「最新保育資料集」ミネルヴァ書房						

「保育用語辞典」ミネルヴァ書房
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解度を確保するための小テストや課題等については、各回の授業時に解説を行ったうえで返却する。
<p>学生に対する評価</p> <p>授業参加態度（提出物含む）（20%）、定期試験（20%）、マイノート（40%）、実習報告会（20%）</p>
<p>実務経験</p> <p>岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業）</p> <p>スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）</p> <p>滝口節子 保育所の保育士</p> <p>鶴野澤武美 幼稚園の教諭・園長</p> <p>平澤順子 保育所の保育士</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。</p>

授業科目名 保育実習指導 保育実習Ⅲ (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 実務	担当教員名 岡本 眞幸 スティーブントムソン 滝口 節子 鵜野澤 武美 平澤 順子 石山 直樹
	選択		選択 必修	開講期： 2学年 通年		
授業の概要 保育実習Ⅲの事前・事後の学習を中心に行います。施設での具体的な実践を通して、施設の役割と機能、支援の実際(受容・共感の態度、子ども理解、個別支援計画策定、家庭関係調整、施設内外の連携等)、保育士の業務と職業倫理について理解し、自己の課題を明確化します。いずれの授業も実習を充実したものにするために必要不可欠な内容であるため、全出席が原則になっています。 また、2年11月までに各自が創意工夫して「私の実習ノート」を仕上げます。これは、保育者になるための、実習による学びの記録です。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。 ・施設の保育者の専門性(価値・知識・技術)と職業倫理について理解できる。 ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識が明確化する。 						
事前(準備)・事後学習の内容 事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく(30分) 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する(30分)						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①②③④						
授業計画 第1回目： 児童福祉施設と保育士の仕事の理解 第2回目： 保育実習Ⅲ 事前学習①(日誌) 第3回目： 保育実習Ⅲ 事前学習②(学ぶべきこと) 第4回目： 保育実習Ⅲ 事前学習③(課題を立てる・日々の目標) 第5回目： 実習オリエンテーション(夏期集中)①：実習施設を知る 第6回目： 実習オリエンテーション(夏期集中)②：施設の子どもの理解を深める 第7回目： 実習オリエンテーション(夏期集中)③：施設の保育者の援助方法の理解 第8回目： 保育実習Ⅲ 事後指導① 実習体験の振り返り(観察力・着眼点・行動等の自己評価) 第9回目： 保育実習Ⅲ 事後指導② 第10回目： 実習体験のまとめ(実習報告会に向けて)① 第11回目： 実習体験のまとめ(実習報告会に向けて)② 第12回目： 実習体験のまとめ(実習報告会に向けて)③ 第13回目： 実習体験のまとめ(実習報告会に向けて)④ 第14回目： 実習報告会 第15回目： 1年次・2年次の話し合いによる学びの強化(1年・2年合同) 定期試験 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅲとして、2年次9月に、保育所以外の児童福祉施設で12日間の実習を行なう。 ・実習後に、実習体験(観察力、着眼点、行動等の自己評価)の振り返りを行う。 						

テキスト

横浜女子短期大学 実習テキスト
説明用資料を授業内で配布。

参考書・参考資料等

河合高鋭・石山直樹 編集『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』みらい
『保育福祉小六法（2021年度版）』（株）みらい
『保育・教職実践演習2版-子どもによりそう保育とその学びの総合性-』

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

理解度を確認するための小テストや課題等については、各回の授業時に解説を行ったうえで返却する。

学生に対する評価

授業参加態度（提出物含む）（20%）、定期試験（20%）、実習報告会（20%）、マイノート（40%）

実務経験

岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業）
スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）
滝口節子 保育所の保育士
鵜野澤武美 幼稚園の幼稚園教諭・園長
平澤順子 保育所の保育士

実務経験を活かした教育内容

教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。

授業科目名 教育実習指導 教育実習 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 実習 単位数： 1単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学術</div>	担当教員名 岡本 眞幸 滝口 節子 鵜野澤 武美 平澤 順子
	選択	必修		開講期： 1・2学年 通年	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">実務</div>	
授業の概要 教育実習の事前・事後の学習を中心に行います。その他、実習に臨む学生として必要となる知識・技術・能力を習得し、実習を通しての育ちを確かなものにする活動等に取り組みます。特に各実習の事後指導で、報告書を提出させ、教育実習生としての観察力・着眼点・行動等について自己評価を行います。 また、2年間を通して、保育者になるための実習における学びの記録として、各自が創意工夫の基「私の実習ノート」を作成します。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。 ・施設の保育者の専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる。 ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化する。 						
事前（準備）・事後学習の内容 事前学習：各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく（30分） 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、わからなかったところを調べ、ポイントを整理する（30分）						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①②③④						
授業計画 第1回： 授業オリエンテーション（実習の意義と目的など） 第2回： 観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方① 第3回： 幼稚園と附属幼稚園実習の理解 第4回： 実習体験の振り返り（観察力・着眼点・行動等の評価・指導） 第5回： 観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方② 第6回： 実習の流れ・手続き・書類作成 第7回： 幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育保育要領を学ぶ 第8回： 教育実習 事前学習①（日誌） 第9回： 教育実習 事前学習②（日誌） 第10回： 実習に生かす保育技術 第11回： 教育実習 事前指導③（指導案） 第12回： 教育実習 事前指導④（学ぶべきこと） 第13回： 教育実習 事前指導⑤（課題を立てる・日々の目標） 第14回： 教育実習 事後学習（実習報告書①、②の作成） 第15回： 教育実習 事後学習（実習報告書に基づくグループ討議、全体での情報共有） 第16回： 教育実習 事前学習①（日誌） 第17回： 教育実習 事前学習②（指導案） 第18回： 教育実習 事前学習③（学ぶべきこと・課題と目標） 第19回： 教育実習 事前学習④（実習の心得） 第20回： 教育実習 事後指導（実習報告書①、②の作成） 第21回： 教育実習 事後学習（実習報告書に基づくグループ討議、全体での情報共有） ・定期試験						

<ul style="list-style-type: none"> ・夏期集中オリエンテーション2日間 ・教育実習（幼稚園）として1年生の9月に10日間、2年生の6月に15日間の実習を行う。 ・実習後に、実習体験（観察力・着眼点・行動等の自己評価）の振り返りを行う。
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜女子短期大学 実習テキスト ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府 ・保育・教職実践演習2版-子どもによりそう保育とその学びの総合性-
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「最新保育資料集」ミネルヴァ書房</p> <p>「保育用語辞典」ミネルヴァ書房</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解度を確認するための小テストや課題等については、各回授業時に解説を行ったうえで返却する。
<p>学生に対する評価</p> <p>授業参加態度（提出物含む）（20%）、定期試験（20%）、マイノート（40%）、実習報告会（20%）</p>
<p>実務経験</p> <p>岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業）</p> <p>スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）</p> <p>滝口節子 保育所の保育士</p> <p>鶴野澤武美 幼稚園の教諭・園長</p> <p>平澤順子 保育所の保育士</p>
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。</p>

発行 横浜女子短期大学
〒234 - 0054
横浜市港南区港南台4-4-5
TEL 045 - 833 - 7100 (代表)
FAX 045 - 832 - 7246
発行日 2021年4月1日

学籍番号

氏 名
